

ニ増援シアルノ情報ニ依リ当軍ノ陸軍機ヲ以テ爆撃スヘキ命令アリ之ニ基ク軍命令ヲ下ス

◇十一月二十七日 薄曇リ、夜雨

*大陸命一号及指示(二十二日ノ)到着、指示ハ方面軍司令官ハ此附近ノ鉄道業務ヲ管掌スルコト及先ツ蘇州、嘉興間日々二千屯宛ノ輸送ニ必要ナル人員器材ヲ送付スル旨ノモノナリ
師団司令部ニテハ太湖渡航ヲ渋リ居リシカ如キモ秋山旅団長ハ之ヲ断行シ第一回部隊ハ敵ノ抵抗ヲ受クルコトナク沙塘港北方ニ上陸セリ

16 Dノ追撃隊ハ既ニ無錫常州ノ中間横林鎮ニ達セリ(飛行機報)

飛行隊ニ速ニ蘇州ニ推進及常州推進準備並爾後ノ南京ニ向フ作戦準備ヲ命ス 之カ為野戦築城部長ノ指揮下部隊ヲ協力セシム

一〇・三〇ヨリ西原大佐ト共ニ常熟北側廬山ニ登リ展望ス

16 Dノ伍長(軍砲兵?)支那製地図(五万及二万五千(?)ニテ南京附近)一部150枚許ヲ鹵獲セルヲ以テ直ニ測量隊ニ移シ複製セシム 10 Aノ先頭ハ正ニ宜興及広徳ニ迫リツツアリ

飛行機報、江陰ヨリ砲八門及歩兵200退却、常州及東方ヨリハ多数ノ敵兵西方ニ退却中、鎮江ニハ多数ノ舟アリ

参謀副長ハ蘇州軍司令部点検ノ為同地ニ行キ夕刻帰着

人見大佐夕刻常熟司令部ニ来ル 下枝大佐ハ病氣ナリト

森重副官ハ無錫ヘ行キ11 D 16 D司令部ニ連絡自動車ニテ二時間余リニテ到着スト

兵器部長(福原少将)二十七日飛行機ニテ赴任ノ電報来ル

16 Dヨリ報告 二十六日ノ無錫ノ戦闘ニ於テ敵ノ遺棄屍体ノミニテ三千ヲ下ラス 鹵獲品多数我損害軽微ノ見込

◇十一月二十八日、 好晴

天候恢復ヲ觀世音菩薩ニ祈ルコト連続三回常ニ翌日ハ快晴トナル

*細見戦車大隊長来ル二十六日ニハ輕装甲ヲ集成シ青陽鎮ニ突進各方面ヨリ退却スル多数ノ敵ト戦闘一夜ヲ過シタリト 無錫―江陰道ハ僅カナル補修ニ依リ重車輛ヲ通シ得ヘシトノコトナリ 13 Dノ第一線ハ江陰ノ南方七、八詰ノ線ニ近迫シアリ

許浦鎮ノ揚陸効程甚タ貧弱且同地常熟間ノ輸送量ハ30屯(重量)ニ過キス 漸ク昨日頃ヨリ少シツツ内地ヨリ来レル小舟増加シツツアリ、常熟ノ物資モ敵カ三日間ニ亘リ運ヒ去リシ為大ナル期待ヲカケ難ク無錫亦然リ漸ク補給難ヲ現ハス

二十三日以来許浦鎮方面ニ在リシ神原参謀連絡ノ為来リ更ニ二、三日許浦方面ニ残留ス

午後二・〇〇出發蘇州軍司令部ニ移ル 城外花園飯店及其隣リノ家ナリ

13 Dハ江陰ノ南方五、六詰ニ迫リ敵退却中ナルヲ以テ直ニ之カ攻略ヲ命ス 9 D主力ハ無錫西南方高地帯ノ西端ニ達シ湖上機動部隊ハ遠ク西南方ニ於テ本道ニ出テタルモ正ニ相合スヘシ方面軍参謀長ヨリ南京攻略ヲ命セラルル如ク仄聞ス 依テ前進拠点ノ獲得後方ノ推進戦力ノ充実等著々準備セラレタシトノ電報来ル

◇十一月二十九日 快晴

16 D追撃隊ハ常州東方約三詰阮家塘、白家橋ノ線ニ在ル敵ノ既設陣地ヲ攻撃中、9 D主力ノ先頭ハ常州南方十数詰ニ迫リ在ル筈、昨夜常州以西16 D 9 D間ノ作戦地境ヲ常州中央「クリーク」ヨリ常州西々北約十五詰「クリーク」ノ合流点ニ定ム、11 D追撃隊(22 iノ二大)ハ昨朝無錫ヲ出發シ同師団ヨリハ常州ヲ超ヘ丹陽ニ追撃セシメ度意見具申アリシヲ以テ同師団ハ別方面ニ使用セラルル筈ナルヲ以テ常州ニ集結シ且地方舟ノ蒐集ニ努ムヘキコトヲ電報ス

19 i長ヨリ病氣ノ為9 D司令部附トナリシ下枝大佐来ル

16 D追撃隊ハ正午常州ヲ占領セリ

10 Aハ宜興ヲ占領セリト

大陸命一号は大本營陸軍部命令
号

歩兵大佐 下枝金之輔 22期昭11・
3・28歩一聯隊長 12・11・
22留守九師附

歩兵中佐 細見惟雄 25期(戦車第
5大隊長)

軍ハ16D、9Dニ対シ更ニ有力ナル一支隊ヲ以テ丹陽、金壇附近ノ前進拠点ヲ占領シ南京攻撃準備ヲ命ス

午後三・三〇過 後藤侍從武官ヨリ難有聖旨並令旨ヲ伝達セラレ且御品ヲ賜ル 状況ヲ報告シ作戰經過ハ西原大佐説明、課長以上ト夕食ヲ共ニス

聖旨拝受前、司令部員、附近各隊代表者ニ対シ軍紀ヲ嚴肅ニスヘキコト対空注意ヲ嚴ニスヘキコト司令部員ハ戦況有利ニ進展スルニ從ヒ益々細心周到ニ処置スヘキコトヲ注意ス

方面軍ヨリ南京攻略ノ内命ヲ受ケタルコトノ通報、輸送ニ関シ碇泊場ヲ軍司令官ノ指揮ニ入ラシメラルコト、片山支隊ヲ101D長ノ指揮ヨリ脱シ原所屬ニ復帰セシムルコト、3Dヲ成ルヘク前方ニ進メ将来宜興附近ニテ方面軍第二線兵団トスル予定ナルコトノ命令来ル

13D江陰ニ肉迫シアルモ本日ハ何等ノ報告来ラス

◇十一月三十日

午前八・〇〇侍從武官無錫ヘ出發

武藤大佐ヨリ近ク11Dノ半部重藤支隊ヲ他ニ転用セラルル予定ナルコトヲ西原大佐宛通知アリ

新軍司令官ヲ設ケラルルコトニ決定セリトテ訓示案起草

13Dノ左右兩翼隊ハ江陰市街ノ南方一、二マイルニ近迫シ攻撃中
飛行機ハ城内ノ高射砲ニ射撃セラレタリト

本郷參謀飛行機ニ依ル偵察、武官室等トノ連絡ヨリ歸ル 南京南方ニテハ敵ノ戦闘機ニ追ヒカケラレタリト其得タル情報ノ要旨二十五日蔣介石ノ下シタル命令ヲ昨日傍受、夫レニ依レハ右ハ湖州海寧ノ線ヲ陳誠等ノ軍ニテ左ハ顧祝同司令トナリ(第三戰区司令長官)江陰無錫ノ線ヲ保持シ整理部隊ハ共ニ南方ニ後退セシム 其作戰地境ヨリ見ルモ南京ヲ含ム此辺ノ防禦ハ大キナル意味ノ収容陣地ナルカ如シ

當軍正面ノ敵ノ陣地ハ第一線ヲ丹陽金壇ノ線トモ云ヒ磨盤山々系トモ云ヒ確カナラス(金壇附近未タ陣地ヲ見サルモ我海軍機敵ノ高射砲ニ擊墜サレタリ)南京ノ直接防備同地防衛隊担任スト 今一撃ニ行ケハ容易ニ抜キ得ルモ後方追隨セス、
戰車第五大隊、MG大隊ヲ宜興ニテ10A長ノ指揮下ニ入ラシムヘキ件命令セラル

鷹森大佐蘇州警備隊長トシテ司令部ニ来リ暫ク話ス

常州ヨリ丹陽ニ向フ部隊ノ先頭ハ四・一五奔牛鎮附近ニ達ス

北島參謀ノ言ニ依レハ常州飛行場ハ前進飛行場ニ適スト

川勝高級副官着任ス

敵ハ丹陽、金壇ヲ焼キツツアリ

18Dノ先遣隊ハ本朝広徳ヲ占領セリト丁集團參謀長ヨリ電報アリ

13Dハ無錫北方約三結陳巷上ニテ揮発油多量ヲ鹵獲セリト云フ

安達支隊ハ二十八日無錫西北方約十三結ノ戦闘ニ於テ小銃彈6万手榴彈一万二千其他迫撃砲彈等ヲ鹵獲セリト

将来ノ意見

患者輸送部本部長大尉、部下ノ班長下級職ニテ少佐、又某班長ハ中尉ニテ其下ニ相当古キ軍イ大尉アリ

特設師団ノ編制裝備ノ増強、動員後出勤迄ニ一ヶ月位ノ日時ヲ存スル如クスヘシ

補充員ハ会戦前既ニ戦場ニ到着シアル位ニスルノ要アリ

野戰瓦斯隊長モ瓦斯中隊長ヨリ後任ナリ此種ノモノノ編制ニハ予メ注意シ如此事ナキヲ要ス
聯隊ニハ聯隊附中少佐ヲ置キ聯隊業務ヲ補佐セシメ聯大隊長戦死ノ場合ハ一時的ナリトモ之ヲ指揮シ得ル如クスルヲ可トス

陸軍飛行隊ノ器材訓練ヲ改新スルコト

兵站輜重ヲ含ム、補給機関、患者輸送機関等ハ何等カ新機軸ヲ考案スルコト

歩兵中佐 後藤光蔵 29期

◇十二月一日 晴

10 A、114 Dノ先頭ハ溧陽ニ迫リ18 Dハ広徳ヲ奪取シ花占唐ニ達シアリ。
我集成騎兵ハ尚后陸鎮ニ在リ其前面ニハ敵兵陣地ヲ占領シアリ海軍掃海隊ハ敵ノ閉塞位置ノ下流三漚マテ掃海終了、敵砲艦二隻アリト。

16 D、9 Dハ全力ヲ以テ丹陽、金壇ニ各一部ヲ以テ白兔鎮、薛埠鎮ヲ占領スヘキ件、独工ニ夫々道路補修ノ件命令ス。

三・〇〇ノ電話13 Dノ65 iハ江陰縣城西門ヲ占領其他三聯隊ハ東南側及東方ニ進出セリ。

午後兵器部長福原少将来部、下村第一部長ノ伝言トシテ瓦斯使用ハ國際關係上ハ困難ナキモ御宸念アラセラル、ニ依リ成ル程之ナラハ瓦斯ヲ使用セサルヘカラスト御思召スニ至ラサレハ御裁可アラセラレスト。尚兵器關係ニテハ黃銅ノ輸入出来サルヲ以テ打殼藥來ヲ還送セサレハ砲彈ヲ送り得ス。小銃、々劍ハ国内ノ分既ニ六万ノ不足之又還送スヘシ。砲彈ハ何トシテモ之レ以上製作出来スト木村少将ノ話ナリト。

方面軍司令部ニ行キ居リシ芳村參謀海軍松田青木參謀歸ル。海軍ハ江陰閉塞ノ除去ニ努力シアリ飛行隊ノ主力ハ常州ニ移ル準備ニ着手シアリ。松井司令官ノ伝言、派遣軍ト別ルハ名残惜シ七日頃ニハ御別レニ行ク。

方面軍ノ作戰腹案、鐵道開通ハ七日ノ予定、前進開始ハ五日ノ筈、3 Dハ方面軍直轄、11 Dノ半部、重藤支隊ハ廈門方面ニ使用、江北ニハ応分ノ兵力ヲ使用ス。

方面軍參謀長ニ3 Dハ鎮江ヲ攻撃セシメサルヘカサルヲ以テ軍隸屬ノママトセラレタキ旨電報ス。

參謀次長本日方面軍司令部着、三日ニ軍司令部ニ来ラルル筈（但シ軍司令部ノ前進ニ依リ變更アルヤモ知レス）。

上海附近部隊ニチフス患者発生常州ノ井戸ニチフス菌検出一酸化炭素中毒患者ヲ出シタルニ

依リ注意ヲ出ス。

3 D、9 D、11 Dニ感状授与ノ件認可セラレ臨時兵站部長トシテ上海ニ昨日行キシ上村大佐ヨリ通知アリ処置ス。

◇十二月二日 晴

昨日ハ相当怪シキ天候ナリシモ本日ハ雲高ク薄シ。

3 D田尻參謀長連絡ニ来リ感状、勅語写、奉答文、訓示ヲ渡ス。13 Dハ本朝更ニ城内ノ一部ニ戦果ヲ拡張シ、右翼116ハ「トチカ」鉄条網ヲ有スル敵ノ抵抗ヲ排除シ払曉前「クリーク」渡河北進セリ、16 Dノ先頭ハ九・三〇丹陽東南約五結ニ9 Dノ先頭ハ八・三〇金壇東方約五結ニ達ス、方面軍ヨリ南京攻撃ノ命令来ル。

福原少将ヨリ第一、第三課長ト共ニ昨日ノ如キコト及江陰要塞ノ火砲ハ破壊セスニ鹵獲スルコト、工場機械ハ成ルヘク取得スルコト等ノ話アリ。

二・三〇ニ至リ13 Dハ午前一一・〇〇江陰城及要塞ヲ占領30 C三門高射砲八門其他多数ノ鹵獲砲アリ、巫山砲台占領ノ為ニ既ニ処置セリト。

飛行機ノ報告ニ依レハ9 Dノ先頭ハ金壇城ヲ完全ニ占領シ 午前一一・三〇頃占領セリ。

同時頃16 Dノ先頭ハ丹陽ニ近迫シ砲撃中ナリ。

集成騎兵ハ香山ヲ占領セリ

9、16 Dノ句容、天王寺ニ向フ追撃、11 Dノ一旅団ノ常州ヘノ前進、3 Dノ曹渡鎮ニ向フ前進ヲ命令ス。

經理部長連絡ニ来部、碇泊場ノ水路輸送、及上海蘇浦鎮ノ揚陸ハ依然トシテ進捗セス。

9 Dノ一部ハ三・三〇金壇西方約八結逢枝橋ヲ占領セリ。午前九・三〇頃敵機大場鎮方面ニ襲来爆彈二個投下損害ナント。予メ注意シタルカ如ク今後注意ヲ要ス。

少将 福原豊三 20期（派遣軍兵器部長）

少将 下村 定 20期（參謀本部）

少将 木村兵太郎 20期（兵器局長兼大本營野戰兵器長官）

歩兵中佐 芳村正義 28期（派遣軍參謀）

海軍大佐 松田千秋 海兵44期（派遣軍參謀）

海軍少佐 青木武海 海兵51期（派遣軍參謀）

少将 塚田 攻 19期（方面軍參謀長）

中將 多田 駿 15期（參謀次長）

△「南京攻撃伝宣命令ヲ携ヘ来ル」松井石根日記△（大陸命第八号）

上海派遣軍參謀副長歩兵大佐 上村利道 22期

歩兵大佐 田尻利雄 23期

歩兵第百十六聯隊 長 添田學 大佐 20期

上海派遣軍參謀部第一課長 騎兵大佐 西原一策 25期

第三課長 歩兵中佐 寺垣忠雄 28期

集成騎兵II騎兵第三聯隊・同第九聯隊・同第十七大隊・同第一百一大隊を合わせ、軍直轄部隊として騎兵第九聯隊長・森吾六大佐23期が統一指揮した。
主計少将 根岸莞爾

◇十二月三日 快晴

午前九・三〇過蘇州常熟ヲ經テ無錫北端農學校ノ司令部ニ〇・三〇頃着ク。

正午頃9Dノ先頭ハ薛埠鎮ニ14Dノ先頭亦溧水ニ近接シアリテ敵ハ南京ヨリ南方ニ退却シツアリ。江陰対岸ノ砲台ニ対スル射撃カ砲声ヲ聞ク。16D正面不明、四・三〇頃ニ至リ16D〇

・三〇ノ状況判明、先頭ハ丹陽西方約二里丁莊鎮。

多田參謀次長司令部ニ立寄ラレ御土産ヲ頂キ且幕僚長殿下ヨリ一同ニ金一封ヲ賜ル。

昨日陸軍偵察機二南京ニテ擊墜セラル(敵爆撃機モ落ス)南京ニハ重爆八戰闘機約二十アリ本日陸海軍機ニテ攻撃中ナリ。

四・三〇9D先頭ハ天王寺東方六結石巻附近ヲ師団司令部ハ薛埠鎮東北方約七結ヲ前進中前面ニ敵ヲ見ス。

16Dノ先頭ハ五・〇〇陶巷舖(白兔鎮東方約五結)句容ノ東方ニハ陣地アリ其前面道路ハ阻絶アリ。

江陰要塞ノ獲物ハ32CH榴弾砲、30CH、27K 20K 15K A A等四五門彈藥多キハ千数百少キモ二百発以上、其他詳細未調査トノコト。就中15Kノ中ノ八門ハ独乙製最新式、兵營ハ新式設備、更ニ工場建設中ニテ「セメント」鉄筋等多数残置シアリト。無錫ノ鹵獲ガソリンハ七千缶ト言フ。

◇十二月四日 快晴

侍從武官江陰13Dノ帰途立寄ラル第一線ハ皆元氣ナリト。天谷少將亦天谷支隊トシテ鎮江ニ向フニ付キ来部暫時話ス。16D先頭ハ・四〇倪塘(句容東方約十五結)、9D先頭九・〇〇西王崗(天王寺東方二結)、14D九・〇〇張家山(溧水東方約十三結)ニ在リ各前面敵無キカ如シ。南京ノ敵機ハ海軍ニテ十三陸軍ニテ二日ニ互リ、五機擊墜既ニ逃ケタルカ如シ。

昨夜長中佐帰来民船五百ヲ七日發常州ニ到ラシムト。

十二月一日中支那方面軍戰闘序列ヲ令セラレタリ(書類到着)

各部ハ本日当地司令部ニ来ル。軍イ部長ノ言、敵カ古里村付近「クリーク」ニタンソ菌撒キタル現物ヲ押収且斃馬解剖ノ結果決定セリト。

午後四・〇〇頃9Dノ先頭ハ句容南方約七結二聖橋ニ達シ師団主力ハ之ニ跟随シアリ。16Dハ朝来殆ト前進シアラス。

長山巫山砲台ニ於テ二火砲ヲ鹵獲シ江陰ニハ「ガソリン」約千缶アリ押収ス。

13Dハ一部ヲ以テ江陰対岸砲台及靖江ヲ占領、主力ハ鎮江ヨリ左岸ニ移ル為該方面ヘノ前進ヲ命ス。

兵器部長ノ実見ニ依レハ水雷艇ハ閉塞箇所ヲ通過通航セリ。

無錫ニハ大工場多ク且倉庫櫛比ス、本日白米 軍ノ約一カ月分、塩大麦燕麦多量徵發セリ。

16Dモタ刻先頭ヲ以テ句容東方約六結太平庄ニ進出セリ。

◇十二月五日 朝少シ雲アリシモ後快晴

9D16D共本朝九時頃句容ノ手前四結程ニ在リ。

二・五層觀測鏡及觀測梯使用指導ノ為ノ吉田大尉技本ヨリ来ル。揚陸遲レ(呉淞碇泊約十日)本日漸ク無錫ニ来レリ。消防梯(約三〇級)モ三台来ル筈 其ノ使用者モ何処カノ隊ニ召集サレアリト(氏名ハ判明シアリ)。

朝香宮殿下上海派遣軍司令官トナラセラル 愈々責任ノ重大ヲ思フ、無事ニ奉仕シ得ンコトヲ祈ル(四日発令)。

9Dノ先頭ハ四・〇〇頃既ニ南京東南方約五里ニ達シ前方ニハ二、三百ノ敵兵敗走ス。

方面軍ヨリ南京入城ハ歴史的ニ誇ルヘキ事柄ナレハトノ理由ニテ各師団ノ個々ニ入城スルヲ禁スル統制線ヲ示シ来ル。依テ軍トシテモ城壁ニ日章旗ヲ樹ソルニ止メ部隊ヲ城内ニ入レサル

閑院宮參謀總長

第十一師団第十旅団長 天谷直次
郎 21期

上海派遣軍司令部參謀部第二課長
歩兵中佐 長 勇 28期

(大陸命第七号)それまでは「方面軍ノ編成モ戰闘序列ニ拠ラスシテ、編合集団ノ形式ニ拠ルナト遺憾ノ至リナリ」と、松井石根大將は不服であつた(十一月四日・日記)。

「戰闘序列」とは戦時または事変に際し天皇の發令する作戰軍の編組をいい、これによつて統率・經理・衛生の關係を律した。軍令により作戰上の必要上、數個の軍隊を適宜に組み合わせる「編合」は、はるかに意味が輕く「臨時」のにおいがする。

軍医部長 笹井秀憲軍医少將

技本は陸軍技術本部

如ク電報ス。

重藤支隊ハ明六日、11 Dハ八日発上海ニ到リ乗船準備ヲ為ス命令ヲ下ス（未タ命令来ラサルモ予想シテ下令）、夕刻重藤支隊長ニ御別レニ行ク。

◇十二月六日

朝香宮軍司令官殿下ニハ軍艦「朝夕」ニテ本日午後二・三〇頃上海御着七日軍司令部御着任ト決定セリ。

16 D 20 i ハ南京東方七八里ノ地点ニ9 Dノ先頭ハ東南四里半ノ地点ニ達セリ。

殿下ハ昨日午後三・〇〇上海御着ノ旨ノ電報ヲ一・〇〇見ル。

3 D無錫附近ニ到着シ參謀長及新兵器部長諏訪部中佐来部。

16 D、9 D共ニ敵ノ抵抗ニ会シ主力其線ニ到着セルノミニテ先頭ノ位置変化ナシ。114 D又然リ、其一旅ハ9 D正面ニ転進中ナリト。

軍司令官殿下ハイヨイヨ明七日午後四・〇〇頃御着ノ電報アリ。

11 D（天谷旅団ノミ欠）重藤支隊ハ他ニ転用セラル。

◇十二月七日 快晴

屋外手洗ノ水ニハ五、六分ノ氷張ル 第一線ノ勞苦思ヒヤラル。

殿下ノ御着ハ午後四・〇〇頃（午前九・〇〇上海発）ト定ル。

天谷支隊ハ鎮江東南方ノ鉄条網ヲ有スル敵陣ヲ突破シ本日山砲一中隊ノ追及ヲ待チ高地線ヲ奪取スル筈。

無錫紡績中ニハ新式機械ヲ備ヘタルモノアリ日本人ノ進出ヲ許可セス營業シ我強敵ナリシト依テ報復のニ之ヲ破壊スル考ニテ先ツ豊田ヲ呼ヒ調査スルコトトス。

海軍松田參謀帰来、江陰ノ水路ハ南岸ニ沿フ水道ハ掃海終リ閉塞個処ハ四百餘幅ノ完全ナル通路発見、目下北水道及泊地掃海中トノコトニ安心ス。

砲兵中佐 諏訪部正人²⁵期

芳村參謀13 D及天谷支隊ヘ約一週間ノ予定ニテ派遣ス。
天谷支隊、16 D、9 D共当面ノ敵ヲ攻撃中ナリ。
午後四・〇〇殿下御着。3 D、11 D長モ伺候、司令部員ニ御訓示、御訓示ニ「聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス」旨入レヨトノ仰セ誠ニ畏シ。

◇十二月八日 快晴

八・三〇無錫出發、常州、金壇、丹陽ヲ經テ四・〇〇句容県庁ノ軍司令部着。

9 D、16 D共各当面ノ敵ヲ擊破シ追撃ニ移ル。天谷支隊亦三・三〇頃鎮江要塞ヲ占領ス。13 Dノ沼田支隊モ予定ノ如ク二・三〇河岸砲台ヲ、四・三〇頃靖江ヲ占領、追撃砲、MG、Lg等ノ鹵獲品アリ。

殿下ヨリ、意図シテ軍隊ヲ動かササルコト、仮令方面軍ヨリ何ト言ハル、トモ後ニ戦史のニ見テ正当ト判断セラルル如ク行動スルコトヲ申渡サル。例ヘハ南京攻撃ノ統制線ノ如キ墨守スルニ及ハス、追撃ハ必ス揚子江ノ線ニ向テ為ササルヘカラサルカ如シ、右第一課長ニ伝フ。

◇十二月九日 快晴

9 Dノ旅団司令部ハ高橋門ニ到着砲兵モ展開シアルモ砲撃ハ為シアラス 第一線ハ正ニ飛行場ヲ占領セントスル距離ニ在リ。16 Dノ第一線ハ麒麟門附近ニ於テ頑強ニ抵抗スル敵ヲ攻撃中。

昨日三・三〇頃中島師団長負傷腰部軟部貫通統創ニテ約二週間ニテ治愈見込、殿下ヨリ御見舞ノブドー酒、煙草ヲ持チ小出軍医ヲ派遣サル。

芳村參謀ヨリ13 Dヲ先ニ鎮江ニテ渡河セシムトノ電報来ル。変更セシムル要ヲ認メス認可セリ。

本朝殿下ヨリ殿下カ皇太后陛下ヨリ下賜セラレタル真綿チヨツキヲ賜ハル感泣ノ外ナシ。

歩兵第二十六旅団長 少將 沼田
徳重¹⁹期

幕僚一同、皇太后陛下下賜ノ御菓子ヲ分タル。

中島師団長ノ負傷御見舞ノ為武官ヲ小出軍医ニ同行セシメラル。

13 Dニ交代スヘキ11 Dノ民船数百隻ハ13 Dノ受領遅シトテ11 Dハ之ヲ全部解散セシメ爾後ノ計画ニ非常ナル齟齬ヲ来シアリ非常「識」モ甚シ幕僚勤ム上大ニ注意ヲ要ス。

芳村参謀13 Dノ青津参謀ト同伴帰部江陰渡河及靖江攻略ノ概要ヲ聞キ13 D主力ノ爾後ノ渡江作戰等ノ打合ヲ為ス。青津参謀ハ其予想渡河点（儀徴対岸付近）ノ偵察及準備ノ為先行セルモノナリ。

一・三〇ヨリ作戰經過ヲ第一課長ヨリ御説明。9 Dノ第一線ハ城壁ノ前方約千餘内外ニ近接シアリ16 Dハ城壁ヨリ二里乃至四里ノ線ニ進出シアリ。南京市内外ニハ高射砲高射機関銃ヲ配置シ市内主要道路ニハ30餘間隔位ニ兵ヲ配置シアリトノコト。

塚田少将一行来部。南京入城（攻略）法ニ就テ方面軍ニテハ勸降状トカ統制入城トカ平時の気分濃厚ナル為軍司令官殿下ノ御氣ニ入ラス。

殿下ノ御意図トシテ海軍ニ夜間ノ南京付近支那船ノ爆撃要求（通信ノ關係上間ニ合ハサルヘシ）及16 Dノ有力ナル部隊ヲ以テ下関ノ退路遮断ヲ処置ス。

◇十二月十日 曇リ

9 Dノ36 iハ城壁外「クリーク」ノ線ニ達シアルモ河幅広ク壁高ク遂ニ昨夜ハ突撃準備出来ス其他ノ正面ハ尚城外ノ陣地攻撃中。

勸降状ハ昨日正午頃撤キ本日正午カ期限ナリ。

午前第二、三課長ノ後方状況報告。

正午ニ至ルモ軍使来ラス方面軍ヨリ攻撃命令下ル。

III/35 iハ33 iト共ニ中山陵高地ノ「トチカ」ニ抛ル敵ヲ攻撃之ヲ奪取シタルモ同大隊長及中隊長戦死セリト。

五・〇〇36 i第一中隊城門ニ突入セリ。更ニ電話アリ第四中隊モ突入シ日章旗ヲ振りツツアリ。

三日間許リ押目大尉ト共ニ常州飛行場ニ到リ押目ノ操縦ニテ偵察ニ従事シタル大内大尉帰来南京付近ノ彼我ノ状況及江北ノ地形敵情ノ報告ヲ聞ク。

11 D等ノ第五軍戦闘序列編入ノ命令来ル（書類）。

夜衆議院慰問団十一名来リ殿下ニ拝謁仰セ付ケラル。

9 Dノ南京城門ニ日章旗ヲ樹タル御喜ヒヲ殿下ニ申上ケ思ハス感泣ス。西原大佐ヲモ呼ハセラル祝杯ヲ賜ハル。

殿下ノ御思召ニ依リ各師団、天谷支隊、内山旅団ニ皇太后陛下ヨリ頂カレタル御菓子ヲ賜ハル。

◇十二月十一日

午前九・三〇頃殿下ニ從ヒ軍司令部出發、湯水鎮西方高地ニ到リ戦況ヲ視、第十六師団長ノ報告ヲ聞キ午後三・三〇過帰部。

靖江東方新港鎮ヨリ西方ニ敵ノ視發機電照準所アリ我特設掃海艇一撃沈サレタルヲ以テ、靖江守備隊ノ一部ヲ以テ此敵ヲ掃蕩セシムヘキ命令ヲ出サル。

集成騎兵ハ軍ノ右翼ニ転用。

尚13 Dノ歩一聯 山砲一大ヲ以テ南京東北方ノ砲台ニヲ攻略シ兼テ16 D佐々木旅団ノ進出ヲ容易ナラシムヘキヲ命セラル。

支那ハ逐次ソ式飛行機ヲ使用シ始メタルモノノ如ク南昌ニ約四十機アルヲ知り一昨日海軍中攻及戦闘機襲撃空中戦ニオイテ9機撃墜（我一機ヲ失フ）飛行場ニテ十数機ヲ爆破セリト。

本日及川恩賞課長来リシ由ナルモ会ヘス。

慰安施設ノ件方面軍ヨリ書類来リ実施ヲ取計フ。

歩兵少佐 青津喜久太郎^{31期}

独立飛行第六中隊長 押目音次郎^{37期}（中隊は九四式偵察機九機）

歩兵少佐（大尉は誤記） 大内鏡^{33期}

「第五軍司令官ノ任務ハ海軍ト協同シテ南支沿岸及其附近ノ島嶼ヲ占領シ航空作戰ニヨリ広東方面ニ於ケル敵ノ補給ヲ阻止スルニ在リ」（昭和十二年十二月七日・大陸命第二十三号）

野戦重砲兵第五旅団（第十一・第二十聯隊）三八式十五榴計四十八門）長・少将 内山英太郎^{21期}

歩兵大佐 及川源七^{23期}

*本郷参謀9 Dヨリ三日振リニ帰来其報告スル処ニ依レハ36 iノ淳化鎮ノ突破殊ニ土橋鎮ヨリノ夜間追撃ハ迅速果敢ニシテ敵ノ予備隊等ハ民家ニ寢込ヲ襲ヒ光華門ニ未明達シタル頃ニハ敵兵城門外ニ漫歩シアリ慌テテ之ヲ閉シタリト。尚城壁一番乗リハ城門上ヲ山砲ニテ射撃シ其土砂及土壤ノ崩レタル急坂ヲ駆ケ登リタルモ真ノ壁上ニハ達セス、中腹ニテ敵ハ昨夜ヨリ本日ニカケ大逆襲ヲ行ヒ甚タ危険ナル状態ヲ呈ス。其頃到着セル重砲及山砲ヲ以テ四、五〇發離レタル城壁ニ更ニ突撃路ヲ作り且其砲撃ニ依リ逆襲部隊ノ後退セルニ乗シ壁上ニ兵力ヲ増シ且Lgモ上ケ防戦中ニテ本日午後ニハ約一大隊上リタルモノ如シ。

〔クリーク〕ノ橋ハ敵兵破壊スル暇ナカリキ

9 Dノ右翼35 iハ16 Dノ左翼隊ヨリ大ニ進出シ本日中山門ノ前面一〇〇發位ニ達セリ。

10 Aノ国崎支隊ハ本日夕刻揚子江左岸ニ移リ烏江鎮（南京上流約八里）ニ進出セリト。

3 Dノ一部（68 i）ヲシテ南京城武定門ヲ攻撃セシメラル、明日正午頃迄ニハ戦場ニ到着シ得ヘシ。道路ノ關係上師団砲兵ヲ伴ヒ得サルヲ以テ考慮シタルモ軍砲兵ノ一部ニテ協力セシムルコト、シ師団ノ希望モアリ其名譽ノ為ニ参加セシム。

国崎支隊左岸ニ移リタル報ニ殿下モ何トカシテ13 Dヲ早ク渡シ津浦線ヲ遮断シ得サルヤト多少焦慮セラル。

◇十二月十二日 快晴

朝九・三〇出発湯水鎮軍司令部（兵工署彈道研究所アルコト確實 多分科学研究所ナラン↓新築イ科大学？）ニ移ル。鎮江対岸ノ小島ニ在ル砲台ハ天谷支隊昨日午後五・〇〇、図山要塞ハ昨夜一〇・〇〇13 Dノ一部占領セリ。

海軍ノ第十一水雷戦隊（？）ハ既ニ南京ニ近キ烏竜廟要塞ニ砲撃サレ其下流ニ停止シアリト。

佐々木支隊ハ当面ノ敵陣地ヲ突破シ前進中。33 iハ紫金山第一峯ノ敵陣ノ一角ヲ奪取、戦果

拡張中ニシテ山上煙ニ掩ハル。

9 D右翼正面ハ城壁二個所ニ突撃路構成中。

6 D又西南角ニ対シ攻撃ヲ開始セリト。

五・三〇紫金山ハ33 i之ヲ占領セリ、我母隊ノ軍旗ノ榮譽ヲ揚ケタルヲ喜フ。33 iハ16 D中ノ精銳ナリ。

9 iハ中山陵ニ向ヒ夜襲ス。

16 Dノミニ行キ9 Dニ行カサルハ氣ノ毒殊ニ同師団ハ上海以来苦勞シアリ光華門ニ一番乗リモセリトノ仰セナルモ御道筋危険ニツキ一日御延期ヲ乞フ、「勿論他ノ理由ニテ」。

*佐々木旅団ハ夕刻先頭ヲ以テ和平門ニ達セリ。

国崎支隊ハ一・〇〇江浦ニ進出ス。

夜恩賞課ノ佐藤中佐来リ午前一・〇〇迄種々話シス。

◇十二月十三日 快晴

敵ノ大部ハ退却シ16 Dハ中山門ヲ入り9 Dハ光華門ヨリ戦果拡張中。敗残兵一中隊許リ33 iト佐々木支援ノ中間ヲ東方ニ退却セリト。

天谷支隊ノ先頭部隊ハ本朝上陸ニ成功セリ。13 Dモ海軍ノ協力ニ依リ明日ヨリ渡江シ得ル旨芳村参謀ヨリ電報アリシヲ以テ南京ニ向ヘル支隊ヲ除キ鎮江ニテ明日ヨリ渡江ヲ命セラル。

午前一一・〇〇頃出發軍司令部官ニ從ヒ高橋門9 D長ノ許ニ到ル。午後一・〇〇同地発歸部、其直後高橋門西方千餘許ノ我砲兵陣地敵ニ爆撃サレタリト。往路敵ノ敗残兵本道北側高地方面ニ来リシカ此者午後軍司令部北側高地ニ来リ護衛隊之ヲ西方ニ撃退、小隊長（准尉）一戦死、兵一名負傷、午後五・〇〇頃再ヒ北側高地ニ現ハレ高射砲モ射撃シテ交戦ス。敗残兵ノ他ノ一団ハ、東方ヨリ13 Dノ砲台占領部隊、北方ヨリ佐々木部隊、南方ヨリ騎兵及33 iノ各一部ヨリ包圍サレ彼我混入シテ乱闘中ナリト。

騎兵少佐 本郷忠夫 32期

支隊長 少将 国崎登 19期 II 歩兵
第九旅団（歩兵第十一聯隊欠）
したがって歩兵第四十一聯隊
（福山）独立山砲兵第三聯隊（第
二大隊及び聯隊段列半部欠）基
幹

歩兵第三十旅団長 少将 佐々木
到一 18期（歩三三・歩三八）

集成騎兵ハ本日午前一・〇〇頃敵ノ敗殘兵約三千ト衝突天明頃迄ニ擊退、我死傷七〇、馬ノ損害二〇四、敵ノ遺棄死体ハ七百ヲ下ラス鹵獲獲品多数トノ報アリ。

軍司令部護衛ノ為9 Dニ歩一大ヲ要求シタルトコロ19 i全部山砲一大隊ヲ派遣ストノコトニテ夕刻過一部到着セル筈。

孟塘ノ照空隊全滅シタルガ如キモ詳細不明(電話ニテ襲撃サレタルヲ報告シ終ニ天皇陛下万歳ト言ヒ電話ヲ切りタリト伝フ)。

△欄外▽歩一分隊ヲ午後増加セリ。

司令部北側高地ニ於ケル二回ノ戦闘ニテ戦死一(准尉)△欄外注・誤リ戦死二十名許▽負傷十四。

南京攻略後各兵团ニ南京及其附近ニ集結スヘキ命令ヲ下サル。

列車ハ機関車一、3、4等客車各二、有蓋貨車七、無蓋十三ニテ大型不時着飛行機一工兵学校附近ニ在リト。

◇十二月十四日 快晴

照空隊全滅ノ報ハ果シテ虚報、若干ノ死傷アリタルニ過キス。但昨日ノ司令部附近ノ戦闘ニ於ケル我死傷ハ戦死准尉二其他十名許 負傷中隊長一少尉二其他二十名弱ナリ。

本朝尚其殘敵五百司令部東北側ニ在ルヲ知り19 i主力ヲ以テ全ク包囲投降セシメツ、アリ。

13 Dノ山田支隊ハ途中約千ノ敗殘兵ヲ掃蕩シ四・三〇烏竜山砲台占領、高射砲及重砲十余門ヲ鹵獲セリ。

支那船五ヲ爆沈セリト思惟セシ内四隻ハ米國砲艦ナリシト艦隊長官我司令官ニ抗議ヲ申込レタリト 尚英船一モ砲撃ニ依リ撃沈サレタリト言フ。

戦車大隊麒麟門附近通過ノ時敵五百許リ南下スルニ会シ通信兵等ヲ指揮シ掃蕩セリ。又南京東方地区ヨリ約一千宛ノ捕虜二群下関方向ニ移シアルヲ飛行機ニテ視タリト。

下関ニ於テ独工一ハ機関車三、客車六、貨車三十八ヲ鹵獲ス 完全ナリ。

三・〇〇頃佐々木支隊ノ一中隊ハ南京東北方ニ於テ約二万ヲ捕虜トセリト。又別ニ四列側面縱隊ニテ長徑八詰ニ亘ル捕虜ヲ南京城北側ニ向ヒ護送シアルヲ飛行機ニテ視認セリトノ報告アリ。

方面軍參謀長ヨリ電話ニテ十七日入城式ヲ為ス考ニテ掃蕩セラレタキ希望アリシモ当軍トシテハ殿下ノ御意図ニ依リ無理ヲセサル如ク掃蕩中ニテ現況ニテハ十七日ハ不可能ナル旨返答セリ。

天谷支隊ハ午後二・〇〇揚州南門占領、数百ノ敵ハ東、北、西ノ各方面ニ退却中。山田旅団ハ午前一一・〇〇幕府山砲台ヲ占領セリ。

19 iハ軍司令部附近ノ掃蕩ヲ終リ(百数十名ヲ掃滅ス)明十五日一大隊ト戦車一中隊ヲ殘シ掃蕩セシメラル。

*人見大佐掃蕩ヲ終リ帰ルニ方リ拝謁、賜物アリ。

◇十二月十五日 霧深シ 快晴

概ネ杭州、蕪湖、揚子江右岸地区ノ安定確保一部ノ兵力ヲ大本營ノ使用ニ供シ得ルコト

航空隊ヲ以テスル要地ノ爆撃

101 Dヲ以テ上海警備(方面軍直轄)

南翔(含ム)以西ヲ派遣軍

以上ノ件及方面軍カ入城式ヲ十七日ト主張シアリ 軍トシテハ早クモ十八日ヲ希望ノ旨申上ク。

殿下ハ入城式ニ就テハ無理ヲセヌコト、外国人ニ対シ入城式ノ日時ヲ知ラセサルコト、防空ヲ十分ニスヘキコトヲ注意セラル。

方面軍參謀長來部ノ話シ

山田支隊ハ歩兵第百三旅団基幹長少將 山田梅二^{キタ}二^ニ期(歩百四・步六五)

歩兵第十九聯隊長 人見秀三^ニ期(敦賀)

野戦建築部長木崎主計大佐来部今回方面軍直轄トナル。
山田支隊ノ俘虜東部上元門附近ニ一万五、六千アリ 尚増加ノ見込ト、依テ取り敢ヘス16Dニ接収セシム。

四・〇〇頃松井方面軍司令官湯水鎮着、殿下ニ代リ報告ニ行ク。此時入城式ハ十七日ニ決定サレタ旨聞ク。

13Dノ状況、本日二・〇〇頃先頭ノ58i主力ハ揚州西方ヲ前進中、第二梯団ハ揚州ニ入ラントスルトコロ、第三梯団ハ渡江ヲ終リ前進中、師団司令部ハ明日渡江、（電話本日開通）

六合占領部隊58iノ一大 山砲一中基幹ハ明日小発二十ニテ出發明日午後六・三〇「クリーク」入口ニ到着「クリーク」ヲ六合ニ向フ予定。山田旅団（三大基幹）ハ十九日南京ニテ渡江。長参謀16Dト連絡シタ結果同師団ニテハ掃蕩ノ關係上入城式ハ二十日以後ニセラレタキ申出アリト重ネテ方面軍ニ事情ヲ説明セシム。（3D、兵キ、軍イ、獣イ部長天王寺附近ニテ約五百ノ敗残兵ニ襲ハレ安否不明トカ。草場少将紫金山ニ登リタル時「トチカ」内ヨリ殘敵出テ来リタルトカノ事例アリ）。尚一・三〇過方面軍参謀長ヲ訪ヒ話シタルモ頑トシテ変更ノ意思ナシ。

◇十二月十六日 晴天

原田少将来リ南京ノ特務機關兼宜撫ノ為佐方少佐ヲ置クト。

午後一・〇〇出發入城式場ヲ一通リ巡視三・三〇頃歸ル。多少懸念モアリ、長中佐ノ歸來報告ニ依ルモ16D参謀長ハ責任ヲ持チ得ストマテ言ヒ居ル由ナルモ既ニ命令セラレ再三上申スルモ聴カレス、且斷乎トシテ参加ヲ拒絕スル程トモ考ヘラレサルヲ以テ結局要心シツ御伴スルコトニ決ス。

夜復殿下ニ召サレ今迄ノ死傷數ノ調査ヲ命セラレタル以外ハ所謂雜談ニ時ヲ過ス、毎度光榮ニ感スルノミナラス常ニ多クノ教訓ヲ受ク。

北島参謀揚州飛行場ニ着陸天谷支隊及13Dト連絡ス何レモ無難ニ順調ニ進捗シアリ。揚州飛

小発は小発動艇

歩兵第十九旅団長 草場辰巳 20期

駐支武官 原田熊吉 22期

佐方繁木 32期

16D参謀長 歩兵大佐 中沢三夫 24期

一課参謀 航空兵中佐 北島熊男 29期

行場ハ城ノ西北側ニ在リ九〇〇ト七〇〇以平坦。長中佐夜再ヒ来リ16Dハ掃蕩ニ困惑シアリ、3Dヲモ掃蕩ニ使用シ南京附近ヲ徹底のニヤル必要アリト建言ス。

◇十二月十七日 快晴、夜風強シ

松田海軍参謀ノ報告、十一戦隊（近藤少将）ハ十三日其大部ヲ以テ南京下流ニ到着、敵ノ筏ニ依テ退却スル者約一万ヲ撃滅ス、南京下流ノ閉塞ハ幅約三五〇以ノ水路空キアリ又機雷ナシ。靖江下流ノ視察所ハ陸海軍協同シテ占領一昨日掃海ヲ終レリ。運送船ハ既ニ昨日鎮江ニ来レリ、南京モ荷役棧橋破壊サレアルモ二十日頃迄ニハ修繕シテ使用シ得ルニ至ルヘシ。

本日ノ入城式ニハ附近飛行場ヲ爆撃シタル後六、七十機ニテ空中守備状態ニ入リタル場合ノ軍命令ヲ下サル。

午後一・三〇ヨリ入城式、特ニ暖キ快晴実ニ麗ラカニ終了ス。代表部隊ノ堵列閱兵、国民政府ニ於ケル国旗掲揚式、遙拝式、万歳三唱、御賜ノ御酒ニテ乾盃、海軍司令長官ノ発声ニテ万歳三唱。午後三・三〇頃歸ル、先ツ第一日ノ無事ニ済ミタルヲ喜ブ。

芳村参謀ヨリ天谷支隊及13D主力ノ渡江ニ関スル件ノ報告ヲ受ク。

南京ノ獲物ハ相当ニアルラシキモ未ダ調査十分ナラス「ガソリン」ドラム缶五〇〇ヲ見ツケタトノコトヲ本日聞ク。

夕食ニハ殿下ノ台臨ヲ仰キ祝盃ヲ挙ク、其最後ニ殿下ノ御思召ニ依リ戦没将士ノ英靈ニ默禱ヲ捧ク。堵列部隊カ或ハ戦死者ノ位牌ヲ奉シ或ハ遺骨ヲ胸ニ下ケタルコト、国民政府ノ旗竿ニ大日章旗ヲ掲揚シタルコト、夕食ノ際「此処ハ御国ヲ何百里」ノ軍歌ヲ聞キタルトキ自然ニ涙ノ落ツルヲ禁スル能ハサリキ。

今日迄判明セルトコロニ依レバ南京附近ニ在リシ敵ハ約二〇〇師一〇万人ニシテ派遣軍各師団ノ撃滅シタル數ハ約五万、海軍及第十軍ノ撃滅シタル數約三万、約二万ハ散乱シタルモノ如キモ今後尚撃滅數増加ノ見込。鹵獲品ハ相当多數ノ見込ナルモ未ダ調査完了セス。

海軍少将 近藤英次郎 海兵 36

本夜方面軍ニテ行フ參謀長會議ノ件承知ス。其主旨ハ兼テ幕僚間ニテ聞キタルトコロニ依レハ宣伝謀略乃至宣撫工作ニ関スル件ニテ統帥ニ触ル、如キコトハ師団參謀長ヲモ同時ニ集ムル會議ニテ行ハストノコトナリシモ通牒ニハ明カニ「今後ノ作戰ニ関シ」トアリ、又明日ノ慰靈祭直前方面軍司令官ヨリ軍司令官及師団長ニ訓示アリト。之レニ對スル態度ハ明朝殿下ニ申上ケタル後決定セシ。

夕刻祝宴ノ際ニ於ケル殿下ノ御發意ニ依リ上海派遣軍ノ軍歌ヲ廣ク將兵ヨリ募集スルコトトス。

本日午後殿下ヨリ10Aニテハ国崎支隊其他ニ感状ヲ授与シタル由當軍ニテモ早クセヨトノコトニ當軍ハ從來慎重ヲ期シアル關係上後レアル旨申上ク。

殿下ハ又13D長ヲ入城式ニ呼ハナカッタノハ私力悪カッタ序テノ節断テ置ケトカ、松井大將ノ手柄ヲ横取スル様テ惡イトカ申サル。

◇十二月十八日

午前二・〇ヨリ首都飯店ニテ參謀長會同。

殿下ヨリ方面軍參謀長ニ伝ヘヨトノコト、師団長ト共ニ訓示ヲ与ヘラル、コト其内容如何ニ依リテハ軍司令官ノ顔立タス。(伝フ)司令官ヨリ老婆心トシテ談話。

今後更ニ奥地ニ敵ヲ窮追スヘキカ否ヤハ大本營ノ指示ニ依ルモノニテ不明ナルモ我個人ノ考ニテハ現在ノ命令範圍ニテハ不十分。江北、浙江省方面ニモ軍ノ地歩ヲ廣ク獲得スルハ支那人ニ新ラシキ決心ヲ催スニ必要ナリト考ヘアリ故ニ意見ヲ具申シ度思ヒアリ。故ニ一時後方ニ移駐スル師団モ更ニ前進スル機會アルヲ考ヘアルヲ要ス。要ハ武威ニ懼服セシムルト共ニ皇軍ニ心服親和セシメ日支一体ノ必要ヲ感セシムル以外出征ノ目的達成ノ途ナシ。之カ為ニ、三注意ヲ倍茲シ度イ。軍紀風紀ノ肅正。支那人ニ對スル輕侮ノ念多シ之カ禍ヲ為シ今日ノ事變ヲ生起シタルトモ言ヒ得、且軍人ハ滿州ノ又ハ北支ノ支那人ニ對シタル觀念ヲ以テ此地方ノ漢民族ヲ

同一視スルハ免レサルトコロナリ、漢民族殊ニ南方ノ支那人ヲ個人的ニ觀ルトキハ氣力、經濟力共ニ侮ルヘカラサル事實ヲ有ス。国民性ノ欠陥ハ統制ト團結力ナカリシニ在リ、故ニ之ヲ加ウレハ恐ルヘキ力ヲ成ス。而シテ現今之カ実ヲ結ヒツツアリ、輕侮スルハ誤リナルヲ銘心セヨ。國際關係ニ對スル自分ノ信念トシテハ支那人ニハ和ク親切ニ英米其他諸外國ニ對シテハ正シクト言フニ在リ、外國人ニ對シ日本カ恐レスト認メシムルカ支那人ヲ反省セシムル途ナリト考ヘアリ、但シ徒ニ感情的ニ諸外國ニ不快ノ觀念ヲ与フルハ不可ナリ。英米政府ハ極東ニ於ケル日本ノ勢力ヲ認識シアリ。從テ彼等ハ日本ト協調の方針ヲ採ルヘシト見透シアルモ彼等ノ國民ニ對スル政策上其通り実行シ得サル点アリ。殊ニ英國政府然リ。大國ノ襟度ヲ以テ裕々迫ラサル態度ニテ接スルヲ可トス。以上將校ニハ伝ヘラレタシ。

次ニ塚田參謀長ヨリ書類ノ朗読的説明、原田少將ヨリ治安及宣撫工作ニ就テ若干ノ説明アリタリ。

午後二・〇〇稍々前軍司令官ニ對シ方面軍司令官ヨリ訓示アリ列席各師団長、軍參謀長陪席。二・〇〇ヨリ慰靈祭、場面アマリニ広クシテ感深キヲ得ス、軍ニテ行フ時ハ考慮ヲ要ス。

方面軍司令官ノ訓示ハ近ク行ハル、軍ノ師団長會同ノ際軍司令官訓示ト共ニ頒ツコト、ス。又參謀長會同ノ席ニテ師団參謀長ニ方面軍ニテ示サレタルコトハ何レ軍ヨリ指示アルヘキニ依リ夫レニ依リ実施スヘキ旨方面軍參謀長ノ前ニテ明示ス。

本日式後光華門ノ戰跡御巡視ノ筈ナリシモ寒風激シク迷惑スヘシトテ中止セラル。

13Dハ正午頃滁縣ニ近ク迫リツアリ(水口鎮ニテ約四〇〇ノ敵ヲ擊破シテ其西方ニ進出)。

◇十二月十九日 今日ハ再び暖キ快晴トナル。

13Dノ十二圩ニ於テ押収セル塩ハ四十二万五千俵(二十二貫入)ナリ。

午後「てなか弾」「なすか弾」ノ実射ヲ見ル有効ナリ。鎮江ニテハ「てなか弾」ヲ敵掩蔽部

祭文

昭和十二年十二月十八日、紫金山麓に祭壇を設け、中支那方面軍最高指揮官松井石根恭しく陣没將士の靈に告ぐ。曩に江南戦火に蔽るゝや諸子は勇躍征途に上り、あるひは深壕、堅塁の交錯する間に激戦勇闘して君国に殉じ、あるひは長驅急追して敵首都の攻城に果敢奮戦以て身命を祖国にささげたり。その遺骸は牢固として青史を飾り、その尽忠の至誠は、鬼神を哭かしむるものあり。想ふに一身を軍に奉じ、懸軍万里征旅に赴くもの身を鴻毛の輕きに比し、屍を馬草に包むはもとより男子の本懐なりと雖も凱歌紫金山を圧し、歎喜、揚子江にあふるゝのとき、この榮譽を共に頒ち得ざるは、まことに痛嘆おく能はず。さらに遺族の上に思ひを致せば万感胸に迫り惓惓の情禁じ得ず、ここに弔憫の辞を知る能はず。嗚呼悲しいかな。然りと雖も諸子の殉国の至情は凝てここに皇軍の快勝となれり。曩に上海の封鎖完成し、今また南京城はわが掌握に歸し、情勢すでに

定まり皇軍の威風東西の天地を圧す。

諸子もつて瞑すべきなり。

顧るに時局の前途はなほ遑遠なり、われら一層奉公の誠を尽くし以て出師の目的完遂をはかり、堅忍持久誓つて諸子の遺志に副はんことを期す。

在天の英靈願はくば之を來り饗けよ。

試製百式てなか弾Ⅱ「てなか」は

ニ投入三名焼死セシム。光華門ニテハ十三日朝敵ノ抛レル城内煉瓦家屋ヲ一発ニテ焼却セリ。
二・〇〇ヨリ砲兵学校ノ野戦予備病院（患者七百名弱）ヲ殿下見舞ハセラル、帰途湯水鎮ノ分院ヲ見舞ハル。

憲兵ノ報告ニ依レハ十八日中山陵奥ノ建物ニ放火シ今尚燃ヘツ、アリ。又避難民区ニ將校ノ率ユル部隊侵入強姦セリト言フ。（真偽確カナラサルモ）其他之ニ類スルコト及英、米大使館又ハ領事館ノ「トラツク」ヲ押収シ或ハセントシタル者アリテ注意事項ハ実行セラレアラス。本夜副長ヨリ参謀長ニ電話ニテ注意ヲ与フ。

13 Dハ滁県攻撃ノ為展開中ナルモノノ如ク昨日ノ位置ト大差ナシ。南京城内ニハ我国ノ15 H四門アリ之カ為ニ22 Aハ二門破壊サレ彼ノ一門ヲ破壊セリト。

迅速ニ女郎屋ヲ設ケル件ニ就キ長中佐ニ依頼ス。

◇十二月二十日 薄曇

午前九・三〇ヨリ南京攻略ニ方リ賜ハリタル難有聖旨ノ伝達式。

正午過ヨリ南京中央病院ノ16 D野戦病院ヲ見舞ハレ二・三〇ヨリ光華門ニテ脇坂聯隊長、葛野中尉（四中隊長）山際少尉（一中隊長、予備）ノ実戦談アリ、城門外ノ墓標ニ殿下始メ随行軍司令部員一同参拝、四・〇〇頃ヨリ高橋門附近ノ9 D野戦病院ヲ見舞ハセラレ五・二〇帰ラル。出発前軍司令官カラ参謀長モ外套ヲ着ヨ、次テ、9 Dノ人達ニモ其事ヲ伝ヘヨト難有御詞アリ。

二十四日午前師団長、午後参謀長ヲ集ムル命令ヲ出サル。昨夜要塞兵備調査委員ノ命令ヲ発セラル。

13 Dノ16 iハ一昨日既ニ滁県北方ニ進出、本朝師団ノ先頭部隊ハ滁県占領、午後ニハ北島参謀同地飛行場ニ着陸連絡シ来ル。飛行場ハ中径約八百呎ノ八角形良好ナリト。依テ明日ヨリ午前七・〇〇發揚州滁県間ノ定期航空ヲ為ス。

中央ノ命令ニテ上陸用舟艇、船舶工兵ノ全部ヲ二十五日迄ニ返スコトナル。

夜副長ト共ニ殿下ニ召サレ利用シ得ヘキ資材ノ還送及其報告、戦功アル隊個人等ノコトハ新聞ニ十分発表スルコト等ノ御話アリ、且現ニ御佩用ノ軍刀ヲ光華門一番乗ノ少尉又ハ大隊長代理ヲモナシタル中尉カ何レカニ与ヘラル、難有思召ヲ拝シタルモ「勿体ナ過ギル」旨御答シ且十分研究スル御許シヲ受ク。

参謀長会同ノ際遺棄物蒐集ノ件ヲ注意セヨト命セラル。

松田参謀ハ方面艦隊参謀兼方面軍参謀ニ転任。

◇十二月二十一日 大体晴

午前弾薬ノ整備ハ各兵団携行定量ヲ充実スルヲ目途トシテ行フ。13 Dハ更ニ北進シ得ル如ク総テノ準備ヲ着々実行ス。

内山旅団長来部、感状、弾薬、指揮系統等ニ就キ話ス。

午後過日裏山ニ於ケル戦死者ノ慰霊祭ヲ行ヒ殿下御親拝アラセラル。

長参謀ヨリ全般ノ情勢判断ヲ聞ク。南方ニハ敗退ノ約四〇ヶ師、津浦沿線ニハ五ヶ師（敗残ノモノ）、江蘇ニハ二師（内一ハ直系）、山東ニハ直系二師其他五、六ヶ師、山西方面ニハ直系其他ヲ合シ四、五〇師アリ、現在支那軍ノ精銳ハ此方面ニテ之ヲ逐次山東方面黄河南岸ニ移動スルナラン、又我南方作戦ニハ敗残四十ヶ師ノ一部ヲ転用スヘシ。故ニ軍ハ一部ヲ以テ揚子江ニ沿ヒ上流ニ作戦セシメ更ニ、二ヶ師団位ヲ以テ津浦線ニ沿ヒ北上セシムルヲ要スルモノト判断スト言フニ在リ。

南京ニ於ケル日本ノ専管居留地ノ如キ区域ハ城内北部ノ三分ノ二強ト紫金山南麓ノ相当広大ナル地域、目下長崎等ニ避難シアル日本人ノ（主トシテ営業者）居住区域ハ支那町ニ接スル中心部、軍ノ諸機関ノ附近ニハ外支人ノ居住ヲ許可セス。此案ニテ殿下モ御同意。

殿下ニハ徐州ニ向フ作戦及安慶為シ得レハ九江ニ向フ作戦ノ意見具申案ヲ書クコトヲ命セラ

手投げ火焰彈の略称。

普通の焼夷彈はテルミットが主剤であるが、これは黄燐を二硫化炭素に溶解し、これにゴム片を浸したもので少量の重油を添加した。全備重量〇・四五四キログラム。

試製九式なすか弾Ⅱ九センチ臼砲で発射する曳火信管つきの火焰彈。有翼でナスのような形をしているので、この名がある。全備重量一〇・二八キログラム射程は三四〇メートルと短い。当時、迫撃第一、第四大隊が使用したと思われる。

歩兵第三十六聯隊（靖江）長 歩

兵大佐 脇坂次郎 19期

山際喜一少尉

野戦重砲兵第五旅団長少将内山英

太郎 21期

野戦重砲兵第十一聯隊・第十二聯隊（三八式十五榴計四十八門）

ル。

軍イ部長来り南京ニテ多量ノ衛生材料ヲ押収セリト聞ク。又宣撫ノ意味ナラス我軍隊ヲ防疫上地方民ノ診療ヲ実施スル考ヘナリトノコトナリシヲ以テ飽ク迄本末ヲ顛倒セサル如ク余力ヲ以テ行ウコトヲ要求ス。

第十軍ハ明二十二日ヨリ18D101D、第一後備団ヲ以テスル杭州攻略戦ヲ開始ス。

荻洲部隊山田支隊ノ捕虜一万数千ハ逐次銃剣ヲ以テ処分シアリシ処何日カニ相当多数ヲ同時ニ同一場所ニ連行セル為彼等ニ騒カレ遂ニ機関銃ノ射撃ヲ為シ我將校以下若干モ共ニ射殺シ且相当数ニ逃ケラレタリトノ噂アリ。上海ニ送リテ労役ニ就カシムル為榊原参謀連絡ニ行キシモ(昨日)遂ニ要領ヲ得シテ帰リシハ此不始末ノ為ナルヘシ。

荻洲部隊ハ本日大体所命線ニ部隊ヲ配置シ且夫々一部ヲ更ニ前方要点ニ出シタルカ如シ。

南京ニハ既ニ運送船来リ鉄道モ明日ハ通スル模様ナリ。鎮江南方ノ墜道ハ土砂崩壊甚シキ為迂回路ヲ取リシト。

◇十二月二十二日 晴

各部ハ本日南京ニ移転。

正午過野戦衛生長官小泉^{*}中将来部傷病兵ノ救護処置ニ関シ種々努力逐次成功シツアルカ如シ。

大内少佐帰リ天谷支隊、13Dノ実況ヲ聞ク。天谷支隊ノ戦死十数名負傷百余名、13D戦死十名許負傷数十。II/58iハ発動艇ニ依リ先遣シ六合ハ殆ト抵抗ヲ受クルコトナク奇襲シ、途中ノ敵ノ抵抗ニ対シテモ夜間迂回攻撃ヲ加フル等巧ナル戦闘ニ依リ短時間ニ之ヲ撃退セリ。騎兵ハ敵ノ貨車十両許リ鹵獲ス、其他ニハ輪転材料目星シキモノ無キカ如シ。揚州ハ殆ト平時状態、滁県等ハ焼失家屋モ多ク人民モ現存セス。道路鉄道共多クノ箇所ニテ破壊サレアルモ兎モ角配属自動車中隊ハ滁県ニ来リアリト言フヲ以テ遠カラス更ニ補修サルヘシ。

小泉親彦(のち厚生大臣)

輪転材料とは鉄道用諸材料

13Dノ鹵獲品以上ノ外迫撃砲四、米、小麦各千俵。

北方ニ対スル(徐州ヘノ)作戰計画ノ骨子ノ御承認ヲ受ク、九江方面ニ対スル作戰ハ更ニ研究スヘキモ大体情勢判断トスヘキコトトス。

9D騎兵ノ軍旗、旗手ノ馬狂奔ノ為軒ニ撃突破損セル旨師団長ヨリ報告アリ。

16D及兵站部隊、後備隊其他並10A国崎支隊其他ヲ一月上旬及十二月下旬他ニ転用セラレル内示方面軍ニ来リアリ、軍ハ大体之ニテ作戰ヲ終ラシメラルヘキカ。

師団長会議、参謀長会議ノ書類ノ御承認ヲ受ク。

光華門一番乗りハ工兵ナルモ將校トシテハ山際少尉ナルコト判明ス、其素性等ハ本日ハ未タ判明セス。

◇十二月二十三日 小雨

午前一〇・〇〇発南京軍司令部ニ移ル。首都飯店ト高等法院(?)ナリ。松平大尉、浦野MG大隊ノ補充中隊長トシテ將校以下ノ補充員百余名ヲ引率シ来レリ。目下13D配属中。古宮少佐13Dト連絡シ帰路再ヒ立寄り色々話ス。13Dノ江陰攻撃ノ際ノ歩砲協同及三段ノ超越交代ニ依ル縦深陣地奪取等巧妙ナル戦闘ヲ為シアリ、特設師団モ十分ナル戦力ヲ保持セルカ如シ。

◇十二月二十四日 曇

16Dノ転用ハ暫ク見合セトナル。

一〇・〇〇ヨリ兵团長会同。

△注・欄外ニ▽二十二日天谷支隊ノ一部ハ天長ヲ占領セリ。

3D報告——死傷一二、五〇〇、内死三、三〇〇、公病死者三〇〇。第八次ノ補充来リ各隊定員ニ達シ一部ハ超過。馬ハ約四、〇〇〇ハ死傷欠数約一、四〇〇。後方ノ輸送力ノ不足ハ牛

第十三師団・歩兵第百三旅団

歩兵少佐 榊原主計35期

等ニテ臨時T中隊ヲ作り補フ。砲兵、i A、MG、等ノ欠数ハT又ハ内地補充馬ニ依リ大體補フ。兵キ器材ノ欠損ハ大體補ヒシモ擲彈筒、Lg多少不足スルモ戦力ニ大ナル影響ナシ。野戦病院収容患者ハ百名弱平病者少シ。馬ハ四〇〇許リ収容シアリ。人ニハ定量ヲ給養シ得タルモ馬ニハ干草少ク他ノ代用品モ少ク給養劣ル。水ノ補給モ今日ハ余程緩和サレアリ。本月末迄ニハ新配置ヲ終ル筈、御指示ノ任務ニ努ムルト共ニ訓練殊ニ將兵ノ精神教育ヲナス。

9 D報告——第一梯団ハ本早朝出發シ三梯団トナリ行軍、一月十日迄ニ新配置ニ就ク予定。現人員二四、八〇〇ニテ三、六六〇名ノ不足ナルモ第三次補充員一、〇〇〇逐次到着其他モ処理済ミ。一二、四五〇ノ内四、三〇〇ノ損失其他ニモ弱馬アリ四、四〇〇ヲ使ヒ得ルノミ。地方牛馬、各種車両、人夫ニテ此欠ヲ補ヒツツアリ。MG、Lg、擲彈筒ノ欠損二割i A一門平均不足。

13 D報告——南京攻略ニ一部参加セシメラレル光榮ヲ御礼。明後日全部新配置ニ就ク筈。第五回補充員近ク鎮江ニ到着スル筈（補充後収縮ニ伴フ過員）之ニ依リ歩兵聯隊ハ四〇〇位宛過員トナル。浦口―滁縣道ハ橋殆ド全部破壊、本年中ニ占領地区内ノ交通通信完備ノ筈。

江北一般ノ民度低ク滿洲ノ觀アリ分散シアルモ尚追送品ノ必要アリ。軍紀風紀、皇道精神ヨリ見テ具合惡キ掠奪行ハル、特ム兵ニ特ニ多シ、断乎トシテ振作ヲ図ラントス。

江北ニ独立作戰後放火モ殆トナク気分稍之ニ向ヒツツアリ。

兵器ノ整備不十分、MG i A 1/3位使用ニ堪ヘサルモノアリ。整備ハ新春以後着手一月二〇日以後ナラハ十分整備教育シテ次期作戰ニ向ヒ得、然シ年内ニ大體ノ前進準備ハ整フ。第一線ノ兵力ハ指キ官ノ技術ニ応スル人員トシ逐次増加ス。今迄戰闘シタル敵ハ敗殘ノ敵ニアラス組織的ニ戰闘シ退去セリ、鳳陽迄押スコト現状ニテモ可能ト觀察シアリ、

16 D報告——十七日砲兵聯隊段列到着茲ニ初メテ全力ヲ掌握、本日中午ニ新配置ニ就キ終ル。死傷二一九四、北支作戰ニ比シ一〇〇〇多シ、將校八八名、過剩兵員アリシヲ為將校及下士官ノ補充ヲ得ハ完成ス。粗暴ニ流レアル点アルモ引キ締メモ北支ノ經驗モアリ十分ノ自信アリ。

陣地戰ノ經驗ナキモ各隊ノ實驗ヲ師団ニテ統制實施ノ予定。兵器ノ取扱乱暴、野砲二門破壊サレシモ之ヲ補充セス三門編成トスルヲ可ト信ス、故ニ之モ欠数ト認ムル要ナシ。Lgモ鹵獲銃ニ依リ新編成ヲナス予定。現地物資ニ依リ主旨ナルヲ以テ本日迄不足ナシ、

茲三四日補充糧秣ニ依リアリ。

戰況上志氣弛ム暇ナキヲ以テ比較的少ク七〇〇其大部ハ体力ノ劣敗者ニテ呼吸器病ナリ。

北支ニテ馬一、三〇〇失ヒ当方面ニテハ上陸遲レタル為弱リ戰死一一三、病馬三三〇ノ欠アリ、騎兵等ノ馬ノ補充ノ為北支出發時一輜重中隊ヲ解体セリ、今後更ニ一中隊ヲ解体セサルヘカラサルカ。

天谷支隊報告——警備区域内ニハ多少ノ敗殘兵アリ揚州ハ人口十二、三万ノ中二万余殘リアリ、京都ノ如キ消費都市ナリ。治安維持会モ出来、市場、店逐次開ク。仙女廟鎮トノ間ノ川ハ四アリ、流相当ニ急、舟ハ現地ニナシ。急追シタル為橋ハ燒カレントシタルモ無事占領シ得タリ。学校等ヲ利用シ宿營ス。軍紀風紀十分ナラサルモ放火ハ無クナレリ。

兵器被服糧食等ヲ対岸ニ集積スルニハ至ラス、兩聯隊共後方ニ殘置セルモノ多ク不整備ナリ逐次整備スヘシ。

内山旅団報告——指揮下ノモノ十八隊アリ戰死傷病五二二名、一部ハ補充セリ、馬一、〇九五ノ損害アリ、衛生、給養共ニ大體可。本二十四日ヨリ行動開始3 Dノ区域ニ入ル、1* / 1 S A (24 H) 火砲等ノ修理ノ為無錫ニ到ラシム、一月中ニハ終ル筈。

懇談——殿下ヨリ。16 Dノ転用見合セトナレリ。

軍ハ二月初旬ヨリ主力ヲ以テ津浦鐵道ニ沿フ地区ヲ徐州ニ攻勢前進、13 Dハ中旬以後臨淮關ヲ占領、16 D、軍砲兵等ハ初旬迄ニ同地附近ニ進出シ爾後兩師団ニテ徐州ニ向フ。

天谷支隊ハ南京附近ノ警備、3 Dハ16 D、天谷支隊ノ地域ノ警備担任、但狀況ニ依リ主力ハ揚州―清香浦―徐州道方面ヨリ攻勢ニ前進ス。

訓示後懇談、會食。三・〇〇ヨリ參謀長會合、夕食ハ會食八・〇〇頃解散。

1 / 1 S A (24 H) 攻城重砲兵第一聯隊第一大隊 (誤記、S A ではない) 長砲兵少佐小笠原勝國

28期 (四五式二十四榴八門) 加藤伶三 23期工兵監部々員

歩兵少佐 宮野正年 30期 少將 牛島 満 20期

牛島少將隷下ノ部隊 歩兵第三十六旅団 (都城歩二三・鹿兒島歩四五)

南京大使館在勤・日高信六郎

南京總領事代理・福井 淳

山田鉄二郎 20期 (国崎支隊福山歩四一長)

第二聯合航空隊司令官海軍大佐 三笠貞三 海兵 37期

三笠大佐に代わり第二聯隊司令官となる。塚原二四三海兵 36 (のち軍令部次長) 横鎮長官 大將・軍事參議官)

第三飛行団長 值賀忠治 19期

天候快復ス2、彦坂ノ戦死ヲ知ル。(十一月二十六日)

◇十二月二十五日 快晴

教育総監部系視察員加藤工兵大佐、宮野少佐、中島中佐等五名来部、種々意見ヲ述ヘ置ク。

6Dノ牛島少將隷下ノ部隊モ南京ニ留リアリ同少將ニ会フ其事由ハ連絡中。
米艦事件ノ後始末ノ為特ム部ノ人来ル。

101D、18D等ノ杭州攻略ハ既ニ二十四日朝見事成功セリ。

午後日高参事官、福井領事(南京総領事代理)来リ種々話ス。要ハ外国大公使館等ニハ為シ得レハ歩哨ヲ立テ彼等ヲ安心セシメラレ度、又成ルヘク早ク所要ノ外国人ヲ南京ニ来リ得ル如クセラレ度ト云フニ在リ。

夕刻山田大佐(41歳)木下少尉来リ13D長ヨリ殿下ヘ献上ノ鴨、鶏ニテ会食ス。

明日殿下御巡視ノ個所ヲ大西参謀一巡ス。

三並大佐ハ米船爆沈事件ノ為内地第二航空戦隊司令ニ代リ其前任者塚原少將第二聯合航空隊司令官来部、海軍機百余機ヲ南京ニ集ムトノコト。

偵賀少将来部、第五軍ニ行クヘキ部隊中止トナリシ為南京ニ相当兵力ヲ置キ、当軍ニハ神崎隊ヲ協力セシメ将来ハ偵察大隊本部及一中隊ヲ配属セラルルニ至ルヘシトノコト。

山田大佐ノ話ニ依レハ機関車「ガソリンカー」客貨車ヲ浦口ニテ抑ヘタリト。
長中佐上海ヨリ帰ル。青幫ノ大親分黄金栄ニ面会上海市政府建設等ノ打合せヲ為シ先方モ大乗氣、又女郎ノ処置モ内地人、支那人共ニ招致募集ノ手筈整ヒ年末ニハ開業セシメ得ル段取りトナレリ。

黄金栄ノ部下虞洽卿、王一亭等ハ中南支ノ一流ノ財界巨頭ナリト。塩ハ彼等ニ売却シ阿片ヲ何トカシテ入手セシムル様考慮スル筈。吐月笙等ハ黄ノ子分ナルモ今ニテハ真ノ蔣ノ部下ニテ到底望ナシ、黄ハ之等ヲモ討伐スヘシト。

◇十二月二十六日 晴

9D長、秋山旅団長新配置ニ就ク為来部。

日本水産株式会社取締役前根来リ事業ノ相談、第二課ヘヤル。

午後一・三〇殿下ノ御伴ニテ挹江門、下関、浦口、挹江門南側ノ地下室、太平門(33ノ一中隊力千数百ノ捕虜ヲ獲処分シタル所)富貴山地下室、同砲台等ヲ見、五・〇〇前帰ル。

磯谷兵団ハ黄河ヲ越ヘ濟南東南方数里ノ地点ニ進出セリ。其他ノ兵団モ前進シタルカ如キモ電文不明。

夜殿下ニ召サレ13Dノ一部ニテモ早ク鳳陽ヲ取ラセラレスカ少クモ海軍機ニ依リ偵察ハ直ニ実施セヨ、佐々木旅団長ヲ特務部ニ転任セシムル如ク処置セヨトノ事。13Dニ就テハ直ニ着手スヘキコト佐々木少將ノ件ハ困難ナルヘキモ私信ヲ阿南少將ニ出スヘキコトヲ申上ク。

師団長ノ考科表ノ如キモノヲモ一般將官並ニ書ケトノコト之ハ近ク連絡ニ来ル諫山等ニ聞クツモリナリ。

佐々木少將ノ件手紙ニ書キ尚第二候補トシテ永見ヲ拳ケタ。殿下ニハ後刻報告スル筈。松室少將ハ不可ト長中佐言フ。

長中佐ハ二課長會議ノ為上海ニ行ク、都合ニ依リテハ黄ニ対スル臨時政府建設ノ為暫ク滞在スルコト、ナル。

13D正面ノ情報蒐集、諜者ノ使用ノ件依頼。

西原大佐ハ例ニ依テ13Dノ一部ヲ早ク出スコトニ反対即慎重案ト、先日団隊長ニ作戦準備ヲ命シタルノミニテ僅カニ10Dカ黄河ヲ渡リタル位ニテ軍ノ企圖ヲ変更スルハ不可ト言フニ在リ、此性格ハ間違ヒナカルヘキモ澁刺味ヲ欠ク。

殿下ニハ13Dハ十五日迄ニ戦車、歩工兵ニテ道路ヲ直シツ、鳳陽迄前進セシメ十五日以後師団之ニ前進ストノコトナレハ先ツ殿下ニ此事ヲ申上ケ且偵察等ヲ為ス為若干ノ御猶余ヲ乞ヒ聴

南京攻略に策応して、十二月二十五日クリスマスの朝、「南支沿岸及其附近ノ島嶼ヲ占領シ航空作戦ニヨリ広東方面ニ於ケル敵ノ補給ヲ阻止」(大陸軍二十三号、十二月七日)し、戦争ノ早期終結を図ろうとした参謀本部の意図は、「パネー号事件」のほとぼりの冷めるまでと海軍の突然の反対にあい紛糾の末、「第五軍司令官ハ隷下諸隊ヲ台湾ニ上陸セシメ待機スベシ」という大陸軍第三十六号が十二月二十二日発せられ、第五軍に対する独飛第六中隊(偵察長押目音治郎大尉37期)、独飛第十五中隊(重爆長滝昇中佐27期)の転用は中止となった。

神崎隊ハ独立飛行第四中隊(偵察九機)長 神崎 清大尉36期

偵察大隊ハ飛行第三大隊(偵察二コ中隊)長 吉田定雄大佐24期

杜月笙、Du Yue-Siang 一八八八ノ一九五一 青幫の領袖、江蘇省の人。八歳で浮浪児。二十歳で青幫に加入、上海フランス租界で警察権を握る黄金栄に接近、その夫人を通じてアヘンの密売に加わり巨利を得る。一九

二四年第二次奉直戦争でイギリス租界に勢力をはる。一九二七年、黄金栄らとハ共進会を組織、蔣介石の反共クーデターを助け、総司令部参謀となる。以後、政・軍界に勢力をのびすほか、銀行・海運・製粉事業などを経営。日中戦争中は主として香港におり、上海経済を掌握、奥地経営にも加わる。一九四九年以後、上海中立化に失敗、香港に移る。

(『コンサイス人名辞典』)

第九師団長陸軍中将 吉佳良輔 17期

歩兵第六旅団長陸軍少将 秋山義兌 20期

磯谷兵団ハ第十師団(津)歩兵第三十旅団長 佐々木到一少将 18期

陸軍省人事局長 阿南惟幾 18期

参本庶務課長兼大本営副官兼管理部長 歩兵大佐 諫山春樹 27期

西部防衛参謀長陸軍少将 永見俊徳 21期(満洲国軍顧問、支那駐屯軍参謀長等を歴任)

予備役陸軍少将 松室孝良 19期

許セラル。

〔◇十二月二十七日 原本に日付が無いため推定〕

*古閑大佐以下東京市防護団ノ連中十数名見学ニ来ル。

*海軍山県大佐以下爆撃効果調査ノ為来ル。

*米花騎兵少佐報導班トシテ南京ニ来ル。

手紙ノ返事ヲ書クノト来客ノ応接ニ相当忙シカリシ。

殿下ヨリ将官考科概要ハ松井大將ノ書カレタルモノ附記スルヲ適當トセスヤトノコトニテ此旨手紙ニ認メ明日芳村參謀ニ持參ヲ依頼ス。

北島參謀飛行機ニテ鳳陽迄ノ道路及敵情ヲ偵察ス。道路不良、敵ハ蚌埠ニ在ルノミニテ鳳陽モ捨タルモノノ如シ。鉄道ハ臨淮県ニ至ル中間ノ大鉄橋ヲ完全ニ破壊シアリ其他ハ破壊ヲ認メストノコト。

◇十二月二十八日 曇リ午後少シ雪ヲ交ヘタ雨、夜雪トナル。

国崎支隊ハ船ニテ上海ニ来ルヘキコト上海ノ宿營給養ハ派遣軍ニテ担任スヘキ命令来ル。国崎支隊長来部。

磯谷兵团及本川部隊ハ濟南城ヲ攻略シ南進シアルカ如シ。

殿下ハ米船遭難者ヲ軍イ部長テモ遣シ見舞ヘトノコト難有思召テアリ又此際適切ナ処置ナリ。

米船ハ沈没艦ノ後始末ニ本日南京ニ来リ、之ニ独伊ノ大使館員モ乗船シアリテ南京蕪湖附近日本軍ノ非違ヲ調査ストノ方面軍電報ヲ受領シタルモ時期ヲ失シ何トモ処置ノ方法ナシ。之モ殿下ノ御趣旨ハ早く帰ラスニ在リ、依テ之ヲ第二課ニ伝フ。

*大内少佐上海武官室ニ到リ兵要地誌ヲ調査シテ帰ル。揚子江上流ニ向テスル作戰ハ江岸ニ作

戦路ナキ為甚タ困難、江南10A方面ハ兎モ角鉄道ヲ利用シ得ルヲ以テ江北ニ比シ容易ナリ。

101Kハ歩校附近ニ於テ地下倉庫四棟ヲ発見、其中三棟ニハ爆薬、各種彈藥多数アリト。

◇十二月二十九日 曇

經理部長来リ水道電灯共数日中ニハ完成ノ見込。接待費ハ三月迄ノ分九〇〇〇円。

方面軍參謀長ヨリ各国大使館員二十九日南京ニ来ルヲ以テ自動車ヲ準備サレタシト、方面軍テ勝手ニ之等ヲ南京ニ来ラシムルハ甚ダ困ル。上海氣分ト南京氣分ハ違フ。

海軍ノ近藤少將来リ殿下ニ拝謁シタルノミニテ帰レリ、其殿下ヘノ話ニ烏龜山砲台附近ニテ既ニ数隻撃沈セラル、夫レハ触発及最新式視発水雷ナルカ如シ。依テ其沿岸並中洲ヲ掃蕩サレタシトノコト依テ海軍ト連絡シ先ツ河岸ノ視發所ヲ搜索スルコトトス。

一・三〇御出發16D第四野戦病院(16D、5Dノ患者)、6D第一野戦病院、10A予備病院ヲ見舞ハセラレ三・〇〇帰還。

英米独伊等ノ大使館員、領事館員等来ルトノコトニ之ガ応対法研究中ノ所ヘ福井書記官(南京領事)来リ米大使館使用支那人ノ言ニ依レハ二十三日日本兵来リ支那人ノ持物ヲ掠奪シ且館員ノ居室等ヲ荒シ扉ヲ剣ニテ突き刺シタリト力独大使館ニテハ軸物ヲ掠奪セリトカニテ米人ヨリ領事宛ノ手紙モ置キ行キタリ。困ツタコトヲスル者アリ全部ヲ真トスルコトモ出来サルモ善後策ヲ研究スル要アリ。

◇十二月三十日 晴後曇

午前一〇・三〇ヨリ16D慰靈祭ニ殿下御親拜。午後一・三〇ヨリ南京及附近宿營部隊副官等ヲ集メ軍紀風紀殊ニ外国公館ニ対スル非違ニ就キ厳ニ注意ヲナス。佐々木少將(警備司令官)又注意及要望アリ。

方面軍中山參謀来リ參謀長一人ニ対シ、今回ノ外国公館ニ対スル非違其他ノ不軍紀行為該ニ

東部防衛參謀 歩兵大佐 古閑^{こが}
健^{けん}25期

海軍大学校教官 海軍大佐 山県

正郷^{せいこう}海兵39期

米花^{べいか}宇太吉31期

歩兵少佐 大内 競^{きやう}33期

歩兵第三十旅団長 陸軍少將 佐々木到一^{ささき だいち}18期

遺憾ナリトノ意味ノ伝達アリ恐縮ノ外ナシ。陸軍大臣參謀総長連名ニテ方面軍ニ對シ各國ノ動向極メテ機微ナルモノアル際十分注意スベキ旨ノ電報來リ披見ス。広東方面作戰モ之等ノ關係上中止セラレタルヤノ口吻モアリ、何レカ是カ何レカ否カ皇軍ノ真価低落セル今日、正ヲ踏ンデ恐レスト邁進スルコトモ出來ス遺憾ト云フノ外ナシ、然シナカラヤハリ大局ヨリ見テ堂々ト強ク押ササルヘカラサルニアラスヤ。

六・〇〇ヨリ御殿ニテ課長部長會食。其際殿下ハ經理部長ニ英吉利煙草ヲ配給スルコトハ止メタラヨカラウト仰セラレタリ。其御詞ノ中ニ「煙草ハ各人ノ好ミモアルガ」トアリ誠ニ難有御思召ト感佩ス。

◇十二月三十一日 曇

元旦自治委員會發會式ニ方リ軍司令官ヨリ難民ニ一万円下附旨承認セラル。

10 A兵站司令官鋤柄大佐、33 i長野田大佐來ル。

10 Aノ企図、6 D、114 D、第一、第二後備団ハ現在地確保。18 Dハ富陽附近ニテ錢塘江ヲ渡リ紹興ヲ奪取、此処ニ一部ヲ殘置シ杭州ニ歸ル。101 Dハ上海ニ招致サル。北支10 D、本川部隊南進ヲ続ク。

夜軍司令部食堂ニテ慰安講談アリト。

本年ハ予ニ取りテハ過分ノ恩寵ヲ蒙リタル年テアリ且波瀾モ多ク最モ記念スヘキ年ナリキ。少將ニ進ミ予幹事トナリ芦溝橋事件ニ端ヲ發シテ出兵トナリシモ到底出征ノ見込ナク、予ハ十五歳ノ時ヨリ軍人ヲ志シ逐ニ戰場ニ御奉公スル機会ナキカトツク悲觀シアリシニ思ヒモカケス上海派遣軍參謀長ヲ拜命、過分ノ重責ヲ帶ヒテ出征シ得ルコトヲ限リナク喜ヒタリ。然ルニ上海戰ハ世界ニモ未タ且テ見サル陣地戰トナリ、一万余ノ將兵ヲ喪ヒ而シテ得ル所之ニ伴ハス、武運ツタナキヲ思ヒタルコトアリシモ御稜威ニ依リ遂ニ年内ニ敵國首都ヲ攻略ス。而モ其攻略ハ全ク派遣軍ノ力ニ依テ成サレタリ。

來ルヘキ新年ハ愈々此ノ戰果ノ收穫時ナリ、拳國一体正道ヲ邁進シ、皇祖皇宗ノ神威ニ依テ亜細亞大陸ニ皇道ヲ宣布シ得ルニ至ラサルヘカラス。滿洲事變ハ確カニ海外ニ向テスル皇道宣布ノ第一歩ヲ成シタリ。支那事變ハ是カ非テモ此第二步ヲサルベカラス。然レトモ斯ノ如キコトハ凡夫ノ思慮ノ外ナレハ予ハ日々皇祖皇宗ノ神靈ニ之ヲ祈願シテ微力ヲ尽シアリ。希クハ加護ヲ垂レサセ給ヘ。

昭和十三年

〔注△▽内に要旨略述〕

◇一月元旦 △朝霧後快晴▽

△遙拝、万歳三唱等元旦行事▽

午後二・〇〇鼓樓ニ於テ自治委員會發會式、軍司令官殿下ヨリ金一萬円下賜、祝詞朗誦、祝宴簡單ナ支那料理モアリ支那酒モアリ、民衆ハ一千人位集メルトノコトナリシモ大体其位カ爆竹ヲ盛ニ上ク、然シ芝生ニ寝ソヘツテ居ル者モ数人居タノハ如何ナル者カ。板倉大尉來ル、更ニ御殿ニ行キ七・〇〇前歸ル。人事局長(?)一行六名三十一日汽車ニテ南京ニ向フ旨ノ電報ト二日杭州ヨリ飛行機ニテ南京ニ行クトノ電報トアリ何レカ真?。

*谷中將ノ後任ハ稻葉中將ナリトカハ行外・運沼中將ハ駐蒙軍司令官、谷中將ハ中部防衛司令官▽十八期ノ師団長ガ出來タ。

今日午後ソ聯大使館焼ク、此処ハ日本兵決シテ入り込マサリシ所ナレハ証拠湮滅ノ為自ラ燒キタルニアラスヤト思ハル。

他ノ列國公館ハ日本兵ノ入り込ミタル疑アルモ番人ヨリ中国軍隊ノ仕業ナリトノ一札ヲ取リ置ケリ。唯米國ノミハ四囲ノ狀勢己ムヲ得サルモ當時番人ノ親戚等五、六十人入り込ミ居タル關係上敗殘兵アリトノ噂サニ依リ進入シタルモ米大使館ト判リ直ニ引キ上ケタリト云フコトト

阿南惟幾少將 18期 參本庶務課長
歩兵大佐 諫山春樹 27期、補任
課高級課員歩兵中佐 額田 坦
29期、軍事課高級課員砲兵中佐
稲田正純 29期、歩兵大尉 荒尾
興功 35期

谷 寿夫 15期

第六師団長 稻葉四郎 18期

蓮沼 蕃 15期

ス。自動車其他番人ノ損害等ハ兎モ角返スコト、ス（方面軍特ム部ノ処置）。

◇一月二日 晴

△芳村参謀上海ヨリ昨日帰来報告。作戰關係。揚子江掃海状況等△

上海ヨリ帰リシ本郷参謀報告。各国大使館ノ問題ハ既述ノ通りノ方針ニテ大体現地解決ノ筈、謀者数名、近ク来ル予定、第二課ニテ使フ。長参謀ハ謀略ノ為中旬迄上海滞在。

阿南人事局長、諫山庶務課長、其他補任課徵募課員等南京着、殿下ノ御殿ニテ飲シ後幕僚ト会飲。

△海軍司令官、16 D長等年賀。蕪湖ニ空襲。南昌ヲ空襲。南京ニ空襲、城内飛行機ニ爆弾投下、損害無シ△

◇一月三日 薄曇、寒シ

△殿下以下司令部員、野外騎乘中山陵へ。11 D、重藤支隊ハ高雄南方ニ上陸、待機中△

夜遅ク阿南少将来ラレ主トシテ師団長ニ関シ所見ヲ述フ。

◇一月四日 快晴

諫山大佐ニ佐々木、永見少将ノ件希望セルモ近キ将来一軍ニ編成替ヘセラル、筈ニテ現在ノ希望ノ如クハナラサルヘシ。

△軍司令部課長二人防空研究ニ来部。国崎支隊原所属復帰、烏竜山砲台兩岸ヲ確保シ視察水雷所ヲ抑フル件。御厨参謀来リ北支方面軍南下中状況報告。13 D、10 Aノ状況△

広西ニテハ民衆ノ武装、訓練ヲ盛ニ行ヒアリ其意ハ一方日本軍ニ対スルト共ニ他方蔣カ全然赤化セル時ニ之ニ対スル為ナラサルカ。蔣政権ハ漸次微力化シ、到ル処赤化勢力侵潤シアリト。此儘ニテハ日本ハ多大ノ代償ヲ払ヒ蘇聯ハ軋ラスシテ多大ノ収穫ヲ得ルコトナリ、共産

主義ニ対シ皇道ノ勝利ト謂ヒ得サル憾アリ、此点奮発ヲ要ス。

△企画院次長一行来△

憲兵ハ南京難民区域或ハ外国大使館等ニ潜伏シアル不逞徒ヲ捕ヘツ、アリ、保安隊長、八十八副師長等主ナル者ナリ。

夜阿南少将再ヒ来ラレ人事其他ニ就テ話シ且殿下ノ御思召ニ依リ15 S Aノ上等兵カ奪取シタル八十八師司令部軍旗ヲ献上スベク依頼ス。一〇・〇〇過特務部岡中佐来リソ聯大使館焼失ニ就テノ取調ト米国大使館員（五日来ル筈）ト接衝ノ為来リシトテ午前一・〇〇迄話シテ帰ル。同中佐ソ聯大使館ニ到リシ時裏手ノ大使カノ私邸ニ笹沢部隊ノ伍長以下三名入り込ミ食料徴発中ナリシト、今ニ到リ尚食糧ニ窮スルノモ不思議、同大使館ニ入り込ムモ全ク不可解。

◇一月五日 快晴

△阿南一行殿下ニ拝謁。殿下ヨリ人事、今後ノ作戰等ニツキ希望。杭州へ出發。飛行機報告、定遠―鳳陽道ヲ六、七千ノ敵北進△

三・〇〇ヨリ副官会報国際問題ニ就キ更ニ注意ス。△敵機蕪湖ニ爆弾投下△

◇一月六日

八・三〇出發一〇・〇〇過上海方面軍司令部着。横田憲兵隊長、江藤少将同行ス。塚田参謀長ヨリ、今後ノ作戰ニ関スル件、目下ノ処現在以上ニ作戰ヲ拡張スル考ナシ。蔣介石ヲ認メルヤ否ヤノ件未定、正月過迄ニ決定セラルヘシト。北支那ハ泰安迄、第一軍ハ黄河ノ線ニ出ル、其予定ハ二月中、下旬マテカ、ル。方面軍兵力整理、一軍司令部五個師団基幹。師団ノ編制ハ目下研究中ナルモ方面軍トシテハ直接戦闘力ニ関係ナキ者ハ帰シ度。△欄外・全力ヲ以テ機動戦ハ予想セサルモ一部又ハ大部ハ動クコトアリ△。之ニ対スル意見ヲ成ルヘク早く報告。整理ノ実施ハ三月上旬頃、特設師団ハ先キ帰ス（101、114、ノ筈）。

方面軍司令官ハ方面軍ヲ統率ストナリタルモ兵キ、經理、衛生、法務ハ従来通リトシ方面軍

第三艦隊司令長官 海軍中將
谷川清海兵31期

二課参謀 歩兵少佐 御厨正幸 33
期

企画院次長 青木一男

アリソン John M. Allison 三等
書記官ら。一月六日、米砲艦に
より到着。

独立機関銃第二大隊の笹沢中隊

上海派遣軍憲兵隊長 憲兵少佐
横田昌隆 32期
江藤源九郎 11期予備役・衆議院議員

ニモ報告ス（勤務規定ハ消滅スルモ）。人事進達書類ハ従来通り。

賀陽宮殿下ノ行動秘密。酒、煙草御止メニナリタル為之ニ関シ心配スルナ。

國際關係、軍紀風紀、未然ニ防止スル如ク十分注意スヘシ。総長、大臣ノ電報ニ対シ返電ヲ出シアリ。

△鉄道、輸送關係。遊撃戦ノ件△

外国人ノ件。蘇州ノ外人帰還ヲ希望シアリ。入ル、時期ヲ概定シタシ。

△押収兵器、兵要地誌。自動車ノ件。16 D 出発（二十日頃ヨリ）ノ件。10 A 錢塘江渡河作戰△

憲兵隊長ヲ集メ參謀長口演（別冊）。

中支那憲兵隊四百名新編成。別ニ兩軍ノ憲兵各五十名宛。

△軍司令官ト会食、大場鎮忠靈塔建設ノ件。四時頃帰着△

本郷參謀ヨリ、米領事正午前上陸好感ヲ持チ軍ノ統制ニ服スヘク誓約、然ルニ英ノ「ビー艦」長無断上陸セントシタルヲ以テ之ヲ阻止セルニ残置セル石炭五、六十屯ヲ見度、且領事代理トシテ上陸スト称シタルヲ以テ石炭位置迄ノ上陸ヲ認メタリ。然ルニ其石炭ハ目下衣糧廠ノ入り居ル「クラブ」トカニ在リテ一悶着ヲ起シ、居合セタル大西參謀ハ支那軍ノ占領シアルモノヲ擊退占拠セルモノナレハ不法ニアラスト申渡シタルモ英ハ今後更ニ文句ヲ言フナラント。

△大臣ヨリノ酒肴料ノ件△

◇一月七日

△兵器部長ヨリ要塞兵備整理要領ヲ聞キ殿下ニ報告、大坪、細田中佐方面軍ニ説明△

本郷參謀ヨリ米領事ト会食ノ件ヲ聞ク。大体现狀調査ニ采リタルモノノ如ク当方トシテハ市内掃蕩戰ヲ実施セサルヘカサリシ狀況ヲ説明諒解セシム。

岩仲戰車隊長来ル浦口ニテ修理シタル機關車ノ初乗リトノコト但シ鐵道線ハ未ダ滁縣迄ハ修復サレス。十三日頃ヨリ13 Dヲ以テ臨淮縣ヲ攻略セシメラルヘキコトヲ報告ス。

◇一月八日 曇リ

△13 Dノ前進ハ指示アル迄見合セ。兵器部長要塞兵器報告ニ立会イ。13 D正面敵兵力増加。北支軍南進。16 D転用ニ伴フ天谷支隊、3 D一部ノ配備変更命令。教育總監部ヨリ実戰經驗ニ依ル意見ノ提出依頼。夜、天谷支隊ヲ二月初上海附近ニ集結スヘキ旨方面軍ヨリ電報△

◇一月九日 快晴

△大場鎮忠魂碑ノ件。13 D鳳陽作戰ニ付キ殿下ニ再考ヲお願い、予自身ハ当分実施セサルヲ可トス。御厨參謀北支狀況報告△

我10 Aノ6 Dト114 Dトノ中間ハ主要道路ヲ開放シ広徳ヲモ占領シアラス。從テ當軍ノ地域内ニモ敵ハ楽々潛入シ得。而シテ敵ハ最近「ゲリラ」戦法ニ依リ我軍ヲ悩マサントシツ、アルカ如クニ觀取サル。注意ヲ要ス。

風早大佐来リ部下及他方面（16 D長カ主ナルモノナルカ如シ）ヨリ瓦斯ノ実験ヲナセト迫ラル、モ大局の見地ヨリ特ニ有利ナル場所ナケレハ実施ハ不可ナリト抑ヘアリトノコト。

△賀陽宮殿下才出迎エ。六・〇〇過ヨリ西原大佐作戰經過説明、幕僚会食△

英独領事館員本日上陸。但英武官上陸セントシタルモ指令ナキ故ヲ以テ一先ツ拒絕、大休感シハ宜シトノコトナリ。

◇一月十日 快晴

八・三〇カラ賀陽宮殿下ハ第一課長室テ各參謀ノ所感ヲ御聞キニナリ、九・〇〇ヨリ光華門ニテ葛野中尉ノ話。次テ紫金山ニテ野田聯隊長、辻中隊長等ノ説明ヲ御聞キニナリ、天文台ニテ御昼食（二・〇〇頃）。軍司令官殿下モ御同行。午後幕府山砲台御視察。賀陽宮殿下ノミハ16 D幕僚トノ会食ニ御出席。

陸大教官騎兵中佐 賀陽宮恒憲王
32期

中支那派遣憲兵隊司令官 憲兵大佐 大木 繁22期

揚子江警備艦 Bee（蜂）号

二課 歩兵大尉 大西 一36期

一課 砲兵中佐 大坪一馬30期

戰車第一聯大長 歩兵大佐 岩仲義治26期

第二野戰化学実験部長 工兵大佐 風早 清22期「戦場において敵の使用した化学兵器の資料を採取し其性状と毒性を判定探求し速かにこの対応策を樹立する」ことを任務とした。総員約百二十〇名、車輻編成。將校は部長大佐以下十数名、軍医、獸医、薬剤官合せて約七名、判任官約十名、警備兵一小隊（長・中尉）のち、漢口作戰参加。十四年四月復員し、一部は中支派遣軍科学研究班要員として前任務続行。十五年十一月復員。

歩兵第三十三聯隊長 歩兵大佐 野田謙吾24期

殿下ノ御話ニ依レハ我国ハ四ヶ条ノ条件ニテ蔣ニ媾和ヲ申込ミタリトカ、從來支那ニ対スル戦争ハ戦闘ニ勝テ談判ニ敗ケタル実例ノミ、今回ハ然ラサルコトヲ毎日神靈ニ禱リ居ルモ果シテ如何。

△厚生省出来、木戸文相兼任。3 D長ノオ伴ノ願イ忘却、殿下ヨリ注意△

◇一月十一日 曇後晴

△賀陽宮、軍司令官殿下6 D戦蹟ノ視察、一二・〇〇杭州へ向ハセラル。北島参謀ヨリ飛行機偵察ノ結果報告。13 Dハ前進準備ヲ整ヘ待機△

昨日迄ニ南京ニ来リシ外人ハ英、領事一武官二、米、領事一書記官二、独書記官等三ニテ英ハ応対最モ宜シク、独最モ悪ク且蔣トノ媾和ヲ慫慂スルカ如キ言動及我意中ヲ探ラントスルカ如キ気配アリト。

△西少佐ヨリ追送衣類受取。青島ハ海軍陸戦隊占領△

本日午後御前会議ニテ最高方針ヲ決定セラレタリト、速ニ進守ヲ決定セラレタシ。

△賀陽宮殿下杭州着。野田33 i長来ル△

◇一月十二日 曇東北風強シ

終日考科表訂正。

米領事ハ日本軍隊領事館進入ニ就キ軍参謀長陳謝ニ来ラレタシトノコトナルモ外交関係者ニテ陳謝スル様交渉シ此旨方面軍ヘ電報ス。

16 D長、佐々木少将ハ賀陽宮殿下トノ会食ノ折、口ヲ極メテ軍ノ悪口ヲ言ヒタリト。

△16 Dハ二十二日ヨリ北支方面軍又ハ大本營直轄トシテ天津附近ニ集結△

幕僚長殿下ヨリ方面軍司令官ヘ条理ヲ尽セル軍紀風紀殊ニ國際問題惹起防止ノ御要望アリ、各師団ニ更ニ注意ヲ附加シ伝達。

△南京憲兵隊長ハ小山ニテ、今日司令部ニ来レリ都合良ク行クヘシ△

◇一月十三日 曇リ

△御厨参謀報告、国崎支隊ハ十一日上海発青島ヘ向フ△

高射砲隊ニテ支那軍作戦計画ヲ取ル、其海岸防線ノ次ノ抵抗線ハ徐州南京ニテ句容等ハ更ニ其前方ノ一防御線ナリ。之ニ依レハ敵ハ其予定防御線ノ一部ヲ突破セラレタルナリ。尚第一線ヨリノ報告ヲ集録セル陣中日誌的ノモノヲモ押収セリ。

△12 i明日南京来、16 Dト交替配備ヲ命令△

本郷参謀井田貴族議員ヲ案内シテ廻ル時独領事カ指定区域外ニ来リアルヲ見、注意シテ帰シタルニ更ニ中山陵ニテ会ヒシヲ以テ嚴重ニ之ヲ責メ置キタリト。

△浦口―張八嶺間ノ津浦線開通△

◇一月十四日 曇

△大坪参謀要塞兵備整理ノ件ニテ上海ニ行キ本日帰来、方面軍モ大体承認△

御前会議ノ結果ハ未タ公式通知ナキモ蔣政権否認ニ決シタルカ如ク、方面軍ヨリモ七日附ニテ否認ヲ可トスル意見ヲ具申シアリ公式通知アリ次第津浦線ヲ北上シ陸上ニ於テ北支軍ト手ヲ握ルヲ可トスル旨意見具申スル筈。

△16 D、天谷支隊、101 D、10 A等ノ件。考課概要、拔擢名簿等ノ件。海軍松田、長岡、青木送別会△
16 D参謀長来リ査問委員ノ通訳二名、将校三名カ憲兵ヨリ取調ヘニ際シ不法ナル取扱ヒヲ受ケ憤慨ノ極ニ在リトノコトニテ横田憲兵ヲ呼ビ調査、小山中佐ニモ通シ更ニ師団長ノ意向ヲ確メ公ノ問題ニスルヤ否ヤヲ明日決定スルコト、ス。

◇一月十五日 曇

横田少佐ハ師団、小山等ト連絡ノ結果、為シ得レハ穩便ニ横田ヲ転勤セシムルコトニ依リ解

3 D長 中將 藤田 進 15 日

憲兵中佐 小山 弥

井田磐楠^{いわた いわばな} 13期砲兵少佐・男爵 政治家貴族院議員、一八八一―一九六四 譲の長男として東京に生る。父は男爵、元老院議員、陸軍少将。昭和四年(一九二九)以降貴族院議員。公正会に所属し、同議員菊地武夫らとともに天皇機関説問題に対しては終始美濃部学説に反対。政府批判の立場をとった。同十五年大政翼賛会常任総務となる。

〔平凡社日本人名大辞典〕
一月十一日、大本營・政府首脳による御前会議、支那事変根本処理方針を決定。

三課参謀 海軍中佐 長岡博吉

決スル為上海ニ到ル。

△佐々木少将、大河原中佐来。大西参謀各地ノ宣撫及上海ト連絡報告。五弓大尉自隊ノ高射砲ヲ爆撃サレタ責任ヲトリ砲兵学校ヘ転任ノ途中天津テ自殺。鎮江ノトンネル開通。

大西参謀ノ報告ハ特ニ新ラシキコトモナク9Dハ其報告ニアル通り先ツ二十日迄ハ作戰準備、其後治安宣撫等ヲヤルトノコト。

新政権ハ二月初旬ニハ出来上リ数ヶ月上海ニ於テ基礎ヲ作り後ニハ南京ニ移ス予定ナリト。

夜復16D参謀長、小山隊長(ガス中毒デ顔面火焼)横田少佐ニテ会合、結局憲兵、師団相互ニ尚取調ヘ処分スルコト、シテ分ル。

◇一月十六日 晴

△佐々木少将警備ニ就キ軍司令官殿下ニ報告。西原大佐方面軍ヘ出発。16D北支転属命令来。独機II長ニ、ソ大使館ニ入リタル件ニ就キ最後ノ注意ヲ与ヘ置ク(昨夜ハ笹沢中隊長ト副官来レリ)。

△下村少将病氣ノ為参本附、橋本少将第一部長、第一軍参謀長飯田祥二郎少将。13Dノ状況。

◇一月十七日 小雨

西原大佐帰来報告。独大使ヲ通シテ概要次ノ構和条件ヲ提出セルモ支那聴カサリシヲ以テ御前會議ニテ蔣政權ヲ認メサル事ニ決定、昨日声明ヲ發表ス。

一、支那ハ滿洲国ヲ正式承認スルコト。

二、排日反滿ヲ放棄。

三、北支内蒙ニ否武装地帯。

四、北支ハ日滿支共存共榮。

五、内蒙ニハ防共自治政府、外蒙同様トス。

六、防共政策ニテ日滿ニ協力。

七、北支中支ニ否武装地帯ヲ設ケ上海ハ日支ニテ共同管理。

八、資源、交通、通信其他ノ協定ヲナス。

九、賠償ヲナスコト。

派遣軍カ北上シ北支軍ニ連絡スルコトハ意見具申中ニテ出来ルヘシ。若シ許可ナキモ鳳陽附近迄ハ方面軍司令官独断ニテ進出ス。

△天谷支隊ハ暫ク待機ナラハ南京カ至当。五ヶ師団ニテ守備スル場合モ、13Dハ江北ニ留メ10Aノ第一線ハ更ニ少シ推進左右連繫セシム。新政権ハ上海ニオキ、南京移動ノ際ハ軍司令部モ南京カ適當。16D団隊長ニ告別ノ御会食、三國、片桐大佐欠席。拔擢者ノ考科表大体終ワル。

織田兵站司令官主催ノ演芸大会、活動写真モ。有馬国防婦人会ノ慰問袋貰ウ。

◇一月十八日 曇リ

△午前軍楽隊ノ演奏、夜同盟通信ニテス映画ト五郎ノ映画、共ニ殿下台臨。柳田徵募課長到着、幹部候補生制度ナトノ話。13D作戰開始ヲ予想シ野重、輕戦車等配属。水道断水。

◇一月十九日 雨

△人ノ乗ル汽車ノ箱ニハ暖房ノ設備ヲ、東京ヨリ来ル人ニハ主任者カ良ク説明スルコトヲ殿下ヨリ御示アリ。

横田少佐帰り宮崎ハ兎モ角上海ニ呼フコト、横田カ処分シタコトヲ報告。

△獣イ部長、天谷少将、徳川圀順赤十字副社長来。兵器部長室ヲ訪問。

◇一月二十日 △雨後雪

△16D、明日ヨリ転送開始。

午後小山憲兵隊長ヲ見舞(瓦斯ニ中毒シ火傷)宮崎憲兵ノ始末ニツキ話シ合フ。

砲兵大尉 五弓益雄 38期(死後少佐進級)

独立機関銃第二大隊長 歩兵少佐 皆伝武久

参本第一部長 下村 定 20期
橋本 群 20期

野砲兵第二十二聯隊長 三國直福 25期

歩兵第九聯隊長 片桐護郎 20期

曾我廼家五郎 喜劇俳優

歩兵大佐 柳田元三 26期

南京憲兵分隊長憲兵大尉 宮崎有恒 35期(のち南洋憲兵隊長、終戦時自決)

獣医少将 橋本庄太郎

△表忠塔ノ件、順調ニ進ム。13 D 殘敵掃蕩中▽

永ラク上海ニ在リテ中支新政府樹立ニ奔走中ノ長中佐帰来、話ヲ聞ク。此新政府ハ大体本月中頃ニ出来上ルヘキモ其他ノ工作、特ニ広西派ニ対スル謀略ハ一向ニ進ミアラス、斯クテハ戦後ノ結果ヲ憂慮セラル。

◇一月二十一日 曇晴レ気味

△中島師団長才別レニ来ル▽

次長ヨリ次ノ電報来ル。在南京米國領事ノ報告ニ依レハ、一月十五日ハ十八日ニ米権下ヨリ日本兵カ婦女八名ヲツレ出シ、金陵大学ヨリ「ピアノ」ヲ壁ヲ破リテ持出シタリ。在南京外交官ハ無力、軍ハ其統制取レスト、在東京米大使ヨリ抗議アリト。今日尚如此兵アリトハ実ニ残念、然シ現ニ本日モ米國旗ノ在ル家ニ兵カ掠奪ニ入り込ミ居ル処ヲ米書記官ト同行ノ憲兵取リ押ヘタリト言ヘリ。米ノ抗議モ真実ラシ。然シナカラ当方トシテハ領事ニ如此電報ヲ中央ニ打ツハ最初ノ約束ト異リ怪シカラヌ旨抗議シ、彼ハ絶対的ニ打電ヲ否定セリ。

△値賀少将ヲ訪問、飛行隊ノ苦勞ニオ礼。16 D 長ニオ別レ。野田大佐歩校教導聯隊長ニ、二神*
(軍事課) 榊原(補任課) 転出▽

◇一月二十二日 晴

△16 D 長ヲ南京駅ニ見送り。桜木氏等新聞代表慰問ニ来。表忠塔建設委員会▽

16 D 將校通訳ノ非行ニ関スル憲兵ノ調書ヲ中沢參謀長ニ渡ス。

△榊原參謀自動車デ出発、各師団ノ戦跡ヲ見、第十軍ニモ寄ル予定。押目大尉第三飛行団へ転出▽

◇一月二十三日 快晴

△近歩二ノ軍旗祭。朝鮮總督府防空視察団代表師橋大佐以下三名来。川越大使才別レニ伺候▽

飯田大佐ヨリ「長中佐カ句容司令部ニテ加藤勸十外慰問議員団ニ泥酔侮辱ヲ与ヘタ」トノ憲兵情報ヲ送付シ来ル。事実全ク相違シアリ其旨飛行便ニテ返答シ置ク。

△夕食、課長以上殿下ノオ召シニヨリ川越大使献上ノ魚ヲ食スヨウ難有思召。13 D 鳳陽ヲ取ラハ感状ヲヤラウト思ツテ居ルトモ仰セラル。戦死將校ノ誤報告ニテ師団長カ進退伺ヲ出シタルコトニ御同情▽

◇一月二十四日 晴

△汽車デ滁縣へ。13 D 団隊長ニ次ノ作戰ニ関シ訓示、指令、打合せ▽

滁縣ノ町ニハ支那住民相当ニ婦リアリ小商売ヲナシアリト、師団司令部ハ瀬戸物屋及其附近ノ家屋自治委員等ノ手ヲ経テ野菜、豆腐等ヲ購入シアリト。

△13 D ニ10 加一大配属。汽車運行状況。次ノ作戰ニ意気込シテイルカ中央ノ許可ナク、生殺シノ状態デ閉口▽

殿下ノ軍司令官ニアラサレバ独断実施スヘキモノ、殿下ニテハヤルト仰セラレテモ御止メセサルヘカラス。

△6 D 二十三日夜爆撃サレ死傷二十余名。*今井中将ハ二、三日前逝去。同盟、朝日ニュース映画殿下モ台覽。各種配属部隊引キ上ケノ内示、愈々作戰終リナルヘク甚タ不愉快ナル気分ナリ▽

◇一月二十五日 曇

△台湾ヨリ厚東少将慰問ト防空視察ニ来。參謀本部支那班○○△二字空白▽大尉来、支那關係者一丸ノ活動ヲ希望。13 D へ行ツタ結果ノ細部ヲ報告▽

長中佐ノ對議員問題ヲモ報告ス、殿下ハ憲兵カ同志討式ノコトヲヤラヌ様伝ヘ置ケト。

△砲兵大尉三名拔擢ニ関スル件。夜司令部テ万歳、見ニ行カヌ▽

第三飛行団長 値賀忠治 19 期

一課參謀 歩兵少佐 二神 力 34

独立飛行第六中隊は十二年九月以来、上海派遣軍に配属されていた。

特命全權大使 川越 茂 十三年一月帰朝、十二月依願免本官

今井 清 15 期前參謀次長 一月二十日歿(五十七歳)

厚東少将 11 厚東領三 6 期予備役

◇一月二十六日 晴

午前十時十分敵爆撃機十二、城内飛行場ニ爆弾十八個投下、海軍中攻三、ガソリン若干焼失、戦死五、重傷傷十余名。撃墜三、全ク不意ヲウタレ爆弾投下迄知ラス。

殿下ハ13Dノ断然攻撃ヲ希望、中央ノ控制ニ甚タ不満。101D西山参謀長連絡及ヒ感状附与ノ陳情。值賀少将敵機ノ件報告。撃墜敵機ト共ニ二名ノ死者アリ。地図記入ノ文字ヨリ見テ露人ヲシク尚二名ハ落下傘ニテ逃亡シタルカ如シ。

本夕本郷少佐ノ報告。米人経営ノ農具店ニ二十四日夜十一時頃日本兵来リ、留守居ヲ銃剣ニテ脅シ女二人ヲ連行強姦ノ上二時間程シテ帰レリ、依テ訴ヘニ依リ其強姦サレタリト言フ家ヲ確メタルトコロ天野中隊長及兵十数名ノ宿泊セル所ナルヲ以テ、其家屋内ヲ調査セントシタルニ米人二名亦入ラントシ、天野ハ兵ヲ武装集合セシメ逆ニ米人ヲ殴打シ追ヒ出セリ。其知ラセニ依リ本郷参謀現場ニ到リ、中隊長ノ部屋ニ入ラントシタルモ容易ニ入レス、隣室ニハ支那女三、四名在リ強テ天野ノ部屋ニ入レハ女ト同衾シアリシモノノ如ク、女モ寝台上ヨリ出テ来リト、依テ中隊長ヲ訊問シタルニ中隊長ハ其権限ヲ以テ交ル交ル女ヲ連レ来リ金ヲ与ヘテ兵ニモ姦淫セシメ居レリトノコト。依テ憲兵隊長小山中佐及33〔i〕第二大隊〔長〕ヲ呼ヒ明朝ノ出発ヲ延期セシメ大隊長ノ取調ニ引キ続キ憲兵ニテ調フルコトトセリ。

△山口、池田（弟）ト夕食。

◇一月二十七日 曇

△13Dノ攻撃開始ニツイテ方面軍ヨリ電報「徐州作戰ヲ前提トセネハ無意味ナノテ暫ク見合サレタシ。但シ一旦奪取後更ニ後退警備スルナラハ異存ナシ」、西原大佐滌泉へ。松井七夫中将来、病氣ニツキ最高法院ニ見舞イ、松井大将ヨリ佃煮、全員ニ分配。

小山憲兵隊長、堀川新分隊長来リ天野中尉調査ノ概要ヲ聞ク。

◇一月二十八日 晴

△13D攻撃開始。右縦隊方面ニ敵ヲ牽制、果シテウマク行クカ。松井、長、阿南、西ニ手紙。鐘紡慰問団来。芳村参謀帰来、海軍トノ交渉。

本間少将外交関係ノ視察ノ為三十一日来寧ノ由。

◇一月二十九日 正午前ヨリ雪、南京ハ再び銀世界トナル

小山憲兵隊長来リ天野中尉以下ノ件ニ就キ報告、事件送致ニ就キ軍ノ意向ヲ聞ク。依テ中尉以下同宿ノ者全部ヲ送致スヘキヲ希望シ、殿下ニモ報告セリ。

伊太利武官来リ拜謁、例ノ如ク愛嬌ヲ振りマク、伊太利大使館ノ自動車モ一台紛失シ居ル筈ナルヲ以テ、代品ヲ与ヘントシテモ紛失シ居ラス、或ハ支那兵カ一台位持テ行ツタカモ知レヌト言ヒ居レル由。又海軍ニテハ伊船カ武器ヲ積テ支那ニ向ケ航行中ナルヲ探知シ抗議シタル所「ムツソリーニ」ハ直ニ撃沈サレ度ト返電シ来リ、海軍モ今回ニ限り黙認スルコトトナセリト。

天野中尉出発ヲ差止メラレ何トカ穩便ノ取計ヒヲトテ来リシモ、男ヲシク処理セヨト諭シテ帰ヘス。

法務部長ヨリ其後ノ事件ノ報告ヲ聞ク。強姦、傷害等ノ外特ニ甚シキハ横領セル自動車及「タイヤ」ヲ通訳ニ売リタル一団アリ。殿下モ之ニハ呆レテ何トカ注意ノ実行ヲ監督スル手段ヲ講セヨト命ゼラル。小山憲兵隊長ノ申出モアリ、補助憲兵ヲ増加シ憲兵ノ分遣所ヲ城内ニ増加スルコトトセリ。米大使館ニ日本兵侵入事件ハ米本国ノ回訓ニ依リ参謀長カ「アリソン」ニ対シ陳謝スルカ、松井司令官カ米艦隊長官ニ、又ハ東京或ハ「ワシントン」ニテトノコト。更ニ研究スルコトトセルモ大体参謀長陳謝スル考。但之ニテ今迄ノ事件ヲ総テ解消スルヲ条件トシタシ。△松井中将見送り。表忠塔、殿下揮毫ノ件中央カ許可サレス。13Dノ攻勢順調。表忠塔ノ設

101D西山参謀長 步兵大佐 西山
福太郎²⁴期

予備役陸軍中将 松井七夫¹¹期奉
天特務機関長、支那政府応聘奉
天督軍顧問歴任。松井石根大将
の弟。

参本第二部長 本間雅晴¹⁹期

法務部長 高等官三等 塚本浩次

計、入札案ニ捺印。13 D 戦果、左右両縦隊共遺棄死体八百前後、我損害各十数名(中隊長戦死)◇

◇一月三十日 曇リ

△13 D 攻撃続行中。9 D 討伐大ナル収獲ナシ◇

天野中尉以下十二名軍法会議ニ送致。

△軍票ノ一般の使用ニ関スル意見具申、承認。上海派遣軍軍歌制定ノ件。13 D ノ戦況進展。3 D ノ掃蕩。在郷軍人会慰問団篠田中将以下来◇

◇一月三十一日 曇

△在郷軍人慰問団十五名来リ昼会食。西原大佐作戦經過説明。副長、西原ト三人テ審議、部隊感状大体決定。飛行隊増強ノ意見ヲ塚田参謀長ヘ出ス。北島参謀13 D ヘ◇

◇二月一日 晴

△東京府立中、女学校長ノ慰問団来ル◇

本間少将来リ本郷ヨリ従来ノ事件報告(武藤、中山参謀同行)

本間少将談。パネー号モ今後再ヒ如此事件ヲ起ササル如ク処置スト答ヘアリ。十六日声明後ノ国際情勢、未来永劫蔣政権ヲ対手トセス即今後彼レカ降伏シ来ルモ相手トセス(軍令部総長ノ問ニ対スル首相答弁)。蔣政権ノ自壊作用ヲ起ス具体的ノモノ何モナシ、彼等ノ希望ハ日本カ経済的ニ参ルコト、国際情勢力漸次悪化スヘシト云フニ在ルカ如シ。支那ノ頼ムトコロハ英、米、ソヨリ金及物ヲ受クルコトナリ、之ヲ阻止スル方法ハ決定シアラス。ソノ極東兵備ハ急テンボニ進メアリ、日本カ主力ヲ支那ニ打チ込ミタルトキ及英米カ徹底的ニ日本ヲ圧迫スル場合ニハソモ立ツコトアルヘシ。依テ日本ハ今ノ形ヲ悪化セシメス根氣比ヘヲ為スノ外ナカルヘシ。

日英正面衝突ノ時独力依然日本ニ味方スヘキヤ不明。

日本ノ排英気分ニ対シ英カ日本ノ感情ヲ害セサル如ク努メツツアルカ如シ。

パネー号事件以来英米接近セリ。事件当初ハ米ハ事件ニ卷キ込マレサル如ク注意シアリシモ勢力者ノ与論ニ引キスラレツ、硬化シ来レリ。今後ノ国際情勢ノ「ポイント」ハ米カ握リアリ、即正義人道上米与論ヲ刺激セサルコト、即無益ノ紛糾ハ絶対避ケラレタシ。

△武藤大佐ノ用件。13 D ノ作戦ニ関シ中央ヨリ明確ニ、徐州作戦ノ意図ナク徒ニ戦面拡張スヘカラスト。方面軍モ意見具申シタカ認可サレス、ヨツテ掃蕩トノ名目ニシテアルノテ淮河ノ北ニハ出ヌコト。ソノ旨13 D 参謀長ニ電報、近ク第一部長モ来ルノテソノ後現状ヲ見テ決定スルコトニスル。

13 D 臨淮関奪取。鳳陽ヘ約六結◇

本夜ハ本間少将ノ名ニテ各国領事等ヲ呼ヒ副長以下参謀モ行ク。予ハ殊更避ク。

例ノ米領事館侵入事件陳謝ハ原田少将ニトノ本間少将ノ意見ニテ其様ニ交渉スル筈。

◇二月二日 曇

△13 D ハ臨淮関、鳳陽、定遠、蚌埠ヲ占領。本間少将杭州ヘ◇

昨夜ノ各国領事招待ハ彼等ヲ非常ニ満足セシメタルカ如シ。一二・〇〇頃迄帰ラサリシト。

二月上旬ニハ新軍司令部ノ編成令セラレ帰ルコト、ナルラシイ。

△夕食ハ日高参事官上海ヨリ鯛ヲ持参セリトテ、課長以上、天谷少将ヲ招待、チリ◇

◇二月三日 △雨少シ雪◇

△鎮江第三師団司令部、蘇州第九師団司令部ヘ◇

鎮江、無錫、蘇州ハ支那人相当ニ賑カナリ。

篠田次助 10 期 (予備)

方面軍参謀副長 歩兵大佐 武藤

章 25 期

方面軍参謀 航空兵少佐 中山寧

人 33 期

日高信太郎(のち、イタリア駐劄特命全權大使)

◇二月四日 雨

△表忠塔地鎮祭、松井司令官ト会食等△

◇二月五日 雨止マス

△八・〇〇汽車テ出発、南京ニ近ツクニツレテ天候回復。13 D、6 Dノ状況△

◇二月六日 △朝晴後曇、夜小雪△

△歩兵学校ニテ^テあか、あすか、^いてか^弾ノ実験。慰霊祭式場検分。松井司令官出迎へ、夜殿下ト三人デ会食。感状下附ノ件△

◇二月七日 曇、夜晴

午前九・三〇山際少尉(36 i)ニ光華門一番乗りノ功ニ依リ殿下ヨリ御佩用刀ヲ賜ハル。山際少尉ハ其感激ニ依リ特別志願將校タルベク從來ノ決心ヲ變更セリ。御刀ハ備前ノ現代刀匠ノ鍛ヘシモノニテ出来上々、中心ニハ殿下ニ献上ノ旨記サレアリ参謀長ヨリ下賜ノ由来書キヲ与フ。尚殿下ヨリ親シク師団長以下直属上官ノ前ニテ山際少尉ニ御賞詞アリ。

△二〇・〇〇、方面軍司令官ニ対シ殿下、参謀長ヨリ御報告△

一・三〇ヨリ派遣軍慰霊祭、終テ松井軍司令官ヨリ隊長全部ニ対シ次ノ要旨ノ訓示アリ。南京入城ノ時ハ誇ラシキ氣持ニテ其翌日ノ慰霊祭亦其氣分ナリシモ本日ハ悲シミノ氣持ノミナリ。其レハ此五十日間ニ幾多ノ忌ハシキ事件ヲ起シ、戦没將士ノ樹テタル功ヲ半減スルニ至リタレハナリ、何ヲ以テ此英靈ニ見ヘンヤト言フニ在リ。殿下亦御列席ニ殿下ニ対シ奉リ誠ニ申訳ナキ氣持ニテ帰来早速御断ヲ申上ク。

式後司令部ニテ佐方少佐ノ宣撫ニ関スル報告、次テ懇談。(式後松井司令官ノ訓示ハ凱旋氣

分相当ニ横溢シアルハ怪シカラヌトノコトモアリ)

五・〇〇、自治委員会ノ連中ニ大使館ニテ松井司令官ヨリ御話アリ。六・三〇ヨリ隊長ノ会食、松井司令官ハ此時亦宣撫ハ兵十人ニ一人ノ支那人ヲ難有ク思ハセヨトノ御話アリ。

会食後鷹森大佐ト自室ニテ話ス。陣事上攻撃時聯隊砲射撃ニテ敵陣地後方ノ学校炎上シ、為ニ攻撃進捗セルハ全ク天祐ナルコト、第一線大隊長ハ散兵線ノ前ニ出、聯隊長ハ第一線中隊ト同線ニ出ルト言フ氣分ニ自然ニナリシコト、寧ろ早く戦死シタシト思ヒシコト、第一線小隊長モ大、中隊長ノ迫力加ハラサレハ突撃容易ニ出来ス、中島、金谷大隊長モ斬ルソト言ヒシコトアリ、勇敢ナル分隊長カ突撃ノ機ヲ見テ突撃セル場合寧ろ多シト。

△敵機、蚌埠飛行場爆撃△

◇二月八日 快晴

△朝記念撮影。松井司令官、殿下ノ御伴テ兵站病院(政治学校)ヲ見舞フ。松井司令官ヲ見送ル。飛行機報告、芦州ニ向カイ約一万ノ敵前進中。13 Dニ兵力増強。殿下、派遣軍軍歌ヲ更ニ勇壮ナモノニ、トノ仰セ。夕食、上海ノ新聞支局長、福井、田中領事等ヲ招待会食△

殿下カ松井司令官ニ対シ上官トシテ御尽シニナル点誠ニ難有。

◇二月九日 晴

△天谷少将ノ月浦鎮附近突破ノ講話。殿下御巡視ノ件、13 D滁県ニ鉄鎗ト報告。橋本第一部長十三日上海着ノ電報。軍司令部編成換ノ件。夜、十一戦隊司令官近藤少将ヲ招待。

◇二月十日 曇

△殿下御巡視、鎮江テ^カ弾^ノ実験射撃、野重十五聯隊菅野大隊、III(中島)ノ68 i、金山寺見物、3 D司令部テ会食。13 D報告。北島参謀(大学教官)、大西参謀(支那駐在員)ニ異動発令電報来ル直チニ取ラレ大イニ困ル△

「いてか」は「てきか」の誤記と思われる。「てきか」は試製百式「てきか」弾。「てなか」弾を擲弾筒用に発射薬室をつけたもの。射程約百五十メートル。

上海派遣軍の歌

上海派遣軍司令部作詞

- 一、昭和十二年の夏半ば
暴戾支那を懲さんと
曉味き長江に
迫る上海派遣軍
- 二、吳淞沖に轟々と
正義の火蓋切らるれば
敵前上陸たちまちに
羅店に響く関の声
- 三、鉄条網にトーチカに
敵の頼みの陣地帯
篠つく雨や血の嵐
十字火浴びて進撃す
- 四、屍はクリーク埋めども
勇猛果敢な強兵は
大場の堅突破して
血潮を洗ふ蘇州河
- 五、青空高く上海の
囲みを解きしその朝
軍を返して西を指し
水陸追ふや呉福陣
- 六、略)
- 七、我が肉弾の雄叫びは
紫金の峰を揺がせて
鉄血奪ふ光華門
見よ感激の日章旗
- 八、長駆追撃一百里
青史を永く飾るべき
首都南京の入城に
たふれし戦友も微笑まん

仏航空中佐上陸、大使館ヲ見大体満足ノ意ヲ表シタリト、又オランダ領事モ上陸セリ。

◇二月十一日 紀元節 快晴

△新軍司令部ニ残ル人名、内地帰還部隊ノ通達、編制改正及帰還打合せノ通牒アリ。13 D 方面大ナル変化ヲ認メス。感状ノ御裁決▽

◇二月十二日 晴後曇

△永津大佐上陸時ノ講話。殿下兵站病馬廠、野戦氣象班、支那防空司令所（地下）御視察。玄武湖一周△抗日戦陣没將士ノ立派ナ碑カアリ如何ニ処置スヘキカ問題トナル。△101 D 長伊東中將来、杭州攻撃ノ概況ノ報告アリ▽

福井領事ヨリ対米、侵害事件国旗凌辱事件ハ其事実アリトセハ陳謝スル旨ヲ軍ニ相談承認ス。△中略▽米領事「アリソン」ヨリ一月二十八日以後二月一日迄ノ日本兵ノ非行トシテ掠奪強姦八十九件ヲ抗議シ来レリ。甚タ誇大ナルヘキモ日本兵ノ非行ハ憲兵ノ報告ノミニテモ数件アリ実ニ慨嘆ニ堪ヘス。

△13 D ハ臨淮関、蚌埠ノ対岸ヲ攻撃、遺棄死体一千五百、機関銃小銃多数鹵獲、俘虜百五十、我戦死四二負傷百二、三十名▽

◇二月十三日 雨後曇リ

△司令官及ヒ首脳部ノ南京出發ハ十八日、上海出發ハ二十二、三日。新軍司令官十七日着任▽

◇二月十四日 曇後晴

△大坪参謀ヨリ、三軍司令官ハ各別ノ船。参内ハ三司令官揃イ二十七、八日ノ予定▽

〔以下帰還及び帰還後の行動記録のみ記述し重要事項は別記〕

歩兵第六十八聯隊長 鷹森 孝 20 期

歩兵第二十二聯隊長 永津佐比重

23 期

101 D 長 伊東政喜^{まさし} 14 期（予備）

13・2・41 中支那派遣軍司令官、陸軍大將 畑 俊六^{しげむ} 12 期新任

松井大將（瑞穂丸）、柳川中將（東京丸）、朝香宮（吉野丸）

◇二月十八日 八・〇〇南京出發、午後六・〇〇上海着。

◇二月二十一日 松井司令官上海出發。

◇二月二十三日 午後二・〇〇乗船、三・〇〇出發。

◇二月二十五日 午前九・〇〇、門司着。

◇二月二十六日 午前九・三〇、東京着。参謀本部ニテ総長殿下ノ御乾杯、偕行社ニテ休憩、葉山ヘ上奏ノ御伴。拜謁。皇后陛下御喪ニツキ拜謁ナシ御詞（別掲1）

◇二月二十七日 明治神宮、靖国神社参拝。

◇二月二十八日 士官学校ニ申告。三軍司令官同列ニテ、総長殿下ニ報告。陸軍大臣官邸ニテ

乾杯。皇太后陛下ニ拜謁、（御詞別掲2）御賜餐。

◇三月一日 賀陽宮御殿、總監部、東部防衛司令部ヲ回り参謀本部ニテ次長、第一、第二部長ニ意見ヲ述ヘル（別掲3）（次長返事、別掲4）。午後軍令部、海軍省、外務省、各御殿。軍人会館デ三長官ノ招宴。

◇三月二日 部隊功績審査。松井大將放送。

◇三月五日 三軍司令官同列テ幕僚長殿下ヨリ御訓示。夜殿下ニオ伴シ鳥羽行ニ乗車。

◇三月六日 午前兩神宮参拝、京都へ。

◇三月七日 桃山御陵、畝傍御陵、檀原神宮等御参拝。

◇三月八日 名古屋着、熱田神宮御参拝。九・〇〇東京帰着。

◇三月九日 第二次部隊品川着。

飯沼少將は十三年三月十四日附、陸軍予科士官学校幹事となる。

◇三月十日 松井司令官、派遣軍ノ幕僚部長ヲ招待。公会堂テ講演、全国ニ中継放送（上出来、且其内容誠ニ立派）。

◇三月十三日 歩三ニテ殿下ヨリ御訓示（別掲5）。解散ノ行事ヲナス。ヒットラー、オーストリア併合。

〔日記は三月十五日まで。最終ページのメモ〕

協同犠牲ノ精神。

方面軍ノ指揮統帥。

国軍ノ戦争指導。

幕僚勤務ノ地味ナル教育。

幕僚ノ精神教育。

砲弾ノ重点使用ヲ明記ス。

追撃発起、後方ヨリカ多シ、追撃ノ困難。統帥部ノ注意、気分ヲ抜カサルコト、軍隊指揮又同様ナリ（13Dノ作戰一例）。

最後ハ銃剣ノ例。

別 掲

（日記完）

（別掲1） 皇后陛下ノ御詞

「永々御苦勞テアリマシタ。又今回ハ御凱旋御芽出度存シマス」

（別掲2） 皇太后陛下ノ御詞

「永々戦地ニ於テ御苦勞テアリマシタ。又芽出度御凱旋御喜申上マス」

（別掲3） 三司令官ノ意見

殿下——中央ハ北支ト中支トノ差異ヲ十分認識スルコト。現在ハ武力ニ依リ圧迫シアルモノ

ニテ決シテ日本ニ依存シアラス。小学校ヨリ徹底セル抗日教育ナリ、故ニ現在ノ如キ消極的方針ニテハ新政権モ成立セス。新政府ハ南京ニ置クラ可トス。津浦線ハ南北通セサルヘカラス。現在ノママニテハ一般支那人ニ如何ナル感想ヲ与フルヤ、李宋仁ノ如キモ武力行為ト相俟テ傾クヘシ。之カ為ノ兵力ハ13Dト一旅団位ニテ足ル。掃蕩後ノ守備兵力モ中央ノ考ヘノ如ク三師団モ必要ニハアラス。現ニ江北二十何県連署ノ帰順申出アリ、又之ニ依リ海軍ノ沿岸警備兵力モ大ニ節減シ得。後方、内地ノ者ト第一線トハ気分異ル故ニ守備線ノ如キハ軍司令官ニ一任スルヲ可トス。

廬州ハ是非占領セシムル要アリ地上ノ敵ニ対シテモ又敵航空機ニ対シテモ必要ナリ。又全般ニ消極案ナリトモ必要ナル資源ヲ獲得スルニ足ル地方ハ占領スルヲ要ス。南支ヨリスル敵ノ補給路ヲ空爆ニ依リ脅威スル為ニモ安慶ハ攻略スルノ要アリ而シテ其第一段ハ廬州ナリ。以上ハ中支以外ノ状況ハ詳知セサル意見ナルモ要ハ虎穴ニ入りテ虎児ヲ獲ルノ覚悟ヲ必要トス。

柳川中将——後方ノ交通々信ヲ整備シ兵力移動ヲ容易ニシ之ヲ節約スルヲ要ス。後方部隊又整理ノ余地アリ。南部寧国其他若干第一線ヲ推進スルハ得策ニシテ之カ計画ニ帰還ヲ命セラレ申送リヲナシ来レトコロナリ。

松井大将——中支派遣軍ノ現在ノ任務達成上モ廬州及錢塘江対岸ヲ占領スルハ最少限ノ必要事項ナリ。江北要地ノ占領ハ江南確保上必要ナルコトナリ。政略的ニ見ルモ中支軍ノ占領地ヲ拡大スルコトハ必要ニテ、新政権樹立ノ為ニモ徐州攻略ハ緊要事ナリ、此事ハ支那人ノ皆述ヘアルトコトナリ。李宋仁ハ自分ノ見ルトコロニテハ反蔣人物ナリ。

安慶占領ハ漢口ヲ脅威スル為是非必要ナリ、支那機ハ現ニ台湾ニ来リシカニ、三月スレハ内地ヲモ襲フヘシ、然ラストスルモ上海カ再ヒ敵機ノ脅威下ニ置カルルニ至ラハ全般ニ及ホス影響シテ如何、之カ為安慶ハ是非我手ニ収メサルヘカラズ。蔣最後ノ逃場ハ四川ニアラスシテ西南方ナルヘシ。之ヲ脅威スル為安慶対岸ニ地歩ヲ占メ必要トアラハ直ニ広西ニ進撃スルノ勢ヲ示スノ要アリ。浙江ノ中枢部ハ寧波、紹興方面ナルヲ以テ此方面迄ハ占領スルヲ有利トス。

二月二十三日、中国軍機、台北付近を爆撃

昭和十二年十二月十七日

參謀 二神	步兵少佐	一、教育訓練ニ関スル事項（砲兵航空兵ニ関スル事項及施設ヲ除ク） 二、諸条規、典範令ニ関スル事項（一、砲兵、航空兵ニ関スル事項ヲ除ク） 三、戰闘詳報陣中日誌ノ記載 四、作戰ニ関係アル命令通報報告ノ發送受領
參謀 松田	海軍大佐	陸海軍協同ニ関スル事項
參謀 青木	海軍少佐	航空ニ関スル陸海軍協同事項
部附 山田	工兵中佐	工兵及築城ニ関スル事項ニツキ主任參謀ノ補佐
部附 藤田	歩兵中佐	庶務ニ関スル事項
部附 金原	工兵少佐	化学戰及試験研究ニ関スル事項ニツキ主任參謀ノ補佐
部附 福田	砲兵少佐	一、電報ニ関スル業務ノ統制 二、暗号電報ノ組立翻譯
部附 押目	航空兵大尉	航空兵ニ関スル事項ニツキ主任參謀ノ補佐
部附 関口	歩兵大尉	暗号電報ノ組立翻譯
部附 山本	砲兵大尉	暗号電報ノ組立翻譯
備考		右ノ如ク分担ヲ定ムト雖モ相互連繫ヲ密ニシ業務ニ支障無カラシムルモノトス

軍 医 部						經 理 部												区 分
部 員					部 長	部 員											部 長	職
同	同	同	軍大尉	軍少佐	軍少將	技師(七)	同	同	主少尉	主大尉	同	同	同	同	主少佐	主中佐	主少將	官
前田	平賀	渡辺	植田	小出	笹井	川上	川田	児島	平沼	岡野	松崎	藤岡	岡村	津野	岡田	明石	根岸	氏名
三基	稔	進	豊	宗次	秀恕	行敏	正雄	貞三郎	光平	節夫	喬	隆	潔	繁次郎	酉次	猛繁	莞爾	
部令司軍		軍 司 令 部 附								法 務 部		獸 医 部				軍 医 部		区 分
遣棄物蒐集班	通信班									部 員	部 長	部 員			部 長	部 員	職	
砲少尉	歩少尉	軍中尉	軍大尉	軍少佐	軍中佐	軍大佐	歩大尉	航少佐	同	法務官	法務官	獸中尉	同	同	獸少佐	獸少將	嘱託	官
古谷	鈴木	横山	大庭	渡辺	岡田	小宮山	等々力	下山	森	菅野	塚本	堤	小庄	佐藤	富満	橋本	高橋	氏名
以知郎	竹次郎	郁郎	七夫	薫	恒吉	友則	竜雄	俊作	近章	保之	浩次	可夫	干城	亮太郎	行夫	庄太郎	茂次	

僚																	幕																	区
部官副					部謀参																	職												
					課三第																													
副官					部附													参謀	官															
					同	砲大尉	同	少佐	歩中佐	砲大尉	同	工大尉	砲大尉	工少佐	砲少佐	同	工少佐	同		輜少佐	砲少佐	歩中佐	海中佐	氏名										
同	砲大尉	同	少佐	歩中佐	砲大尉	同	工大尉	砲大尉	工少佐	砲少佐	同	工少佐	同	輜少佐	砲少佐	歩中佐	海中佐	氏名																
高橋忠道	平野勤	揚田虎巳	森重逸雄	川勝郁郎	ヶ山本一秀	古賀砂雄	(通)清水武雄	田地秀朔	(給水)佐々哲爾	ヶ福田光威	ヶ金原定一郎	ヶ鴨沢恒三郎	武居卯一	折田義一	ヶ北原栄	伊藤豪	ヶ長岡博吉	氏名																
兵器部								属隷部理管						管理部				区																
部員								行		衛		憲		部員				部長		職														
								李	兵	兵	兵																							
部員								長		長		長		部員				部長		官														
								長	長	長																								
砲大尉	同	工少佐	同	砲少佐	歩中佐	砲中佐	少将	輜少尉	歩少尉	騎大尉	憲中尉	憲大尉	憲少佐	主大尉	同	砲大尉	歩中佐	氏名																
ヶ田地秀朔	ヶ金原定一郎	鴨沢恒三郎	小久保詮三郎	北原栄	遠山一彦	鈴木正	福原豊三	山本明治	羽田四郎	早尾矢指曆	千崎関吾	宮崎有恒	横田正隆	二川喜代治	山下務	平野勤	ヶ川勝郁郎	氏名																

戦車V大	迫撃大隊(2)	後備BA	MG ^s (3)
戦車砲	軽迫	41式BA	92式MG
39	72	4	72
城攻ISA ^s	SA ^s 二大	5SAB	10SA ^A R
15C白	12H	式三八15H	式四年15H
12	24	48	24
AA(10)	15SA ^R s	城攻重砲隊	同II SA ^s
7cm	10K	30C迫	24H
20	16	1	8

重要兵器調(師団外)

十月十日現在

支重 隊藤	101 D	13 D	11 D	9 D	3 D	
144	292	292	292	292	292	Lg
48			100	100	100	92式MG
	80	80				3年式MG
144			288	288	288	重擲
				(8)	16	37ミリ砲
				(8)	24	92式iA
						平射iA
8	8	8	16	16		
12	16	16	24	24		曲射iA
					16	41BA
	12	12				31BA
					36	改造A
	36					38A
8		36	36	36		94BA
					12	10CH

重要兵器調(師団)

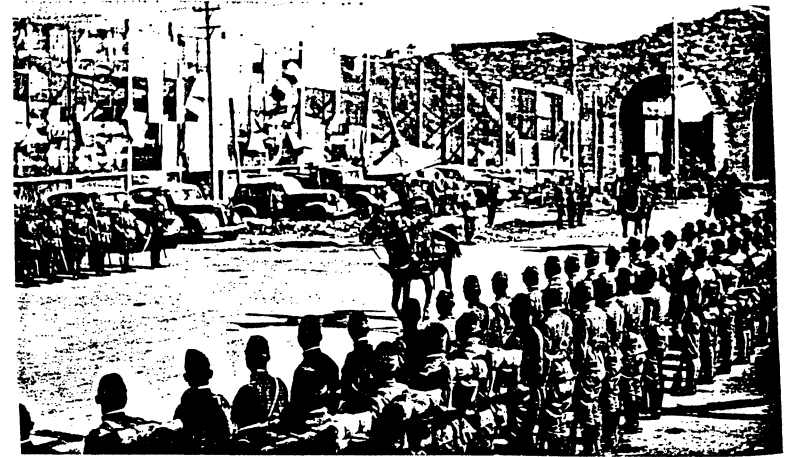
(8)は余分に携行

十月十日現在

考 備		軍 司 令 部								区
一、本表中(瓦)ハ瓦斯ヲ(暗)ハ暗号ヲ(通)ハ通信ヲケハ部内ノ兼勤ヲ㊦ハ中支那方面軍トノ兼勤ヲ示ス	郵便業務			給水業務				遺棄物蒐集班	分	職
	同	同	事務官	同	同	軍中尉	軍少佐	歩少尉	官	氏
	長谷川	山森	佐々木	岸本	山野内	平野	北条	角田	名	
	忠治	一雄	元勝	茂次郎	祐次郎	喬治	円了	益吉	区	
	軍 司 令 部								分	職
	通訳		郵便業務						官	氏
	同	陸軍文官四	同	同	同	同	同	同	名	
	(五)									
	藤木	神吉	横井	藤田	武永	山口	土居	野崎		
	敦実	三郎	新一	弥平	正人	房太	昌平	万三郎		

上^{うえ}
村^{むら}
利^{とし}
道^{みち}
日
記

上海派遣軍参謀副長・歩兵大佐
22期



南京入城式



祭文を読む松井大将



慰靈祭式場にて長谷川長官，松井大将，朝香宮

昭和十二年

◇ 十二月一日 晴

〔豫記〕 参謀次長方面軍来着／上海派遣軍臨時兵站部編成／3D9D11Dニ対スル感状軍司令官ノ決裁ヲ受ク

中支那方面軍司令部ニ松井將軍訪問予テ命セラレアル感状ノ決裁ヲ受ケ在蘇州参謀長ニ送付ス。

本日臨時兵站部発令予ハ其部長トナル「中支那碇泊場監ニ挨拶」新任務ニ就キ愉快ナリ早速訓示ヲ出スコトス。

管理部二川大尉ノ斡旋ニ依リガス暖炉ナト一通リ整ヒ生活ニ便利ナリ。

当番正直ニシテ能ク勉強スルモ遺漏多ク眼ヲ離セス昨日ノ引越ニ於テ要書入箱一箇蘇州ニ置キ忘レタリ明日受取ニ行クコトヲ命ス。

上海派遣軍司令官松井大將中支那方面軍司令官ニ專補

新ニ派遣軍司令官任命アリシ筈ナルモ其誰ナリヤ未タ判明セス。中村孝太郎將軍下馬評ニ上ルノミ。

◇ 十二月二日 晴

〔発信〕 山本亀彦／啓子／豊島少將／水上大尉／櫛田少佐

午前中兵站部員ヘノ挨拶、状況聴取。

状況サツパリ判ラス飛行便ニテ来リシ内地ノ新聞ニヨリ初メテ江陰要塞モ昨日陥落、丹陽城

モ一部奪取セシ旨承知ス但シ真偽ノ程元ヨリ不明。

午後終日無為、暇ニテ仕方ナシ。

久シ振リニ理髪ス二十数日振リナリ。

当番兵小林君蘇州へ置キ忘レノ荷物ヲ取リニ行ク。行違ニタ刻其荷物ハ到着セリ。氣ノ毒ナルコトナリ。代リニ馬持兵ノ山崎君代理、荒削リノ接待ナリ。

◇ 十二月三日 快晴

〔予記〕 16 D 9 D ニ句容、天王寺ニ向ヒ追撃ヲ命ス（軍、昨日）

午前野戦工兵廠長、兵站自動車隊長、野戦自動車廠長等狀況報告ニ来部。

午後在室想ヲ練ル。

軍命令ニヨレハ更ニ句容、天王寺ニ向ヒ第一線兵団ニハ追撃ヲ命シ又常州北方地区ヨリ揚子江左岸ノ攻撃ヲ準備シアルカ如ク兵站ノ推進愈々急ナルヲ要スルカ如キ状態ナリ。部員連中如何ニモ「ノンビリ」シアルカ如キ状態ナリ。又タ現地ノ指導モ果シテ如何カト思フ明日ヨリ現地ノ状況ヲ視察スヘシ。

昨日蘇州ニ出懸ケシ当番本日帰着ス。

新軍司令官ノ訓示送付シ来ル杜撰ナルモノニテ加筆ス尚旧軍司令官ノ離任ノ辞ヲ起案ス。

◇ 十二月四日 晴

〔予記〕 後任軍司令官朝香宮殿下ノ報アリ。

〔受信〕 家ヨリ托送品届ク／富田直亮少佐

大場鎮軍司令部ニ残留セシ各部凡テ無錫軍司令部ニ引キ越シヲナス之ニテ残レルハ凡テ兵站関係者ノミトナル

上海兵站司令部其他兵站関係箇所ヲ視察ス、恰カモ無錫付近ニテ負傷セシ高橋大佐（台歩二

長）兵站病院ニ入院シアルヲ見舞フ、元氣ナリ。

方面軍司令部ニ松井將軍其他ヲ歴訪、別段ノ要件ナシ多田參謀次長塚田參謀長室ニ在リ挨拶ス彼レ一言御苦勞トモ云ハス頗ル無愛想ナリ。随行ノ荒尾少佐ヨリ留守宅ヨリ托送ノ「シヤツ」及庶務課ヨリ慰問ノ羊羹ヲ頂戴ス。

塚田參謀長ノ電話ニヨレハ後任軍司令官ハ朝香宮殿下ナリト実ニ有リ難キコトナリ。御着任ハ未定。

第一線ハ大ニ進出シ丹陽、金壇ヲ越エ白兔鎮、林山ニ達セリト（3/10ノ狀況）何十日振リカニ入浴ス。

当番一名臨時配属面食フ。

◇ 十二月五日 晴

〔予記〕 武藤／松井

戦況ハ進ム盲目滅法ナリ9 Dハ既ニ本夕淳化鎮（南京東南四里）ニ達ス。丸テ各兵団ノ「マラソン」競争ニテ後方ノ追及モ何モアツタモノニアラス方面軍ニテハ南京入城ニ関スル統制命令ヲ下セリ宮殿下ノ御着任後南京入城トナレハ実ニ結構ナルカ此調子ニテハ迎モ御間ニ合ハサルヘシ。二川大尉ニ命シ御調度品其他ノ準備ヲ命ス。

方面軍司令部訪問松井將軍離任ノ辞ノ決裁ヲ受ケ殿下ノ件ト共ニ參謀長ニ送付ス。將軍能ク出来タト嘉賞ス。悪イ氣持ハセズ。

M大佐M將軍ノ駄々ツ兒ニ就テ愚痴ル。根本思想相違ナリ。

本日松江方面鉄道ノ初運転ヲナセシ由、南京方面ニハ七日ヨリ運行予定ナリト云フ。佐藤大佐報告ニ来ル。

夜半軍司令官宮殿下明午後二・三〇（驅逐艦たかしを）ニテ御到着、三・〇〇御上陸ノ旨拝承シ夫々明日ノ手配ヲナス。恰カモ好シ高橋副官侍從武官ノ警衛ニ伴ヒシ自動車及新ニ購入シ

上海派遣軍野戦工兵廠長 工兵中佐 水谷盛一

上海派遣軍野戦自動車廠長 輜重兵中佐 清 治平

鉄道第一聯隊長 工兵大佐 佐藤 實²²期

テ整備セル自動車アリ之ヲ充当スルコトトス。

9 Dハ南京東南方約四里ノ地点ニ到着シアリ。南京進入目睫ノ間ニ逼ル。

◇ 十二月六日 晴

〔予記〕 朝香宮軍司令官殿下御着任（上海）

宮殿下ノ御宿所ヲ武官室ニ申込ミシモ更ニ御乗艦ニ御一泊ヲ願ヒ三・〇〇御上陸直チニ大場鎮軍司令部ニ次テ方面軍司令部ニ御来リアリテ申告及ヒ事務引継キヲナス如ク決定、其手配ヲナス。途中軍司令部（方面）ニテ自動車ヲ方軍警ニ奪取セラレ大迷惑ヲナス。予定通り午後行事ヲ了リ帰宿夕食ヲ済マセハ八・〇〇ナリ。（二日発令セラレシ由ナルカ其電報普通ノ祝電ト混合、方面軍ニ到着セルハ本朝ナリト）

今ヨリ我等モ宮様部隊トシテ今ヨリ肩身広キ感アリ御出迎以來自動車ニ御陪乘御案内御視察ノ任ニ当リ光榮至極ナリ。粉骨碎身誓イテ忠勤ヲ期ス。

股ノ腫物漸ク膏藥ニテ処置シ得ルニ至ル幸ナリ。

○上海市内ノ廢墟ヲ御覽ニナリ鉄屑等特ニ御目ニ留ラル。

○御言葉使ヒナド敬語ヲ含マセラルコトニハ恐縮ス。

◇ 十二月七日 晴 霜深シ

〔予記〕 軍司令官上海發、無錫軍司令部ニ向ハセラル（師範學校）／総務部長ヨリ參謀長

宛殿下ノ御性格ニ就テ補佐上ノ參考ヲ申来ル。／自カラ將器具ハル、只方面軍トノ關係ヲ円滑ナラシムル様特ニ注意ヲ喚起セラル。

軍司令官宮殿下上海發無錫ニ向ハセラル。予ハ御同乗沿道ノ御説明申上ク。種々微細ナルコトモ御目ニ留マリ殆ント間断ナク種々ノ御下問御談話アリ。煙草ハ行動間一切御用ヒアラセラレス沿道ノ兵ニシテ敬礼スルモノアレハ必ス御答礼アラセラル。殿下ト知ラスシテ「ポカン」

ト眺メアル兵モアリ畏レ多キコトナリ。支那民衆ノ氣ノ毒ナルコトニハ特ニ御留意アリシ如シ。

○支那ノ民衆ハ如何ナル氣持ニ在ルヤ？ ヲ有セラルルカ如シ。

○3 D司令部ト部隊トノ間都合良ク行キアルヤニ御懸念アル如シ。

○派遣軍ハ軍司令官ノ責任ニテ「ガス」ヲ何故使用セサリシヤ。

○駄馬師団ハ必要ナルヤニ？ ヲ有セラル。

○*鉄道聯隊ヲ二大隊ニ減セルコトニ御不満アルカ如シ。

○強剛ナル部下ヲ有スル隊長ハ幸福ナリ。

午後四・〇〇頃軍司令部御到着。將校ノ伺候及訓示ヲ遊ハサル。御乗車約七時間御疲レノ様子モ見エス。幸ナリ。

◇ 十二月八日 晴 霜深シ

〔予記〕 軍司令部無錫ヨリ句容ニ移転ス。（各部ハ殘留）

○ 13 Dノ一部江陰ニテ左岸ニ渡河靖江ヲ占領ス

○ 天谷支隊鎮江攻略

八・三〇無錫司令部發。山室師団長見送リニ来部。青陽鎮―常州―金壇―丹陽―句容道ヲ句容ニ向フ。句容着四・〇〇同地県公所ノ司令部ニ入ル。地形漸次上海付近ト異ナリ「クリーク」影ヲ没シ大陸のトナル。丹陽以西全ク大陸のナリ。句容ニ近クニ從ヒ戰場ニ入ルノ思アリ句容ニテハ16 D方面（湯山方向）ニ銃砲声ノ殷々タルヲ聞ク夕刻飛行機ノ連絡ニ依レハ16 Dハ既ニ湯山ノ陣地ヲ突破シ9 D方面亦先頭ハ高廟ニ達シ南京市街ハ炎々燃エ上リ居レリト云フ。13 Dノ一部ハ江陰対岸ニ本朝渡河靖江ヲ屠リ天谷支隊又鎮江攻略、城内掃蕩中ナリト而シテ約一、〇〇〇ノ敵ハ西方ニ退走中ナル由、全般ノ狀勢ハ南京ノ陷落ハ目睫ノ間ニ迫ル。殿下ノ御言葉ニヨレハ方面軍ニテ統制ハナシアルモ見ス見ス敵ヲ逃スハ殘念ナリ16 Dノ一部ヲ以テ下関

動員計画によれば鉄道聯隊の編成は大隊四、材料廠一から成り、大隊は二ヶ中隊、中隊は四ヶ小队である

ニ進メ其退路ヲ遮断セシメヨト、御尤モナルコトナリ。

昨夜南京虫ニ攻メラレ大開口、本夜又或ハ然ランカト心配ス。明日ハ句容ヨリ飛行機ニテ上海ニ帰ルヘシ。旅鳥ハ実ニ不便ナリ。

◇ 十二月九日 晴

〔予記〕 句容軍司令部発周宅ノ兵站部ニ帰任（飛行機）

○ 天谷支隊鎮江ヲ占領ス。

○ 南京陥落近シ。

皇軍追撃如疾風ノ一挙八十里迫南京

蔣也夫如何首都ノ抗日壊滅半月高

9Dノ☆*高橋門（南京城東南方約四料）16Dハ麒麟門ニ進出（本朝）セル由ニテ南京ノ陥落ハ今明日ニ迫ル。但城内突入ハ方面軍ニテ統制スル為メ見合ハセアルヘシ。午後「フオツカ」機ニテ句容飛行場発上海ニ帰ル。所要時間一時間ト十分、実ニ氣持好キ空ノ旅行ナリ。帰任ノ申告ヲ殿下ニナセハ畏クモ葡萄酒ノ湯吞ヲ揚ケテ乾杯セラル、畏キ極ミナリ。

第十六師団中島中将負傷ノ旨本朝軍医部々員ノ報告ヲ受ク。帰部後八日ノ内地夕刊ヲ見ルニ「七日午後三時四十分頃受傷」ノ旨新聞ニ在リ、新聞通信ノ快速正ニ三嘆。

三日二夜ノ旅ニ出テ不自由ヲ続ケ帰り著ケハ今更ナカラ不完全ナカラ自己ノ居住ノ難有キコトヲハ痛感ス。輻湊セル内地新聞ヲ読ミ耽リ暖タカキ我カ床上ニ横ハル。

◇ 十二月十日 晴、曇

流石我カ寢床ハ氣持好ク十分快眠ス。田村大佐現地指導ノ為メ兵站地ヲ巡視スルニ付意圖ヲ示シテ効果的ナラシム。兵站司令官ノ報告ニヨレバ陸家巷ニテ巡察兵一名日中敗残兵ヲシキ者ノ狙撃ヲ受ケ遂ニ死亡セシ由（六日）聊カ眉唾モノナリ。是レヨリ此種事故多カラン。大

シタ業務モナク内地新聞ノ残リヲ耽読ス。南京祝賀（占領）ノ準備ニ大童ナリ。

暫ク振リニ入浴股ノ腫物モ全快、先月十八日受診以来二十八日約一ヶ月要セリ。厄介ヲ懸ケシ植田軍イ大尉ニ御礼ノ意味ニテ到来物ノ羊かん一個呈上ス。

情報ハ八日迄ノ分ニテ不明、噂ニ依レハ入城式ハ十五日ノ予定ナリト、固有ノ部隊ハ大挙参加スルモノトス。

○ 皇軍の野口の跡や紙まばら

計らずもつい漏れにけり秋乃水

◇ 十二月十一日 晴

〔予記〕 主地兵站司令部ノ一部視察（千田大佐ノ宿舍ニテ昼食ノ馳走ニナル）

〔発信〕 惠津子ニ

兵站部所属ノ固有軍司令部員ハ南京ノ入城式参加旁々兵站業務ノ現状実視ノ為メ本日司令部出発、軍司令部ニ向フ。部長独リ残留スルモ何等仕事ナシ明日出発ニ決ス。重藤支隊副官及11D長ニ軍司令官宮殿下ノ御伝言ヲ伝達ス。併セテ訣別ス。主地兵站司令官ノ案内ニテ午前ヨリ午後二重リ上海市内ノ宿营地及虹虹碼頭附近ノ若干ヲ視察ス。将来軍トシテ指導ヲ要スルモノアリ。此間6Dノ後備隊ヲ指揮セル桂松義乗君ニ偶然会遇ス。此度出征セシナリ。軍通信隊附少佐ニ会ス。方面軍ノ通信施設ノ為メ行動シアル由、同通信隊長ニハ附大佐寺田大佐ヲ充ツレハ都合好カリシニ近頃ノ人事ハ全ク無茶ニシテ何等統制ナキ感アリ。

千田大佐戦場掃除ノ談ニヨレハ阨家宅附近ニハ彼我組打チタル儘共ニ仆レシ屍体アリト、南京攻略後大整理ヲ要ス。

◇ 十二月十二日 晴

〔予記〕 周宅発、無錫軍司令部ニ至ル。

☆歩兵旅団司令部の軍隊符号

第九師団第一兵站司令部 歩兵大佐 千田侃次郎^{15期}

海軍機英艦銃砲撃ハレディバード号、ビー号、クリケット、スカラップ^ス及米艦
「スカラップ」
ハバネー号及商船三隻ヲ爆撃ス。

南京入城式参加ノ為メ九・〇〇周宅軍司令部発先ツ無錫ニ向フ。約ニヨリ参本ノ出張者高沢
大尉ヲ同行ス。午後〇時半常熟兵站支部ニ立寄り指導、一・三〇同地出發無錫軍司令部ニ宿營
準備ヲ委托シ次テ江陰視察、同地兵站支部指導、砲台ノ一部ヲ見学、六・〇〇無錫軍司令部ニ
到着宿營。此日ノ走破距離二五〇^リ。大西参謀偶々同司令部ニ在リ、皇軍不軍紀ノ一端ヲ耳
ニス。実ニ遺憾千万ナルコトナリ。

◇ 十二月十三日 晴

〔予記〕 本夕完全ニ南京城ヲ占領ス。

南京陥落

難戦苦闘十九週ノ衆心等向南京城
遂提獲首都攻略ノ生靈万余感無量

〔受信〕 管儀一（日本基督教青年会）

七・〇〇無錫軍司令部發常州—金壇城—丹陽—鎮江—句容ヲ經テ湯水鎮軍司令部着四・〇
〇。時ニ敗殘兵約千名軍司令部北方山地面ニ現ハレ軍司令部ノ守備兵トノ間ニ戰鬪行ハレ屋上
ヨリ眼ノアタリ展望ス。高射砲地上射撃ヲ以テ之ヲ撃ツモ敵ハ悠々トシテ對戦、其勇敢ナル態
度感心スヘキモノアリ。9 D ヨリ先ツ二中隊、次テ19 i ノ二大隊、戦車、飛行機ノ増援アリ、
之ヲ驅逐セルモ夜ニ入りテ月明下尚銃声轟キ南京攻略ノ大団円ト見ルヘシ。好イトキニ進出セ
ルヲ喜ブ。軍衛兵ノ損害戦死一、傷一四。

此数日ノ状況サッパリ判明セサリシカ9 D ノ36 i 南京城門奇襲不成却ツテ約千名ノ損害ア
リ。16 D ハ砲撃後市内ニ侵入、敵兵城外ニ出テ三面合撃四、五千ノ損害ヲ与ヘタルコト（此強
敵力突出シアルコト）一列車一飛行機（片羽根）ヲ押エリシコト等——種々ノ状報ニ接ス。

尚照空灯一隊敗殘兵ノ為メ全滅セル情報アリ。

◇ 十二月十四日 晴

〔予記〕 北京ニ臨時政府成立

〔発信〕 管儀一

寢台狭ク頭支フル如キ代物ナレトモ割合ニ好ク眠レリ。何シロ不在中除ケモノニサレ臨時飛
入ノ形ニテ室モ北向キノ終日日当ラサル不健康室ナレトモ管理部員モ相当ニ苦勞セルモノナル
ヘシ無論此ノ如キ私事ニ叱言ヲ言フ筋ニモアラス。居心地悪ケレト仕方ナシ』

軍司令官宮殿下ヨリ御菓子其他ノ御下賜品アリ勿体ナキコトナリ』午後退屈キニ附近ヲ散
策ス。丘陵起伏、冬日遅々実ニ氣持好シ。此附近ニ永久駐劄ナレバ実ニ結構ナリトノコトニ衆
口一致ス』

山の峽に敗殘兵討伐の銃火木だまして

稜線上を動く兵見ゆ

◇ 十二月十五日 晴

〔予記〕 南京の城の防壁堅けれど守る人なき没落の国

中山陵に眠る総理の靈あらば今日の姿を如何に見るらむ

臨時兵站部ノ職員一同車ヲ連ネテ南京ニ入城ス。恰カモ兵站部入城式ノ觀アリ。中山門—軍
官学校—玄武門—興中門—下関—大使館—武官室—市政府—中山陵等ヲ經テ帰部。（一〇・〇
〇—六・三〇）

○南京城ヲ失ヒシ蔣介石ノ意中夫レ如何、中山陵ニ眠ル中山ノ靈

夫レ如何、国民党員夫レ如何。

○俘虜モ多数アルカ如シ、將校ナシ、哀レムヘキハ兵ナリ。

○海軍ノ名譽欲嫌氣サス。瀬田已ニ下関埠頭ニ在リ。從來爆撃ノ効果見ルヘキモノナシ。

○市内ノ秩序ハ可ナルモ10A方面不良。中山陵正ニ荒サレントスル形勢ニ在リ。無智ノ兵可

☆、幹部ノ指導果シテ明確ニ行キ届キアリヤ。

○城壁ヲ守リテ真ニ死守セハ攻略ハ進マサルヘシ、守ルハ人ニ在リノ感深シ。

本日天王寺南方地区ニ於テ3Dノ軍、經、兵各部長敗殘兵五〇〇ニ襲撃サレシ由、結局無事ナリシハ仕合ハセ。

◇ 十二月十六日 晴 東南風強シ

〔予記〕 臨時兵站部解散

揚州方面天谷支隊約四、〇〇〇ノ敵ヲ驅逐シテ同地ニ在リ、13D主力亦同地通過西進、敵ノ抵抗モ決死的ナラス。北島參謀以上ノ件ヲ飛行機ニテ連絡ス。

入城式明日決行、參謀長ハ下檢分ノ為メ午後同地ニ行ク。16D參謀長ハ警備上責任ヲ負エスト云フ由ナルモ吾人ノ見ヲ以テスレハ其理由ナシ、責任回避ノ辞カ『兵站部ハ其必要去リ昨十五日午後六時ノ発令ヲ以テ解散ス。家具類ヲ送付スヘク上海ニ打電』軍司令部ハ二十日頃南京ニ移転、方面軍司令部ノ余香ヲ拜スルコトニ決定。何故早ク定メテ明日ノ入城式後直チニ落チツカサルヤ』

南京付近ノ俘虜四万ニ達スヘシト。城内ニ於ケル軍紀ノ点ニ就テ惡評ヲ耳ニス。残念ナルコトナリ。

◇ 十二月十七日 晴

〔予記〕 入城式

午後一時三十分開始、中山門ヲ經テ国民政府到着、国旗掲揚、東方遙拝、乾盃。

一、今日こそ待ちし入城式 一天隈なく晴れ渡り

中山門頭翻る

朝日の御旗仰ぎつゝ

進むは総帥二司令官

二、両側堵列の将兵は

戦友の御霊捧持して

老白髪加はれど

衝天の意気が漲りて

三、折しも空に大鵬の

翼を併へて飛び来るは

我荒鷲の一部隊

爆音轟々南京の

空を圧して余裕あり

門頭高く日の御旗

四、馬を進むる民政府

聲よ帝都に響けよと

揚けて挙ぐる弥栄の

聖戦茲に五閏月

五、嗚呼江南の戦場に

我万君の御恵みに

今こそ首都に入城し

四百余州も浴しなむ

午後六時軍司令官宮殿下御臨席ノ下ニ祝盃ヲ挙ケ戦勝ノ気分ニ酔フ。

国民政府ニ於ケル式ノ次第

一、閱兵者ノ一行国民政府到着（海軍長官ハ二時頃到着シ直ニ休憩所ニ入ル）

二、方面軍司令官、兩軍司令官同上各參謀長、各師

團長下馬休憩所ニ入ル

三、隨行員及其他參列者ハ附図第四ノ如ク速ニ集合

四、第二項諸官臨場、參列者一同敬礼

五、方面軍司令官以下、正門に正面（右向ケ右但シ、方面軍司令官海軍長官各軍司令官→横

隊）

六、国旗掲揚式並遙拝式開始号音吹奏（氣ヲ付）
七、国旗掲揚、軍樂隊君カ代吹奏、此ノ間参列者一同
挙手注目ノ敬礼

八、参列者東面（左向左、但方面軍司令官、海軍長官、各軍司令官、横隊ニテ東面）
九、方面軍司令官二步前進中央前ニ位置ス
十、方面軍司令官皇居ニ向ヒ遙拝、一同之ニ倣フ（喇叭君カ代）
十一、方面軍司令官発声ノ下ニ万歳三唱
十二、親補職以上退場（記念撮影）（参列者敬礼）
十三、参列者一同速ニ祝宴場ニ入場
十四、親補職以上臨場、一同起立（君カ代奏樂）
十五、乾盃（海軍長官ノ発声ニテ陸、海軍万歳三唱）
十六、方面軍司令官以下退場（方面軍司令官、海軍長官、兩軍司令官ノ順序）
十七、終了解散

◇ 十二月十八日 曇微雪

〔予記〕 方面軍慰靈祭施行

昨夜天候急変西北風強ク気温急降下ス。北側ノ日当リナキ室ニハ閉口ナリ。参謀長ハ朝来南京ノ方面軍司令官ニ招致セラレ軍司令官ノ訓示、方面軍ノ将来ニ就テ指示ヲ受ケ、松井將軍ヨリ直接口達サレシハ次ノ三件ノ由承知ス。

一、軍紀風紀ヲ緊肅スヘキコト

二、支那人ヲ馬鹿ニセヌコト。統制力、經濟力アレハ本回ノ如ク立派ナ行動ヲナス。

三、英米等ノ外国ニハ強ク正シク、支那ニハ軟ク以テ英米依存ヲ放棄セシム。

尚中央部ノ指示ハ現状ノ儘ナルモ浙江、河北ノ作戰必要、其準備。

午後二時故宮飛行場ニテ方面軍ノ慰靈祭施行、三軍司令官、艦隊司令官以下13 D 18 D 長ヲ除ク師団長及代表部隊参列、拝神礼両度懇ロニ万余ノ英魂ヲ弔ス。西北ノ風強ク戎衣ヲ払ヒ稍寒シ。

◎ 忠魂を弔ふ原や風寒し

◇ 十二月十九日 曇 「クリーク」ニ薄氷ヲ見ル

〔予記〕 軍司令官砲兵学校ノ野戦予備病院御見舞アリ。

新配置ニ基ク兵站命令ヲ出サル。

〔受信〕 家ヨリ二ノ広安慶夫ノ井田君平少佐ノ加藤英太郎大佐ノえつ子さんノ桜木俊一（名士分）ノ日田義子

てなか弾、なすか弾ノ実弾射撃ヲ実施ス。成果極メテ良好、何故斯ノ如キ有利ナル弾丸ヲ陣地戦ノ難戦中ニ送付セサリシヤ惜シカリシ由良之助ノ感大ナリ。但江陰及光華門ノ戦鬪ニハ幸間ニ合ヒ大功ヲ奏セシ由、森田少佐説明ス『軍紀上面白カラサル事ヲ耳ニスルコト多シ、遺憾ナリ。』

午後軍司令官宮殿下野戦予備病院第二十一班病院ヲ見舞セラル。砲兵学校ニテ更ニ設備ヲ加フレバ立派ナルモノトナルヘシ。約七百名近クノ入院患者アリ、宮殿下懇切ニ御見舞アラセラル。夜湯水鎮ノ温泉ニ浴ス。実ニ此種ノ入浴ハ上陸以來初メテナリ』

珍ラシク留守宅ヨリノ手紙届ク、何レモ十一月末發送ノモノナリ。凡一カ月ヲ経テ入手ス。矢張り内地ヨリノ手紙ハ懐カシキモノナリ。

年末手当留守宅ニ送附スル如ク手筈ヲナス。

◇ 十二月二十日 曇 寒シ

〔予記〕 南京攻略ニ就テノ聖旨伝達式施行

軍司令官FL/16D9D及光華門御視察。

13D滁県ヲ占領ス

〔発信〕 留守宅ニ／其他数通

朝七時半ニハ起床セシモ当番君飯ヲ運シテ呉レタノハ九・〇〇、木崎建築部長来訪、九・三〇ヨリノ聖旨伝達式ニ正ニ遅レントス。式後喫飯。

方面軍参謀長、同副長本日上海ニ帰ルトテ告別ニ来、国崎支隊及常設一カ師団ヲ引キ抜クトノ内報ヲ受ク（軍ニテ皆期セシテ16D）

午後〇時二〇分御出発中央病院ノFL/16D御視察現在百六十名ノ患者、輕傷多シ。次テ光華門ノ戦蹟ヲ36i長及歴戦中隊長（少尉）大隊長（中尉）ヨリ聴取セラル。次テFL/9D御見舞御帰部五時近シ。

夕食後参謀長ト共ニ御召ニ預カリ御談話ヲ拝聴ス。御職務上ノコトヲ碎ケテ御示シアリ、今日光華門ノ勇士ニ御佩刀ヲ賜フ旨ノ畏キ御旋ヲ拝シ尚審査スルコトトシテ引退ス。

◇ 十二月二十一日 晴

〔予記〕 ③軍司令部戦死者ノ告別式施行

③南京ノ日本人街建設ニ就テ軍司令官ノ決済ヲ受ク（第二課）

③第二課長ニ遺棄物蒐集ノ件ニ就テ軍司令官ノ意図ヲ伝達

上海ニ残セシ当番ト荷物モ到着スルダロウト待チ詫ヒルモ今日モ到着セス。高橋副官ニ依頼シテ平野副官宛照会電報ヲ発ス（午後）或ハ行キ違イニナルヤモ知レス。

去ル十三日軍司令部北方高地ノ自衛戦闘ニテ戦死セシ者数氏ノ告別式施行。後該高地ノ陣地ニ登リ弔意ヲ表ス。偶々軍司令官官殿下モ御登リ遊ハサレテ御降リ中ナリ。御元氣好サニ心強ク感ス。

N大佐ヨリ聞クトコロニヨレハ山田支隊俘虜ノ始末ヲ誤リ大集団反抗シ敵味方共ニMGニテ

撃チ払ヒ散逸セシモノ可ナリ有ル模様。下手ナコトヲヤッタモノニテ遺憾千万ナリ。

◇ 十二月二十二日 晴

〔予記〕 野戦衛生長官小泉中将来部／各部南京軍軍司令部ニ移転

長中佐業務打合せノ為メ北京ニ行ク。大内参謀天谷支隊及13Dヨリ帰来其状況ヲ聞ク。天谷支隊死傷一六〇、13D同六〇位、物資モアリテ心配ヲ要セス『小泉陸軍省医務局長来部、昼食ヲ共ニス。内地ノ状態官署ノ活動、聊カ心許ナシ。小田原評議多キカ如シ』将来ノ作戦企図ニ就テ軍司令官ニ報告（実ハ殿下ヨリ発意）其他二十四日ノ会議書類ヲ点検ス。

今日モ別段ノ要件ナシ、聊カ退屈ナリ、

S大尉無線通信ニ部隊号ヲ使用スルコトヲ上申シ来リシニ付却下、何ノ為メ部隊号ヲ用ヒス長ノ名前ヲ以テセンヤヲ知ラサルニヤ。

光華門ノ先頭將校ハ矢張り山際少尉ナリ。工兵ハ兵力先頭ニ進出シ日章旗ヲ掲ケン如シ。

◇ 十二月二十三日 微雨

〔予記〕 軍司令部南京ニ移転（首都飯店）

久シ振リノ降雨ナリ。午前九時五十分湯水鎮出發、途中新配置ニ就ク部隊ニ時々車ヲ止メラレ十一時過キ着、首都飯店ニ入ル。室ハ三階ノ北側ナリ、東カ開キアルハ幸ナリ、何時モ参謀長ノ傍杖喰ツテ日蔭者ナリ、又己ムヲ得サルトコロ。

上海ニ残セシ当番荷物ヲ宰領シテ都合好ク到着、如何ニ待チシコトカヨ、折田少佐、其他兵站部ノ他ノ職員ト同行セシナリ。着ノミ着ノ儘ノ生活約十日間。

午後雨ヲ衝イテ各部ノ屯スル高等法院ヲ視察ス。ホテルニ比シテ内部頗ル不良、旧式建物ニテ光線ノ具合悪シ。法務部長ハ我所ヲ得タリト謂ハン顔ナリ。獣イ部各部ニ先ジ良室ヲ占領セ

リトテ批難ノ声高シ。

久シ振リニ内地ノ新聞ヲ見ル。大毎読売ノ十五—十七日ノモノナリ。末次海軍大將ノ内務大臣就任。英米艦船爆撃ノ陳謝、等紙面賑フ。南京陥落ノ名残リノ記事亦多シ。

◇ 十二月二十四日 曇後晴

〔予記〕 3 D 9 D 13 D 16 D 天谷支隊内山砲兵旅団ノ各団隊長ヲ集合センメラル(午後ハ参謀長)

ハ・〇〇杭州占領

〔発信〕 橋本保一／てつ子さん／加藤保太郎大佐

午前十時ヨリ兵団長会同、午後参謀長会同(首都飯店軍司令部ニ於テ)將軍連中ノ聊得意ノ顔ヲ見テ愉快ナリ。Y將軍黙シテ余リ語ラス奥ニ休シ其参謀長M大佐殆ント各事項ニ就テ一言ナカルヘカラス。面白キ対照ナリ。

各部長ナトハ現役ニセサレハ不可。O部長ナト現役当時ハ錚々タルモノト思ヒアリシカ何タカ物足ラス、ドウシテモ意氣ニ於テ異ナル様ニ見ユ。
上記ニ宛テ葉書ヲ認ム。

◇ 十二月二十五日 快晴

〔受信〕 10/12 発 悦子、啓子、重義君、山口大佐

暇テ勿体ナイ様ダ。教育總監部カラ加藤工兵大佐、宮野中佐外二名ノ視察団来部、是等ノ人々ニ話ヲシタイ人ハ外ニ沢山アルカラ其方ニ廻ス。山口ノ聯隊長池田大佐参謀長来訪。昨年夏京城テ世話ニナツタ人ナリ。荻洲部隊長カラ到達シタト云フ鴨、鶏鍋ヲ共ニツツク。

下関、獅子林附近視察。市内ノ道路ハ大分片附イタガ未ダ不体裁ナ屍体ハ通りヲ離レタトコロニハ幾ツモ転ガツテ居ル。部隊其物ハ案外無関心デアル。軍隊ハ体操、乗馬ナト少シハ訓練

ニ乗り出シタ様ダ。司令部デモ今朝始メテ起床喇叭ヲ耳ニス、何ダカ変ナモノナリ。

18日21日23日朝日、読売ト云フ脈絡ナキ新聞ヲ受ケル。夫レテモ耽リ読ム氣持ニナル。蔣ハ愈々長期抵抗ニ決メタ様ダ。英国モ米國ノ出様ヲ眺メナガラ極東ノ事態ニ神経ヲ尖ラシテ居ル様ダ。

△注・欄外ブライベート部分二行略▽

◇ 十二月二十六日 快晴

〔発信〕 山本星彦、悦子、飯塚101長

〔受信〕 山谷尋常小学校 田代稔、津川豊彦

〔欄外〕 十二分ノ俸給及ボーナス受領

上海派遣軍軍歌一案成ル、経過ヲ序シ稍長過ギル感アリ。

午後宮殿下ニ随行、下関ニテ海軍内火艇ニテ浦口附近視察、次テ挹江門南側高地ノ防禦施設、太平門ノ戦蹟、富貴山砲台等ヲ視察ス。地下掩蔽部ノ設備実ニ規模大仕懸ニテ真正銘ノ要塞施設ナリ。未ダ十分完全ト云フ迄ニハ行カサル由ナルカ、費用ト日数ニ大分費シタルナラソニ之ヲ利用スル抵抗案外少カリシハ作戦指導ノ拙劣ト軍隊ノ訓練不十分ナリシ結果ナラシカ、何レニシテモ一兩年ヲ過セバ大シタコトニナツタモノダロト云フ感深シ。

日本軍カ英國大使館ノ自動車九台、米大使館ノ自動車六台強奪、尚南京自治委員ノ某及自動車一台掠奪サレ調査中トノ会報アリ。

△注・欄外二行は判読困難であるが以下のように読める▽

昨夕ハ引キ続キ電灯一本ツキシモマ駄目ナリ

◇ 十二月二十七日 晴後曇

東京ヨリノ視察者ダンダン多クナル。参本陸軍省ノ防空視察者、東京防衛参謀引率ノ防衛視

察ノ者□□等々(古閑健君引率シ来ル)

南京市内ニ在ル學術の貴重品ダンダン獲物ヲ漁ル無智ノ兵等ノ為メ破壊サレントス(風早大佐、時任中佐連絡シテ呉レタリ)第二課ニ所要ノ処置ヲ採ラシム。

軍司令官支那傷兵ヲ見舞フコトヲ発意セラル。実ニ結構ナル思ヒ付キナルモ警戒上尚ホ注意要スルモノアリ。

派遣軍軍歌稍々完了、自信アル迄ニハ行カズ。

◇ 十二月二十八日 曇後微雨小雪

〔発信〕 同左

〔受信〕 水上重彦

今日モ別段大シタコトナシ。

軍隊ノ非違愈々多キカ如シ。第二課ヲシテ各隊將校会報ヲ召集シ参謀長ヨリ警戒スル如ク手続キヲナサシム——来ル三十日午前十時カラ実施スルコトニ定ム。

13 D参謀長下野大佐明二十九日実施ノ上海ノ慰靈祭ニ飛行機ニテ赴ク途中、天候不良ノ為メ引キ返シ自動車ヲ出スコトトス——本夜夜通シノ行軍ナリ。

南京慰安所ノ開設ニ就テ第二課案ヲ審議ス。

竹内克己君ノ妹婿藥劑大尉野戰防疫部ニ勤務シアリトテ訪ネ来ル——氏名逸ス——暫ク会谈ス。

水上重彦大尉方面軍司令部ニ勤務スベク着任セリト、全ク奇縁ナリ。手紙ニ津田大佐^{オホナカ}大中佐ノ名刺ヲ入レテ来ル。角副官ヲ紹介(歩二四出身)スヘク手紙ヲ書ク「降雨夕刻ヨリ雪トナル。

◇ 十二月二十九日 曇

〔予記〕 軍司令官殿下ノ御話相手ニ伺候ス。

昨夜方面軍ヨリ英独ノ領事帰南スルニ付テ自動車ヲ出シテ便宜与ヘラレタシトノ通報アリ、本日ハ入京セス明日ニ延期トナリシ由。尚取扱ニ就テ特務部幹旋者ナシ。

午後16 D及10 Aノ野戰予備病院及野戰病院(政治学校)ヲ御見舞アラセラレ御伴ヲナス。F L/6 Dニテ13 iノ野口曹長アリ、嘗テ大隊長時代ノ書記タリシ者ナリ。奇遇ナリ。向脛ヲ砲弾破片ニテヤラレシ者ナリ。

夜殿下ノ御話相手ニ伺候ス。十時過辭去ス。

方面軍マデ機密費ノ状況ヲ報告スベク電報来ル。五月蠅キコトナリ。

明日米領事帰任ニ付キ御厨少佐折衝ノ要件ニ就テ第一課又タ横槍ヲ入レ聊カコンガラガル。面倒臭キコトナリ。

十一月二十四日発送ノ小包(襦袢袴下沓下)到着ス。

◇ 十二月三十日 晴

第十六師団ノ慰靈祭国民政府構内ニ於テ午前十時半施行セラル。軍司令官殿下御参拝、参謀長以下幕僚又参拝ス。

午後一時半將校会報、佐々木警備司令官亦出席軍紀風紀及警備事項ニ就テ指示ス。

午後三時軍司令官殿下ニ対シ年末御祝言上、軍司令官又儀礼的訓示ヲ遊バサル。

午後六時宮邸ニ課長以上夕食ニ招待、歳末相当ノメートル挙ル。

N君例ニヨリ御目出度シ。

輕装甲車ノ藤田少佐本日来訪、昼食ヲ共ニス。

東部防衛参謀 歩兵大佐 古閑健^{コハタツネ}
25 期

独立輕装甲車第二中隊長 藤田実彦^{コハタツネ}

◇ 十二月三十一日 曇

遂ニ此日誌トモ御別レノトキガ来タ。

今日ハ父上ノ一周忌ニテ謹テ黙禱ヲ捧グ。

午後町ノ容子ヲ一巡ス。避難民、雜居芋ヲ洗フカ如シ。然シ割合ニ朗カナリ。

正月の来るすきもなき避難民

将校の家には甘い具合に門松立てり

門松もちらほら立てる南京市

戦地の独り者は年越吞気なり

年越しの支度もいらぬ年の暮

夫れで湯に入りて聊か御供へなどなす

戦場の垢落しけり大晦日

御飾りも出来て正月這入り来る

越そばナケレド伊勢エビニテ年越シノ食事ナス。

伊勢ゑびを食って年越すみそかな

△注・以下は補遺の頁にある年越しの随想▽

昭和十二年を送る 於南京城内首都飯店

戦地の占領せし「ホテル」に位置せる軍司令部も何となく年越の宵は朗かなるものあり、其

騒ぎも何時か消えて室内は「ストウブ」の燃ゆる音のみ、ダンダンと思ひ出多き年は更け行く。

年越の騒ぎも消えて寂しくも

思ひ出多き夜は更けゆく

去年の今日は父みまかりし日にて、慌だしく東京を発ちて郷里に向へけり。征旅の身は

一周忌の供養も営むに由なく當時を追憶して遙かに冥福を祈念す。

逝きまして早や一年なりにけり

思は馳する故郷の山

八月出征以来只多忙ニシテ月日ノ経ツノカ如何ニモ早キ感アリ。静カニ往時ヲ回想スレハ感慨ニ無量ナルモノアリ、只案外ニ都合好ク戦闘モ進捗シテ図ラスモ敵ノ首都南京ニ於テ本年ヲ送ルコトカ出来タノハ実ニ幸タト思フ。

征旅 五月 唯 匆忙

回顧 今宵 万感湧

戦事 幸只 進好調

南京 陣営 送歳暮

補遺

題南京入城

從軍司令官殿下入城

戦十三旬屠ニ首都ニ

南京城頭旭旗旒

凱歌今日祝ニ入城ニ

三軍堂々進城門

声圧ニ江南ニ天地振

将是朝香中將宮

正是昭和聖代華

昭和聖史光輝照

弔忠魂

今日の日を待ちつつ散りし戦友の 御魂も空に天かがるらむ

×

万余人の友の御たまも安らけしく 鎮まるがごととあと固めなむ

×

○ 戦の後の容子や如何ならむと 車飛ばして南京を見つ

○ 南京の城の砦は堅けれど 守る人なき没落の国

○ 南京の町に皇軍充ち満ちて 掃蕩戦の銃声響く

- 主なき首都の姿は残れども 敗残の跡痛ましく見ゆ
○ 紫金山麓に眠る中山霊あらば 道あやまりし人を責むべし

昭和十三年〔以下は抜粹〕

◇ 一月一日 晴

〔特別事項〕 一、南京自治委員会発会式

一、蘇大使館焼失

敵首都南京ニ宮殿下ヲ軍司令官ニ戴キ思ヒ出多キ新年ヲ迎フ。一〇・〇〇殿下二年賀、次テ東方遙拜次テ殿下ノ御発声ニテ聖寿万歳ヲ力ノ限り奉唱、次テ首都飯店玄関前ニテ記念撮影、終リテ食堂ニ於テ祝盃ヲ挙ク。管理部ノ努力ニテ正月ラシキ御料理ナリ。爾後軍司令官邸ニテ正月ラシク過ス。

二・〇〇過露国大使館邸出火消失ス。原因不明ナルモ相当問題ヲ惹起セサルヤ心配ナリ。
(之ヲ承知セルハ七・〇〇頃、方面軍司令部ニ報告ハ九・〇〇頃トナル)

南京自治委員会発会式挙行。参謀長出席。

△短歌三首、聖寿万歳、初日の出、五〇歳を迎えて△

◇ 一月二日 晴

馬ヲ驅リテ北極閣方面ヲ一巡ス。一時間余、余程秩序立チテ道行ク兵ノ敬礼動作モ好シ。

△軍司令官邸に伺候△

陸軍省人事局長ノ一行(諫山大佐、稲田中佐、額田中佐外三名)夕方来着、夕食ハ幕僚ト共

ニ会食。

△初風呂。午後二時敵五機南京空襲、被害無シ△

諫山大佐ノ談ニ依レハ吾人モ共ニ三月ニハ少将ニ進級スルコトヲ得ヘシ然シ其以前ニ派遣軍司令部ハ凱旋スルコトニナル模様ナリ。

◇ 一月三日 曇、寒シ

〔特別事項〕 一、司令部野外騎乗。一、電灯点ク。

〔通信〕 △六名・氏名略△

△諫山大佐に留守宅宛手紙委託△

△軍司令部野外騎乗。宮殿下先頭に中山陵、革命記念館方面△

△辰大尉来訪(腰部貫通銃創)。溝口大尉戦死(辰大尉談)△

本夜飯店本式ニ電灯点灯ス。電灯ト絶縁セシコト四カ月、其有リ難味ヲ感ス。

参戦ノ優秀将校ニシテ戦場ノ成果思ハシカラサル者相当アルカ如シ。困ッタコトナリ。「戦場ハ其人ノ真価ヲ表現ス」真ニ然リ。

◇ 一月四日 晴

〔特別事項〕 一、重藤支隊参謀ヨリノ〔以下不明〕

〔通信〕 △来信四△

朝食後諫山大佐ト要件ヲ話ス。

午後16D司令部ニ参謀長ヲ訪問、師団長室(国民政府委員長室カ)備付ノ陶器ノ件ニ就テ調査ヲ依頼ス。

雨花台、清凉山方面「ドライブ」見聞ヲ広ム。雨花台ハ成ル程南京市ノ死命ヲ制スル要地ナリ。ベトン製掩体ナドアリ防備堅シ。敵屍尚散逸ス。脚下ニ在ル金陵造兵廠、新式ニテ設備規

模広大優秀、之レカ真ニ動キ出シタラ大シタモノナリシナランモ未タ動カシアラサリシカ如シ。

△此日記送付し来る、曆は入手出来ず。▽

◇ 一月五日 晴

補任課出張者額田中佐ト人事問題ニ就テ会談、終日大体無為。

青幫ノ秋葉某、長中佐ノ紹介ニテ徐州方面ノ偵察ニ派遣。本夜参謀長ノ指示ヲ受ク。(本夜)本夜参謀長、西原大佐、諫山大佐ト予ノ室ニ於テ会食、西原大佐ノ鶏、鯉ノ御馳走ニナル。人事局長本日離京、帰途ニ就ク。

◇ 一月六日 曇 寒シ

〔予記〕 鹵獲兵器試験射撃(16D)ノ参謀長方面軍司令部ニ

〔通信〕 留守宅へ(諫山大佐托)

参謀長ハ・〇〇〇発上海方面軍司令部ニ。

諫山大佐ノ一行帰途ニ就ク相当ノ收穫アリシ如シ。

午後16Dノ鹵獲兵器ノ射撃ヲ殿下ニ随行シテ視察ス。自動短銃、同小銃、拳銃、Lg、MG、火炮等中々装備良好ニシテ我兵器ニ優ルトモ劣ラス大シタモノダト云フ感ヲ懷ク。後軍官学校、参謀本部、国民政府ナト視察セラル。蔣介石ノ邸宅ナト内部迄御目ニカクレハ好イモノヲ遙カニ御遠望丈ニ止メタルハ師団長ノ居住シオル為メナルヘシ。此師団長ニ好感ヲ持テス。

参謀長夕刻帰来、状況ヲ聴取ス。進出ノ意ナシト。

本日「アメリカ」領事上陸、感シ好シ。英国B艦長又「トリック」ヲ設ケテ上陸、感シ甚タ悪シ、不都合ナリ。

本日31/12-4/1ノ新聞ヲ見ル。

「アメリカ」領事〓ジョン・M・アリソン(のちの駐日大使)
英国B艦〓Bee号

◇ 一月七日 晴

〔通信〕 庄野少佐、鎌田少佐、外四名略。

大体無為ニ過ス。

午後兵器部長ヨリ「要塞処理方案」ヲ聴取ス。

藤田少佐カ昨日軍参謀ノ頭髮ヲ伸ハシアル件ヲ攻撃セシ由、馬鹿ナ男ナリト云フ感ス。是レニ便乗セシ第一課ノ参謀共モ又ドーカシテル心地ス。軍紀肅正ノ的ハ他ニ在ルヲ知ラスヤ。

△家族の手紙に關して▽

◇ 一月八日 曇 寒シ

〔通信〕 △三名▽

△根岸経理部長より業務通報▽

本郷参謀ノ報告ニヨレハ英国B艦長機嫌甚タ好転セシ由但衣糧廠ノ撤去ハ己ムヲ得サルヘシ。

憲兵報ニヨレハ軍紀上ノ非行者相当アリ、召集少尉、准尉級ニ破廉恥行為アルハ遺憾至極ナリ。

△忠霊塔、考科表の件▽

◇ 一月九日 晴

〔予記〕 賀陽宮殿下御来部ノ水道開通

賀陽中佐宮殿下御着京。軍司令官宮邸ニ御一泊、午後七時半ヨリ幕僚ト御会食、十時五十分解散。

午後一時間程玄武湖ヲ馬ニテ散策ス。冬ノ陽光気持好ク照シ、風光明媚心気爽快ヲ覺ユ。

上海派遣軍野戦衣糧廠(長主計大佐 吉良吾市)

△水道開通。当番兵頭痛（「マラリヤ」発作）△

本郷少佐本夜英、米、独ノ領事ト会食セリト。英モ大分理解シテ好転セシ由ナリ。

蔣介石離海線ノ遮断ニ胆ヲ潰シ攻勢ニ出ツベク指令セシ由情報アリ。又「ゲリラ」戦術ニテ我後方ヲ擾乱スヘキ旨指令セシ由。

◇ 一月十日 晴

〔予記〕 紫金山、幕府山視察

軍司令官宮殿下、賀陽宮殿（下）ニ随行シテ紫金山頂ニ33 iノ戦況ヲ聴ク第六中隊ノ夜襲ノ如キ相当ノ教訓ヲ得。20 i左翼ニ在リテ戦績思ハシカラサリシ由、天文台上ニテ昼食康生東ノ炊爨ニヨル御馳走ナリ。次テ幕府山砲台御視察午後四時過キ帰部」噂ニ依レハ独大使仲ニ入りテ蔣介石トノ構和斡旋中ナル由、帰還モ不遠コトナルヘシ」明日避難民第二区ニ一部ノ住民ヲ帰還セシムル由、尚英國側モ能ク軍ノ要求ヲ聴キ入レ相互ノ感情余リ悪カラサル由」

△堤大尉来。雑誌類配給△

◇ 一月十一日 晴

〔予記〕 ○賀陽宮殿下御出発／○雨花台、中華門方面ノ戦蹟見学

〔通信〕 西少佐ヨリ下着ノ贈物アリ。

軍司令官宮、賀陽宮兩殿下雨花台、中華門ノ戦蹟御視察、6 D下野参謀長10 A堂脇参謀御説明、中華門上ニテ図ラスモ47 i三明大尉ノ説明ヲ聴ク。同大尉ハ曾テ参謀本部ノ第一部ニ在リテ書記トシテ勤務セシ旧知ナリ。6 D方面ノ「劇戦」ナルモノ丸テ派遣軍ト桁違ヒナリ。

本郷少佐ノ談ニ依レハ南京ニ来レル外交官ニテ独乙カ最モ感シ惡シトノコトテ意外ノ思ヲナス。或ハ我カ内兜ヲ見透カシ「事変ノ仲介役ハ吾ナリ」ト云フ潜在意識アルカ或ハ在上海猶太財閥ノ尻押シカ？。

△参本庶務課西少佐より下着送らる。「バット」三個加給△

◇ 一月十二日 曇 東風寒シ

〔特別事項〕 ○軍司令官宮殿下ヨリ伍詰ノ下賜アリ。

◎理髪して頭の寒さ覚えけり

今朝ハ紫金山ノ雄姿明瞭ナレト暗雲瀰リテ天候陰惡ノ兆アリ。東風漸次強ク為メニ寒シ。

参謀総長殿下ヨリ軍紀風紀ヲ緊肅スヘキ電報ノ来シヲ観テ恐縮ニ不堪。

「アメリカ」大使館ニ対スル非行事件ニ就テ参謀長カ陳謝ノ意ヲ表スコトハ不都合ナリヤ？

ノ疑問解ク能ハス。

16 Dハ愈々来ル二十二日ヨリ北支ニ転送ヲ開始スル由ナリ。

◇ 一月十三日 曇 風寒シ

種々面白カラヌ話ヲ聞キ不愉快ナリ。①Y参謀盛ニ課長ノ惡口ヲ衝ク。部下ノ身上ノ面倒ヲ見ス、自己吹聴榮転ヲ予期セシカ近頃ベシヤンコ、軍紀厳正ヲ叫ビツツ処分ヲ忌憚ス etc、

②x D長盛ニ軍ノ惡口ヲ衝ク、③S將軍軍ニ衝キカムル……『△午後乗馬△』

岡崎領事ノ談ニヨレハ日独当事者ノ惡化ハ言語ノ翻訳ニ依ル錯誤ニ因スルモノ相当ニ在ルカ如シ。

重藤少将、波田少将ト入替リハ先般来S少将ノ行動ニ因スルモノカ、惜シキコトナリ。幕僚モ又不都合ナリ。

△織田兵站司令官来△

北方作戦ニ就テ又々意見具申ヲナスヘク御下命アリシ由、余リシツコク出ラサルヲ可トセンニ。

◇ 一月十四日 曇後稍晴

〔予記〕 歩十二主力揚州ヨリ南京着

〔通信〕 波田少将（祝辭）

△參謀長の手伝い（考科表、拔擢）。兵站演芸会△

歩十二聯隊本々南京着、軍旗ヲ出迎エ安達大佐ニ会遇ス。余リヤツレテモ見エス兵モ元氣ナリ。

宮崎憲兵大尉ノ越権行為アリ16D參謀長ヨリ軍參謀長ノ許ニ抗議ヲ申込ミ来リシ由、小山憲兵隊長ハ着早々ガス中毒且ツ腎臓ノ痼疾アリテ臥床中ナリト、依リテ元隊長高藤少佐ヲ招致シ一応取調ヲナス。

△松田、長岡、青木各海軍參謀の送別会△

◇ 一月十五日 曇 密雲低シ

午後大西大尉ノ巡視ニ基ク宜撫工作等ノ報告ヲ聴取ス。宜撫班モ金ト力ナク困リアルカ如シ。特務部ノ手カ廻ラサルナリ。上海ノ自治政府ハ二月初頭ニハ店開キノ予定ナリト。

軍医部長ノ統計的調査ニヨレハ派遣軍ノ昨年末迄ノ犠牲者左ノ如ク高価ナルモノナリ。

戦死 一六、六〇九

傷病

總計

病死 一、七九六

計 一八、四〇二 八六、〇〇七 一〇四、四〇九

宮崎憲兵ノ行動聴ケハ聴ク程非常識ト非行多キカ如シ。困ツタモノナリ。

△安達大佐来部△

歩兵第十二聯隊長 安達^{はたが}二十三^{ごう}22
期大佐

◇ 一月十六日 晴 夜東風強シ

〔特別事項〕 22i着京／16D転用発令

西原第一課長ハ連絡ノ為メ上海へ。参本第八課長大津大佐^{*}視察ノ為来京、天谷支隊高級副官、西部防衛參謀少佐来部。歩二二聯隊又本夕到着ス。

第十六師団二〇、三三兩聯隊感状申請。第二課、第三課ニ廻ス。同師団北支方面転用ノ命令発令。

△大津大佐の為第三課主催の夕食会出席。短歌三首△

◇ 一月十七日 小雨

〔特別事項〕 16D送別会食

〔通信〕 留守宅／慰問袋一ヶ

西原大佐方面軍ト連絡帰部、独逸大使ヲ通シテ媾和条件ヲ示セシコトモ承知ス。蔣之ニ応セス御前會議トナリ蔣政權否認ト迄漕キツケシナリ。

本夕御殿ニ第十六師団長以下団隊長ヲ集メ送別会食ヲ催フサル。師団長トS少将論議喧シ。S少将聊カ過キテ宮様ノ一喝ヲ受ク。両方共負ケ嫌カ多弁カ見苦シキモノナリ。

△慰問袋（送り主、神戸市・前川久子）△

◎御しゃべりの中にしまさんけさごろも着せて佐々の木一も倒れず

◎吼ゆる白奴にブル公がかみつき野田の中にて騒ぎだす

◇ 一月十八日 曇後晴

〔通信〕 △三名△

△午前軍楽隊演奏。乗馬。夜活動写真。徵募課長柳田大佐来部△

参本通信課長 工兵大佐 大津和
郎²³期

軍務局徵募課長 歩兵大佐 柳田
元²⁶期

◇ 一月十九日 微雨

〔特別事項〕 徳川圀順侯／軍馬補充部本部長来京

〔通信〕 一名◇

△偕行社記事一月号到着。参謀本部門松大尉と会談。夜安達大佐、柳田大佐と会合。芳村参謀の報告誤り（安達大佐の話）◇

◇ 一月二十日 雪 西北ノ風強シ

△柳田大佐出発。大西大尉9D慰霊祭に出発。佐々木少将明日の出発挨拶に来部。芳村参謀より感状申請書類受領。英国材木買入の件（本郷参謀）。外国人に酒保の品物の一部販売の件◇

◇ 一月二十一日 晴

〔通信〕 六名◇

△9i本部を南京駅に見送り、誤って発車し堯化門で下車、帰部◇

掠奪婦女拉致等軍紀問題ニ関シ「アメリカ」領事東京大使ニ「外交官無力、軍部統制ノ意志ナキ」旨打電セシ由、参謀次長ヨリ真相取調ヘ方要求シ来ル。本郷参謀ノ交渉ニ由レハ領事ハ陳謝セシ由、16D司令部附大尉二、通訳二ノ不軍紀事件憲兵報告ニ接ス。不都合ナル奴共ナリ。尚緊肅ノ要アリ。

△二神少佐、榊原少佐の送別会食、長中佐に会う◇

◇ 一月二十二日 晴 淡雪未ダ解消セス

〔通信〕 一名◇

△表忠塔建設の件。野田大佐転任挨拶。押目大尉転出。夜大使館に領事招待。16D長早曉南京

出発、軍司令官殿下外幕僚見送り◇

◇ 一月二十三日 晴

〔通信〕 一名◇

参謀長ノ話ニヨレハT中佐加藤勘十ヲ酔余ヤツツケタト云フ風評飛ヒアル由（事実ニ相異セルカ如シ）又M憲兵大尉ニハ忌ハシキ風聞アリ（①調査中兵傷害致死、②五、〇〇〇円位貯金シアリ……）果シテ如何ナルモノナリヤ？

△夕食殿下の宿舎に御招待。押目大尉転出挨拶。9D13D戦死誤報告（特別進級）。支那爆撃機蕪湖爆撃、多少損害あり◇

◇ 一月二十四日 晴

参謀長ハ連絡ノ為メ第十三師団司令部ニ、薄暮帰部◇

内山重砲旅団長江北作戦ニ関スル砲兵用法ノ意見具申ヲ軍司令官ニ口頭ヲ以テ申告、敢テ直接申上ケルマテモナキコトナリト思フ◇

△感状一通り見る。芳村中佐に処置指示。夜「ニュース」映画◇

佐々木旅団司令部、野田聯隊本部南京埠頭ニテ乗船、夕刻西原大佐ト共ニ告別ニ行ク。佐々木少将一杯聞召シテ声雷ノ如シ。此間カ副官モ一番吞気ナトキナリシカ△夜眠れず◇

◇ 一月二十五日 曇 夜東風強シ

〔通信〕 上野亀甫少将、笠藏次少将「陣中見舞」

△台北より厚東在郷少将、上海兵站病院長伊佐大佐、藤田少佐14D参謀に移籍挨拶、笠少将陣中見舞品（塩ウニ、乾ウルメ）◇

第十軍方面敵ハソッロ我配備ノ間隙ニ乗シ這イ出シ来ルノ状勢ナリ。始末セサレハ五月蠅

徳川圀順侯 日本赤十字副社長、貴族院議員

上海派遣軍兵站病院長 軍医大佐 伊佐信男

キコトナランカ』米大使少シ神經衰弱的症狀ヲ呈ス。無キ非行ヲ領事館ニ申込ミシ由』
《夜、朝日新聞主催慰問団(エンタツ、エノスケの漫才)》

◇ 一月二十六日 晴

〔特別事項〕

○13 Dニ行動開始ノ命令発令

○城外飛行場空襲(一〇・一〇過キ)

〔通信〕

《五名》

第十三師団ノ作戦行動ハ軍司令官独断ニテ決行、28日行動ヲ開始スヘキ軍命令発令。尚独断ノ是非ハ敢テ論スル限リニアラス。司令官宮殿下ノ鞏固ナル御意思如何トモナシ難シ』《山口少佐来訪》

33 i 第八中隊天野某中尉ノ非行偶々本郷参謀ニヨリテ発見、出発ヲ明早朝ニ控エタル本夜大隊長ヲ招致シ、其取調ヘヲ命スルト共ニ天野部隊関係者ノ出発ヲ停止シ、憲兵隊長ニ取調ヲ命ス。遺憾千万ナリ。右ニ関連シ「アメリカ」領事ニ本郷参謀陳謝ノ余儀ナキニ至ル。

《短歌一首》

◇ 一月二十七日 晴

〔特別事項〕

西原大佐命令ヲ持参13 Dニ行ク

《松井七夫中将より土産に海苔。香川県より慰問品(干魚)》

昨日ノ空襲海軍機及人馬ニ若干ノ損害アリ。敵機撃墜確実ナルモノ二、蘇聯人二墜死二逃亡。本日海軍機敵打チニ行キシモ漢口ニ敵機ナシ、南昌ニハ戦闘機制空、若干人ノ損害ヲ受ケテ帰着。

天野中尉ノ取調ニ就テ憲兵報告……昨夜ノ勢当ルヘカラス、大隊長不甲斐ナクモ統御出来ス。残置命令ヲ当番兵ヲシテ伝達セシム。法学士、弁護士中々法網ヲクグルコト心得アリ、憲

兵ノ取調ニ対スル答弁妙ヲ得タリ。嚴重処分ヲ見ス。

今日又「アメリカ」人ヲ兵カ殴打シ問題ヲ惹起ス。実ニ困ツタコトナリ。本郷参謀大ニ苦心ス。

《短歌一首》

◇ 一月二十八日 曇

〔特別事項〕

13 D作戦行動開始

十三師団鳳陽ニ向テスル作戦行動ノ火蓋ヲ切ル。支那側ハ敗軍ノ将ノ死刑免官ニテ大ニ肅正ノ実ヲ拳ケントシ、徐州方面ニ兵力ヲ集中シテ頑強ナル抵抗ヲ試ミントナシアル如キ景況ナルカ師団ノ戦果些カ氣ニ懸ラサルニアラス』9 Dモ又昨日来太湖内ノ半島ニ在リト予想セラル敗残兵ノ掃蕩開始、余リ獲物ハナキモノノ如シ』

《松井中将発熱、最高法院にお見舞い。在郷軍人会篠田中将三十日来。参本II部長本間少将三十一日到着予定。38 iの船出見送り。上海派遣軍軍歌について。短歌一首》

◇ 一月二十九日 曇午後雪降り出ス

33 iノ天野事件軍法会議ニ附スルコトニ決ス』其他法務部長ノ手許ニ軍法会議事件アリ、軍司令官ノ決裁ヲ受ク』伊太利ノ支那駐在武官来部、軍司令官殿下ニ拝謁ス。大使館ノ自動車ハ日本軍ニ取ラレスナト大ニ親善振リヲ發揮シアル由ナリ。

《午後牡丹雪降出す。13 D中隊長以下十二、三名の損傷。第二課より雑誌『改造』借読(江戸城明け渡しに於ける勝、西郷の応酬が参考)。睡眠十分。短歌一首》

◇ 一月三十日 曇

〔特別事項〕

在郷軍人会慰問団来京

△上海派遣軍軍歌に就いて△

感状一応協定ヲ了シ參謀長ニ提出ス。純理論丈ニテハ行カス、統帥ト云フコトモ考慮セサルヘカラス。

△13 Dの行動順調。篠田中将一行来着。短歌二首△

◇ 一月三十一日 曇

〔予記〕 △短歌一首△

△密雲低く飛行機飛ばず、本間少将、武藤大佐来らず。北島參謀13 Dと連絡に汽車で行く。在郷軍人会一行と軍司令官邸で会食。午後參謀長、西原大佐と感状を審議。夜本郷參謀を招致、後雜談（同參謀の性格を今まで少し見違えたる点あり）。野田海軍機関大佐来。短歌一首△

◇ 二月一日 晴

〔予記〕 一般航空郵便取扱／理髮

〔特別事項〕 ○荻洲部隊臨淮関占領／○外国領事招待／部屋ニ「スチーム」通ス。

本間少将一行飛行機ニテ来着。本郷少佐外人關係事項説明。本間少将ノ談ニ依レハ特ニ先般来軍内ニ勃発セル外人關係ノ事項ノ調査ニアラスシテ単ナル連絡ノ意味ナレドモ外国關係ニ於テハパネー号事件ノ現地調査ノ意味モ含マレアリ（表向）、武藤大佐モ来部、13 Dノ北伐戦ニ就テノ指導含マレアリ、中央部ニ於テハ臨淮関北方ノ河ヲ超エテノ前進ヲ阻止ス。此旨13 Dニ電訓ス。

天谷少将警備宜撫ノ根本方針ニ就テ軍ノ真意ヲ質問、偶々武藤モアリテ好都合、臨時政府ノ置場所トシテ将来ハ最善ノ状態ニ在ラシムヘキコトヲ希望ス。

斯クテ本日ハ終日參謀長室ニ於テ右ノ如キ会談ヲ了ル。

夜大使館ニ英、米、独等ノ領事ヲ招待（本間少将ノ名ヲ以テ）シ晚餐会談、大ニ彼等ノ心境

ヲ軟ラケ多大ノ効果アリシ如ク觀察セラル。今後ノ成果果シテ如何？

◇ 二月二日 曇 八・〇／・〇四

〔特別事項〕 荻洲部隊 埠鳳陽占領

〔通信〕 一名

△本間少将一行と会食。夜大使館に被招待、日高參事官等と会食（軍司令部課長以上、警備司令官及副官）。山下輜重兵少佐着任。荻洲部隊蚌埠、鳳陽占領。西原大佐復員後陸大教官に転出の様子△

◇ 二月三日

〔通信〕 △四名△

西城八十作「皇軍南京に入城す」

△略△

△參謀長、地鎮祭参列のため上海へ。荻洲部隊鳳陽附近淮河右岸の要地占領。内地新聞、中央公論到着△

◇ 二月四日 曇後雪

〔特別事項〕 表忠塔地鎮祭

△大場鎮表忠塔地鎮祭。日高參事官来訪。△

長中佐起案ノ状勢判断ニ就テ殿下ノ明快適切ナル御所見ヲ拝聴ス。尚種糧減少ノ様子ニ配慮アラセラル。又紀元節ノ行事ニ就テ御下問アリ、細心ナル御注意ナリ。

△荻洲部隊は北面して警備態勢に移る。南方に敵集団あり、蔣介石は10 A正面に於いて攻勢に出るべく指示せりという。情報によれば敵は微力△

◇ 二月五日 曇後晴

〔通信〕 留守宅母上外二通

参謀長夕刻汽車ニテ帰来、三日間ニ亘ル書類ノ幅湊ニビツクリノ体、当然ノコトナリ。

感状案一瞥セルガ大斧鉞ヲ加フルヲ要ス。幕僚其人ヲ得サレハ実ニ苦勞ス。

△手紙数通一斉に来る△

◇ 二月六日 曇微雨

〔通信〕 △四通△

△天谷、安達両部隊長の講話、連絡不十分でお流れ。午後湯水鎮歩兵学校で「か^{*}弾」実験見学、余り思わしからず。帰途慰霊祭場を点検。六・〇〇松井軍司令官到着、停車場出迎え、宿舎大使館伺候。夜殿下松井軍司令官を招待△

◇ 二月七日 曇後晴

〔予記〕 兵ノ音信ニアルコトナキコト誇大ニ報告スルモノアリ。結構是等ノコトカ誤解ヲ受ケル元トナル。

英霊二万余ノ慰霊祭挙式、畏クモ軍司令官宮殿下祭主トナリテ取り行ハセラル。畏キ極ミナリ。松井軍司令官モ参列セラレ予ハ参謀総長代拝ヲナスノ光榮ヲ担ヘリ。幸ニ天気モ好転シ寒サモ強カラズ。

終了後松井大將感想ヲ述ヘ軍紀ノ肅正ヲ参集団隊長ニ訓示セラル。本夜団隊長会食ノ後モ支那人可愛ガリ真ノ親日ヲ培ヘト希望ヲ述ヘラル。少シハ軍司令官ノ氣持モ徹底スルナラン。

本夕参加団隊長会食、上海派遣軍軍歌ヲ紹介シ盛會裡ニ解散。後工藤少将ハ自室ニ於テ会谈、□□少佐、堀場ノ両氏ト会谈ス。

◇ 二月八日 晴

首都飯店玄関ニ於テ松井軍司令官、朝香宮軍司令官殿下ト共ニ記念撮影。松井軍司令官兵站病院見舞。挹江門脇ニ於テ支那軍戦死者ノ慰霊祭ヲ□□ニ取り行フ。「敵ニハアレト亡キガラニ花ヲ手向ケタル武士道ノ情ケナリ」自治委員会ノ一行、日支ノ僧侶参列ス。

△午後松井軍司令官から感状の裁決を受け、飛行場に出発を見送る△

夕食ニハ上海ヨリ来レル新聞通信四三名及大使館員ヲ参謀長招待。

△身体だるし。約一万の敵が西方蘆州に進入東進中と△
新聞ニヨレハ広東ノ革命ヲ初メ支那内部ニ相当ノ動揺アリ。独ノ政変、英ノ大使更迭等。日本ニ有利ナルハ愉快ナリ。——真相ニアラストモ——

◇ 二月九日 晴

〔特別事項〕 十一戦隊司令官招待

〔通信〕 発、安藤利吉中将

午後六時半下関碇泊ノ第十一戦隊司令官近藤栄治郎少将の招待ヲ受ク。吾等幕僚四人、田尻碇泊場監、天谷少将及其副官ノ七人ナリ。狭苦シキ船室ナレト相互飲ヲ尽ス。戦隊幕僚（篠原……）艦長粕本、戦隊機関長御子柴等ノ諸士サービス大ニ務ム。午後十時過キ辞去ス。

新ニ軍司令官付ニ移転サレシ広田航空兵中佐着任ス。
△午後、月浦鎮の戦闘に就いて天谷旅団長の講話あり△

◇ 二月十日 曇 寒シ

〔特別事項〕 鎮江視察

△軍司令官宮殿下の鎮江視察同行、鎮江で「か弾」実験、砲兵部隊視察、3D司令部で昼食、

「か」弾は火焰彈の意

中支那碇泊場監 陸軍少将 田尻
昌次¹⁸期